資料４－４－５

奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方

環境省那覇自然環境事務所

平成２１年１月

目　次

概要　1

1．背景　2

2．奄美地域の現状　2
（1）自然環境の特徴　2
（2）地域文化の特徴　4
（3）社会環境　5
（4）これまで行われてきた自然資源の保全・活用に関する取組　7

3．奄美地域において保全・活用すべき資源　11
（1）亜熱帯照葉樹林とそこに生息・生育する動植物　11
（2）サンゴ礁地形の発達した海岸等　11
（3）自然資源と密接に関わりのある地域文化　12
（4）島ごとで特に注目すべき資源　12

4．奄美地域における国立公園の指定について　13

5．奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方　14
（1）国立公園として保全・活用を図ることが適当な地域　15
（2）国立公園として保全・活用を図る際に特に留意すべき事項　15
（3）国立公園とその他の地域との関係　17
（4）国立公園と世界自然遺産との関係　18

概　要

奄美地域の自然及びそれと相互に関係しながら営まれてきた地域社会の暮らしや文化は、地域にとって重要な資源であるとともに、国内的にも国際的にも価値の高いものです。それらの自然資源などを保全し、活用していくためには、関係者が連携・協力していくことが重要ですが、その際、国立公園を指定して、その制度を活用することが適当と考えます。

奄美地域での国立公園は、二つの点でこれまでにない新しい国立公園になり得ると考えます。一つは、亜熱帯照葉樹林を中心とする生態系全体を管理していく「生態系管理型国立公園」であること、もう一つは、千年以上にわたり人間と自然が深く関わり調和してきた関係そのものを扱う「環境文化型国立公園」であることです。

世界に類を見ない固有種・希少種が生息・生育する亜熱帯照葉樹林を中心とする生態系とそれが醸し出す景観を保全するためには、生態系全体の管理手法にまで踏み込んでいく必要があり、「生態系管理型国立公園」を目指します。

また、奄美地域の森や川、浜などの自然資源は、伝統的な人々の暮らし、営みなど、文化と深く関わりを持ってきました。その関わりが、現在の自然資源の姿を形作ってきたとも言えることから、関係そのものを守っていく意識を持って、住民と利用者がともに楽しみ、ともに守る「環境文化型国立公園」を目指します。

このような国立公園であるためには、地域の人たちとともに形をつくり、管理していくことが重要であり、地域に貢献できる国立公園を目指します。

1. 背景

奄美地域は、奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島、喜界島、沖永良部島、与論島の８つの有人島から構成されており、それぞれの島で、豊かな自然環境を基盤とした文化や暮らしが成立し、また、その暮らしと密接な関わりを持つことによってそれぞれの島の自然環境が維持されてきました。

奄美地域が持つ自然資源、例えば、多くの固有種が生息・生育する亜熱帯照葉樹林、美しい海岸景観、サンゴ礁の海などの自然資源は、国際的にも国内的にも極めて価値の高いものです。更に、それらと相互に関係しながら営まれてきた地域社会の暮らしや文化にも注目すべき価値があります。

これらの価値を踏まえ、平成15年5月に、環境省と林野庁による「世界自然遺産候補地に関する検討会」において琉球諸島として世界自然遺産候補地に選定されました。また、同じく平成15年には鹿児島県により「奄美群島自然共生プラン」、平成16年には奄美群島広域事務組合により「奄美ミュージアム構想」が策定され、自然との共生や自然資源の活用について方針が示されてきました。

一方で、環境省は、国立・国定公園のあり方に関する見直しを行っており、平成19年には、「国立・国定公園の指定及び管理運営に関する検討会」において、「奄美群島の照葉樹林は国立公園の指定も視野に入れたより詳細な評価を行う必要がある」としています。我が国の国立公園は、国を代表するすぐれた自然の風景地の保護と利用を図るものです。また、土地の所有にかかわらず公園を指定できる地域制公園制度を採用しており、環境大臣が指定し、関係者と協力して管理を行う仕組みです。奄美地域の国内最大級の亜熱帯照葉樹林とそこに生息・生育する動植物、美しいサンゴ礁の海などは、国立公園を検討するにふさわしく、また、地域社会とともに自然資源を保全・活用していくためにも国立公園の制度を活用することが適当と考えます。

以上を背景に、環境省では、平成20年3月に、奄美地域において保全・活用すべき自然資源の保全・活用方策等について、国立公園の指定を視野に入れた検討を行う上で必要な助言を得るために、各分野の学識経験者等からなる「奄美地域の自然資源の保全・活用に関する検討会」を設置し、3回にわたり議論を行ってきました。この「奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方」は、この検討会のご意見をもとに、奄美地域において新たな国立公園の指定を検討し、また、国立公園の運営を通じた地域の活性化を図る際の基本指針として環境省那覇自然環境事務所としての考えをまとめたものです。

2. 奄美地域の現状

（1）自然環境の特徴

① 地史・地形・地質

奄美群島は、島弧-海溝系地形である琉球諸島の外弧の一部を形成しています。琉球諸島は、ユーラシアプレートとフィリピン海プレートの境界域にあり、主に新生代

の第三紀（約 2300 万年から 170 万年前）以降からの沖縄トラフの形成・拡大と激しい地殻変動による隆起・沈降、さらに第四紀以降（約 170 万年前以降）の気候変動による海水準の変動、サンゴ礁の発達に伴う琉球石灰岩の堆積によって形成されました。この間に、ユーラシア大陸や日本本土との分離・結合を繰り返しており、その地史的経緯から、大陸の影響も残った固有種や遺存種といった動植物が多くみられます。

奄美群島の島々は、山地が多く起伏が大きい「高島」と低く平らな「低島」に大別されます。これは、水環境や土地利用の違いにつながり、島毎に異なる自然や文化の基盤を形成しています。「高島」は新生代古第三期より古い地層から構成される島や火山島で、主として粘板岩や砂岩で山地が多く、海岸線は変化に富み、河川は短く急流で、奄美大島、徳之島がこれに相当します。一方、「低島」は第四紀に形成された琉球石灰岩からなり、低平な段丘状の地形で、砂浜、鐘乳洞などが発達していますが、河川はあまり形成されず、喜界島、沖永良部島、与論島がこれに相当します。

なお、喜界島では、過去十数万年間に形成された海成段丘や、完新世の隆起サンゴ礁が小さな島内にまとまって存在し、世界最高クラスの隆起速度で現在も隆起を続けているなど、島弧－海溝系による活発な地形形成の経過を表す、重要な地形学的特徴を有しています。

また、沖永良部島では大山山頂を取り巻くように、隆起裾礁がつくる海成段丘が同心円上に発達し、カルスト地形（ドリーネ、ウバーレ）や 150 以上の鍾乳洞がみられます。このうち大山水鏡洞は国内で 2 番目の大きさであり、希少な洞窟性コウモリ類の生息地ともなっています。

② 照葉樹林

奄美地域の森林は、モンスーンのもたらす降雨により、世界の亜熱帯域の中でも限られた地域にしか成立しない亜熱帯性多雨林です。世界の他地域の亜熱帯は、中緯度乾燥帯にほぼ相当するため、森林がほとんど成立していません。亜熱帯地域で森林が成立する湿潤な条件を持つところは亜熱帯地域の 1/3 に過ぎず、奄美の森林は世界的にも希少なものといえます。

国内では、奄美群島、沖縄諸島、八重山諸島、小笠原諸島等に亜熱帯林が成立しています。本地域の亜熱帯林は、温帯に特徴的な樹種と熱帯に特徴的な樹種とが混在しており、スダジイ、オキナワウラジロガシ、アマミアラカシなど、常緑のブナ科植物が優占しています。

特に奄美大島の住用川上流域、役勝川上流域、川内川上流域、湯湾岳、金作原周辺や徳之島の井之川岳、天城岳周辺においては、林齢の高い照葉樹林がまとまって存在しています。このうち奄美大島の森林は照葉樹林として国内最大規模の広がりを有しています。

また、これらの森林はアマミノクロウサギ、オオトラツグミ、オットンガエル、カンアオイ類等、固有種・希少種を含む野生動植物の生息・生育場所として生態系の基盤となっています。

③ 多様な生物相と固有種・希少種

奄美群島は、ユーラシア大陸との分離・結合を繰り返しながら形成されており、海洋に隔てられた小島嶼群として成立する過程において、当時この地域に生息していた

陸生生物が島嶼内に隔離され、その分布が細分化されたために独自の進化が進んでいます。

植物では、南方系と北方系の種が混在して豊富な植物相を有しており、奄美群島を分布の北限とする種が120種あるなど、多くの南方系の種の分布北限となっていること、アマミセイシカ、ウケユリ、アマミエビネ等の固有種が多いことが特徴です。

動物ではアマミノクロウサギ、ケナガネズミ、アマミトゲネズミ、オオトラツグミ、ルリカケス、クロイワトカゲモドキ、リュウキュウアユ等の固有種・固有亜種をはじめ、多様な動物相を有し、奄美大島や徳之島ではハブを食物連鎖の頂点とした独特の生態系が形成されています。また、群島の海岸域にはウミガメの産卵地が存在しているほか、奄美大島及びその周辺島嶼、与論島には海鳥（アジサシ類、アナドリ類）の集団繁殖地がみられるなど、広域移動性動物の重要な中継地・繁殖地ともなっています。

奄美群島の海域では、裾礁や堡礁などのサンゴ礁が発達しています。造礁サンゴの種数は約220種にのぼり、魚類、貝類、甲殻類など多様な生物の生息場所として特有の生態系を形成しています。まとまった規模と一定の生物多様性を有するサンゴ礁として世界的にみても北限に位置している重要なものですが、近年オニヒトデ等による食害や白化現象、赤土の流入等の攪乱要因により、大部分の海域においてサンゴ群集の衰退がみられます。

（2）地域文化の特徴

①　歴史

奄美はその位置的特徴から朝鮮、中国との交流や、琉球、大和などによる介入など、日本本土や沖縄とも異なる歴史・時代区分を持つ地域です。

奄美では、原始から約10世紀頃までの階級社会以前の部落共同体（マキョ）の時代を「奄美世（アマンユ）」と呼びます。奄美群島における最初の人の痕跡としては、旧石器時代のものと推定される25,000年～30,000年前の奄美市笠利町喜子川遺跡や伊仙町のアマングスク遺跡からチャートの剥片や打製石器等が出土しています。また、奄美市笠利町喜子川遺跡、宇宿高又遺跡、イャンヤ洞窟遺跡、知名町中甫洞窟遺跡からは、縄文時代前期（今から約6千年～8千年前）の爪形文土器が出土しています。その他に、サウチ遺跡、宇宿貝塚から出土した弥生期の装飾品（貝符や鉛ガラス）などから大陸や九州などの地域との交流があったことが示唆されています。奄美群島では、7～10世紀に、大和の律令国家と中国唐朝の時代の影響を受け、狩猟採集時代に終焉を迎えます。それまで奄美群島は九州等からの軽微な影響を受けながら縄文時代、弥生時代、古墳時代と比較的単純な狩猟採集生活を行ってきましたが、それは独自の社会基盤が形成され、強力な首長を要するような複雑な社会組織に発展するに至らなかったことを意味しています。

11世紀から16世紀には按司と呼ばれる力をもったリーダーが出現し、活発な交流・交易を行っていました。琉球列島においては明の朝貢貿易でさらに力を蓄え、琉球王国成立までの激動の時代を迎えます。この按司たちの支配が割拠する時代は「按司世（アジユ）」と呼ばれています。この時代には徳之島で焼かれたカムィヤキ（類

須恵器）が琉球諸島全体に流通の広がりをみせていました。また、赤木名城からは、12～13 世紀頃のカムィヤキ、14～15 世紀頃の青磁と大和の特徴を持つ竪堀、堀切等の遺構が発見されています。

これにつづく琉球王朝の時代が「那覇世（ナハンユ）」であり、17 世紀前半からの薩摩藩による藩政時代を「大和世（ヤマトンユ）」と呼んでいます。17 世紀に薩摩藩によるさとうきびの生産と製糖法が推進され、黒糖による貢租など、奄美地域への支配政策は砂糖を基軸としたものに大きく転換し、明治期の砂糖売買の自由化まで続きました。戦後は一時、米軍統治下におかれましたが、昭和 28 年に日本に復帰を果たしました。

② 文化と暮らし

奄美の人々の暮らしは、自然との深い関わりのもと営まれており、南北との交易や琉球・薩摩の介入といった歴史の影響を受けながら、島唄、八月踊り、豊年祭など独特の伝統文化・芸能や、信仰、自然観などを生み出してきました。このため、加計呂麻島の諸鈍シバヤや与論島の十五夜踊りといった伝統芸能にも南方系と北方系の歌・演目が入り交じったものが見られるなど、琉球文化や大和文化などが溶け合った文化が形成されています。また、方言で集落を「シマ」と呼んでおり、シマごとに、言葉や習俗が異なり独自の方言、島唄が残るなど、多様化した文化が見られます。

人々の暮らしは周辺の自然と密接に関わっており、一般的に、集落を中心として前面の海で魚介類を採取し、川で物を洗い、タナガなどを採り、背後の山野で田畑を開墾するとともに、薪や材木を伐りだして生活の糧とするというように、集落が周囲の海や山と一体となった生活を営んできました。

海の彼方には神々のいるネリヤ・カナヤ（ナルコ・テルコ、リュウグウ）と呼ばれる理想郷があり、豊穣や災害をもたらすと信じられてきました。琉球王朝時代には、神々を迎え、送り出す祭事や農耕儀礼、年中行事を司るノロ制度ができ、現在でもその時代に生まれたと思われる行事や芸能が各地に伝わっています。

ノロによって迎えられた神々は、山に降り、山から尾根伝いに集落に下りてくるとされたことから、カミヤマ（神の降り立つ山）、カミ道（山から降りてきた神が通る道）、ミャー（集落の中心にある祭祀等を行う広場）などといった信仰空間が集落の構造に影響を与え、前面の海や背後の山とともに集落空間（景観）が形成されました。

山仕事に従事していた人々は、山の神に感謝するため「山の神の日」を設け、その日は山に入らないといった風習が存在するなど、神の領域への侵入をコントロールするためのタブーや戒めが存在しました、それがケンムンや山の神との遭遇体験、聖なる空間の存在など、様々なかたちで島民の間に引き継がれ、守られてきました。

しかし、このような、集落を中心として周辺の自然と一体になった生活、集落空間の仕組みや秩序、ノロによる祭司、島民の空間概念や精神性などは、近年の急激な社会経済の変化により地域の中での伝承力が低下し、将来世代への継承が懸念されています。

（3）社会環境

① 人口、振興開発事業費の推移等

奄美群島の人口は平成 17 年で 126,483 人であり、昭和 30 年以降減少が続いています。島別の人口は、奄美大島（加計呂麻島、請島、与路島含む）70,462 人、喜界島 8,572 人、徳之島 27,167 人、沖永良部島 14,551 人、与論島 5,731 人であり、全ての島が減少傾向です。また、高齢化も進んでいます。

昭和 29 年に奄美群島復興特別措置法が制定され、道路、港湾、文教施設といった生活基盤の整備が始まりました。その後、奄美群島振興特別措置法、奄美群島振興開発特別措置法などによって、道路や港湾の整備、空港の整備、土地改良など、交通の利便性向上や産業振興に重点を移しつつ地域の振興が図られてきました。近年では、地域の魅力や資源を活用した島づくりに向けたソフト事業も実施されています。振興開発事業費は、平成 18 年度は約 560 億円であり、平成 10 年の約 1,032 億円をピークに減少傾向にあります。

このような社会経済の変化に伴って、復帰後の奄美群島の生活水準は着実に向上し、県平均との格差も縮小しました。現在の一人当たり所得は、県平均と比べて 1 割程度低くなっています。

② 農林水産業

奄美群島では、さとうきびを中心に、ばれいしょ等の野菜，花き，畜産，果樹等の農業が営まれています。耕地面積の割合は、徳之島と沖永良部島が高く、徳之島では、さとうきび、野菜、畜産が、沖永良部島では花卉、野菜が主要な作目となっています。

奄美群島における森林は、総面積の67%を占めており、その97%が奄美大島と徳之島にあります。また、このうち約 9 割が民有林となっています。林業生産額は、昭和後期から平成初頭にかけてチップ材を中心に大きく増加し、ピーク時（昭和60年）の生産額は49. 6億円に達しましたが、その後は急激な減少傾向にあり、平成18年度の林業生産額は約3. 7億円となっています。ただし、最近では外国産木材の入荷減少に伴い、国内産木材の需要が増加し、奄美においてもチップ材確保を目的とした林業再開の動きがあります。

群島周辺はサンゴ礁に囲まれ、また、近海には天然礁が散在して好漁場を形成しており、かつお、まぐろ、むつ、いせえび等の資源に恵まれています。水産業は奄美大島を中心に営まれていますが、小規模漁業が主体となっています。また、真珠や魚類等の養殖業も行われており、中でもくろまぐろは順調に生産量を伸ばしています。

③ 観光業

奄美群島の平成 18 年の入込観光客数は 40. 1 万人です。昭和 63 年以降の奄美空港のジェット化や東京、大阪からの奄美大島直行便の就航に伴い、観光客数は増加しましたが、近年は横ばい傾向です。島別の入込観光客数は、奄美大島 23. 2 万人、喜界島 2. 5 万人、徳之島 6. 6 万人、沖永良部島 4. 1 万人、与論島 3. 7 万人であり、奄美大島の観光客が約 6 割を占め、大島以外の島々も近年は横ばい傾向です。

観光客の多くは、サンゴの海・砂浜や原生的な森林と動植物といった、亜熱帯性・海洋性の自然や、そこで育まれてきた伝統的な芸能・文化・産業等に期待して奄美に訪れているものと考えられます。主要な利用地点である大浜海浜公園の年間利用者は約 9. 5 万人(平成 18 年)です。

近年、奄美大島では、少人数の自然体験ツアーを実施するガイド事業者が増加し、

金作原、住用マングローブ林、湯湾岳、奄美自然観察の森等の陸域において、トレッキング、バードウォッチング、カヌー、ナイトツアーといった利用が増加しつつあります。海域におけるダイビングやスノーケリングのツアーは、奄美大島においては、北部の笠利半島から名瀬市北岸、南部の焼内湾から大島海峡、加計呂麻島周辺が主要なフィールドとなっています。笠利湾や大島海峡、焼内湾は波が穏やかであるため、シーカヤックやグラスボートなどの活動場所にもなっています。ダイビングやスノーケリングのフィールドは大島以外の島でも広範囲にみられます。

④　その他の産業

大島紬には1,300年余の歴史があり、わが国で最も古い伝統をもつ染色織物ともいわれています。明治以降、市場に出回るようになり、戦後の高度成長期には需要を拡大し奄美群島の基幹産業として重要な地位を築いています。昭和47年に約28万4千反を生産し最盛期を迎えると、以後、経済の安定成長への移行や和装需要の減少等から生産が減少し、平成19年の生産反数は約1万8千反と著しく落ち込んでいます。

（4）これまで行われてきた自然資源の保全・活用に関する取組

①　現在指定されている保護地域等

i　国定公園

奄美地域の美しい海岸、サンゴ礁景観、照葉樹林やマングローブの一部が、「自然公園法」に基づいて国により「奄美群島国定公園」に指定され、鹿児島県により風致景観の維持が図られるとともに、海水浴、スノーケリング、カヌー、キャンプ、探勝等の公園利用が行われています。

ii　鳥獣保護区

アマミノクロウサギやアマミヤマシギ等の希少鳥獣の生息地として重要な奄美大島の湯湾岳が国指定鳥獣保護区に指定されているほか、鹿児島県により23箇所（奄美大島17、喜島島1、徳之島3、沖永良部島2）の県指定鳥獣保護区が指定され、鳥獣の保護が図られています。

iii　天然記念物

「文化財保護法」に基づき、樹齢100年を超えるスダジイを中心とし、アマミスミレ等の奄美固有種が生育する亜熱帯照葉樹林である神屋国有林と、気候の影響を受けて特徴的な低木林となっている湯湾岳国有林が国の天然記念物に指定されています。また、ウケユリの自生地である奄美大島の瀬戸内町請島の一部が鹿児島県の天然記念物に指定されているほか、喜界島の固有種ヒメタツナミソウの自生地等が各市町村町により天然記念物に指定され保護されています。

iv　保護林

奄美大島及び徳之島の国有林（林野庁所管）において、原生的な森林生態系の保全や国民と自然とのふれあいの場としての利用の機能を重視した機能類型である「森林と人との共生林」が奄美大島3箇所（金作原、神屋、湯湾岳）及び徳之島3箇所（三京岳、井之川岳周辺、面縄）に設定されており、林木遺伝資源保存林や自然観察教育林に指定されています。

v　市町村による保護区等

a　奄美大島

龍郷町では、条例に基づき長雲峠に「奄美自然観察の森」を設置し、動植物の採取を規制して保護を図るとともに、自然観察指導員を配置し解説活動を行うなど、自然とのふれあいの推進を図っています。

大和村では、「野生生物保護条例」に基づき奄美フォレストポリスに保護地区を指定し、保護地区内での野生動植物の捕獲・採取や開発行為等を規制しています。

瀬戸内町では、「指定地域の入山申請に関する規則」に基づき、ウケジママルバネクワガタやウケユリ等の生息地・生育地である請島の大山において、希少野生動植物の保護を図るため、入山手続制及び指定地域管理人の同伴義務付けを行っています。

b　徳之島

伊仙町では、自然保護条例により、義名山等の地域を「景勝保護区」等に指定し、自然環境の保全を図っています。

②　野生動植物の保護

i　絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存

a　捕獲等の規制

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」に基づき、鳥類４種（アマミヤマシギ、オーストンオオアカゲラ、アカヒゲ、オオトラツグミ）、ほ乳類１種（アマミノクロウサギ）及び植物３種（アマミデンダ、ヤドリコケモモ、コゴメキノエラン）が「国内希少野生動植物種」に指定されており、捕獲・採取や譲り渡し等の規制が行われています。

また、「鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例」に基づき、植物 15 種（ウケユリ、アマミセイシカ等）、は虫類１種（オビトカゲモドキ）、両生類２種（イボイモリ、イシカワガエル）、魚類４種（リュウキュウアユ等）、昆虫類１種（ウケジママルバネクワガタ）及び貝類２種（シマカノコガイ、ヤエヤマヒルギシジミ）が指定希少野生動植物種に指定されており、捕獲・採取や譲り渡し等の規制が行われています。

大和村では、「野生生物保護条例」により希少野生生物の捕獲・採取等を規制しています。奄美市においても同様の条例が制定され、保護すべき希少野生生物のリストアップが行われています。

b　保護増殖事業等

種の保存法に基づき、「国内希少野生動植物種」に指定されているアマミノクロウサギ、アマミヤマシギ及びオオトラツグミの３種について、保護増殖事業計画が策定され、生態や生息状況の把握、捕食者対策や交通事故防止対策等の保護増殖事業が実施されています。

また、関係行政機関で構成する「奄美希少野生生物保護対策協議会」が、アマミノクロウサギのロードキル対策、ノヤギ被害防除対策や、犬やねこの遺棄防止の普及啓発を実施しています。

この他、民間団体により、オオトラツグミの個体数センサスなどが実施されています。

ii　天然記念物の保護

「文化財保護法」に基づき、アマミノクロウサギが特別天然記念物、鳥類５種（ルリカケス、アカヒゲ、オオトラツグミ、カラスバト、オーストンオオアカゲラ）及びほ乳類２種（トゲネズミ、ケナガネズミ）が天然記念物に指定されているほか、鹿児島県によりは虫類１種（オビトカゲモドキ）及び両生類３種（イボイモリ、イシカワガエル、オットンガエル）が天然記念物に指定されており、捕獲等が規制されています。

また、群島各市町村によりウケジママルバネクワガタ、ウケユリ、モダマ、ヒメタツナミソウやアダン林等が天然記念物に指定され、捕獲・採取等が規制されています。

iii　ウミガメの保護

「鹿児島県ウミガメ保護条例」により、世界的に絶滅のおそれのあるといわれるウミガメの海岸での捕獲や卵の採取等が規制されています。

この他、民間団体によるウミガメ保護や保護に関する普及啓発活動などが行われています。

iv　サンゴ礁の保護

奄美群島の全１２市町村で構成する「奄美群島サンゴ礁保全対策協議会」が、サンゴを捕食するオニヒトデの駆除等を実施しています。

沖永良部島では、民間団体がオニヒトデの駆除やモニタリング等を行っています。

与論島では、観光事業者、漁協、NPO 及び行政による「ヨロン島ウルプロジェクト」が、ボランティアダイバーによるリーフチェック、大学・研究機関と連動した調査・研究や IT 技術の活用による海洋の環境分析等を実施しています。

また、与論町では、「ヨロン島サンゴ礁基金」を設立して、広く一般の方々からの寄附を募り、サンゴ礁保全や地域振興等に努めています。

v　その他

瀬戸内町では、「自然保護条例」に基づき「自然保護審議会」を設置して、町長の諮問に応じ自然保護に関する重要事項の審議等を行っています。

喜界町では、喜界島が生息地の北限とされているオオゴマダラについて、「オオゴマダラ保護条例」を制定し、捕獲禁止措置等を行ってオオゴマダラの保護に努めています。

③　外来生物対策

i　ジャワマングース

1979 年頃に導入され、奄美大島の在来種を捕食することにより生態系等に被害を与えているジャワマングースについては、市町村による有害鳥獣捕獲や国による駆除・制御モデル事業の実施を経て、現在は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づいて奄美大島での根絶を目指す「特定外来生物防除事業」が国により実施されています。

ii　ノヤギ

奄美大島の固有種や希少種の生育する植生や土砂流出に悪影響を与えるノヤギについて、奄美大島各町村が条例を制定して飼いヤギへの標識の義務化や放し飼いの

禁止とともに、ノヤギの有害鳥獣捕獲が実施されています。

また、民間団体により奄美大島のノヤギ個体数調査が実施されています。

④ガイド事業者等による自然体験の提供等

奄美大島では、ガイド事業者により奄美自然観察の森、金作原自然観察教育林や住用マングローブ林等の陸域においてフォレストウォーキング、バードウォッチング、カヌー、ナイトツアー等の自然体験ツアーが実施されています。また、海域では笠利半島、焼内湾、大島海峡や加計呂麻島等でダイビング、スノーケリング、シーカヤックやグラスボートによる自然体験の提供が行われています。

奄美大島以外の島では、ガイド事業者による陸域での自然体験の提供は見られず、海域でのダイビングやスノーケリング等が主となっています。

宇検村では、村おこしのための「宇検村まるごとオーナー制度」を実施しており、オーナー制度利用者に対して自然観察、登山や文化体験メニューを提供しています。

奄美群島各市町村、県及び国により構成する「奄美自然体験活動推進協議会」やNPO 等により自然観察会や探鳥会が実施され自然とのふれあいの推進が図られています。

⑤　奄美群島自然共生プラン（鹿児島県）

鹿児島県は、平成 15 年度に地元市町村の協力のもと、奄美群島の豊かな自然との共生を目指した地域づくりの指針として「奄美群島自然共生プラン」を策定しています。策定にあたっては、奄美群島の市町村や地域住民の参加を得ながら、奄美の「宝さがし」を行い、自然・歴史・文化・生活環境・名人・産業など数多くの地域資源を再認識・再発見しています。プランでは、この奄美の「宝」を核として、「生物多様性の保全」と「自然とのふれあい」を念頭においた、人と自然が共生する個性的な地域づくりの基本的な方向性が示されています。

国、県、市町村、関係団体等は、このプランに基づき、エコツーリズムや環境教育・環境学習の推進、希少野生動植物の保護、オニヒトデ等の駆除や赤土等流出防止対策によるサンゴ礁等の保全、世界自然遺産登録に向けた取組など、各種事業を実施しています。また、プランに基づく施策の着実な推進を図るために、「奄美群島自然共生プラン推進本部」が中心となって定期的にプランの実施状況を点検しています。

⑥　奄美ミュージアム構想（奄美群島広域事務組合）

奄美群島広域事務組合は、平成 16 年度に「奄美ミュージアム構想」を策定しています。この構想は、奄美群島全域を博物館に見立てて、地域住民が主体となり、奄美の宝を保存・活用し、「癒しの島あまみ」を基本理念とした持続可能な地域振興の取組を推進するために定めたものです。住民の創意と工夫に根ざした主体的・自発的な取組により、地域の特性を生かした産業の展開、豊かな自然や島唄・八月踊りなど個性的な伝統文化を活用した特色ある体験・滞在型観光の推進、保養や療養など中・長期の滞在を含む定住・交流などを図り、人と自然が共生する地域づくりを進め、自立的発展を目指すこととしています。

この構想に基づき、奄美群島広域事務組合や市町村では、地域の主体的な取組が促進されるよう、モデル事業による体験メニューの開発、体験交流イベントの開催、奄美自然、文化インストラクター養成塾の開催、ポータルサイトの構築による情報発信

等の取組を実施しています。

3．奄美地域において保全・活用すべき資源

奄美地域には、動植物等の自然資源のみならず、人と自然の関わりによって形成された景観や営みなど、保全・活用すべき資源が豊富にあります。ここでは、国内外に誇れる奄美地域の魅力と言える資源について記します。

（1）亜熱帯照葉樹林とそこに生息・生育する動植物

奄美大島及び徳之島の山地帯には、スダジイ、オキナワウラジロガシ、アマミアラカシなど常緑の広葉樹が優占する森林がまとまって存在しています。

この森林は、亜熱帯という気候を反映して、温帯的な樹種と熱帯的な樹種が混在する世界的に見ても限られた地域にのみ成立している亜熱帯照葉樹林で、（シマ）オオタニワタリやヒカゲヘゴなどと相まって特徴的な景観を有しています。

これらの森林には、長い陸橋の形成と島嶼間の分断の繰り返したという地史的な影響等を受けて、アマミノクロウサギ、オオトラツグミ、オビトカゲモドキ、オットンガエル等の奄美地域固有の動物が生息しているほか、河川には沖縄で絶滅し、現在では奄美大島だけに生息するリュウキュウアユが見られます。

また、植物ではアマミセイシカ、ウケユリ、アマミデンダ、ヤドリコケモモ等の固有種が生育しているほか、気候上の移行帯であることから分布の南限種や北限種が多く確認されており、生物多様性保全上も極めて重要な地域です。

（2）サンゴ礁地形の発達した海岸等

奄美群島のサンゴ礁は、まとまった規模の礁を形成するサンゴ群集としてはほぼ世界の分布の北限に位置しています。奄美群島のどの島にもサンゴ礁があり、美しい海中景観が見られダイビング利用等が行われています。近年、白化現象やオニヒトデの捕食等によるサンゴ礁の衰退が懸念されており、保全対策の強化によるサンゴ礁の再生が望まれています。

奄美群島の海岸部は、砂浜、琉球石灰岩の隆起断崖、ビーチロック、花崗岩の露出した海岸やリアス式海岸があって変化に富み、アダン等の海岸自然植生やサンゴ礁と併せて旅行者を惹きつける大きな魅力を持っています。

また、海岸はウミガメの産卵地や渡り鳥類の繁殖・中継地としても重要な場所となっているほか、島民の生活の中でも利用されており、海岸や海を良好な状態に保つことは生物多様性保全の面からだけでなく、島民生活や観光振興の面からも重要です。

（3）自然資源と密接に関わりのある地域文化

かつて、集落を中心として前面の海と背後の山を一つの生活空間として生活を成り立たせ、海や山に神の存在を認め信仰していた奄美地域の生活は、それ自体自然と一体となったものです。バショウ群生地などのかつての生業の痕跡等人と自然の関わりの中で形成された景観は、奄美地域の人々の生活と自然との関わりを示すものとして

重要です。

奄美地域の人々は、今も３月節句や浜下れ、漁りなどで生活と海とのつながりを維持しています。また、海の彼方から神や稲魂を呼ぶ儀礼や五穀豊穣を祝う（祈る）儀式等が残されている地域もあり、これらに触れることは、奄美地域の人々と自然との関わりを理解するうえで重要であるとともに、奄美地域での自然体験をより豊かなものにすることができます。

（４）島ごとで特に注目すべき資源

奄美地域では、気候、地形地質や歴史により、島ごとに異なる自然景観や文化を持っています。ここでは、（１）～（３）で触れなかった特に注目すべき資源について記します。

①　奄美大島

奄美大島中南部山地の照葉樹林及び河川は、アマミノクロウサギ等の琉球諸島の地史にも関係する特徴的な生物の生息地として重要であるほか、本島の本来の森林の姿をよく残しており、森から川、海にかけて連続して概ね良好な状態が保たれています。

海や山と一体となった生活や海や山の神の信仰が具現化された集落及びその周辺の景観は、奄美大島の人と自然の関わりを示す特徴をよく現すものと言えます。

②　喜界島

喜界島は、世界でも有数のスピードで隆起した島として学術的にも注目されています。

百の台からは、段丘斜面の森林、隆起サンゴの海岸及び台風を意識し、海岸から一定の距離を持ち、防風のためのサンゴ石垣とガジュマルなどの樹木で「緑の島」となっている集落が一望でき、本島の自然と人が関わり合って形成された景観を見ることができます。

③　徳之島

保全状態の良い照葉樹林は、島唄にも歌われる三京や井之川岳・犬田布岳一帯及び天城岳一帯に集中して残されており、アマミノクロウサギ等の奄美群島の特徴的な生物の生息地となっているほか、優れた眺望景観を有しています。

また、義名山は古くから住民の水源地帯であるとともに、カムィヤキ古窯跡群や古道の存在が確認されており、照葉樹林の自然と島の歴史や生活を一緒に学ぶことができる場所として貴重です。

④　沖永良部島

大山の地下を中心に 150 もの鍾乳洞があると言われており、希少なコウモリ類が生息しています。

沖泊海岸は、イノー（礁池）、自然海浜、海浜植生（アダン自然林）及び隆起断崖がひとまとまりとなって維持されており、ウミガメの産卵地としても知られているほか、島民の憩いの場としても親しまれており、観光資源及び環境教育の場として貴重です。

⑤　与論島

与論島は、ほぼ全島をサンゴ礁に囲まれた島で、イノーは今でも魚介類採取や釣りなどにより人々の生活と関わりを保っています。また、海に面した位置に墓を立てることが伝統的な風習ですが、現在もこれが保たれ、改葬の習俗（土葬後数年で死者を掘り出し海水で洗骨する）が今も残され海岸は祖霊信仰においても重要な場所となっています。

美しい海浜、イノー及びサンゴ礁は、観光資源としての価値も高く、特に皆田海岸や大金久海岸は、スノーケリング、シーカヤックや海水浴などの場として重要です。

4．奄美地域における国立公園の指定について

国立公園は、自然公園法に基づき指定され、我が国を代表するすぐれた自然の風景地を保護し、利用者にそこでしか味わえない体験を通して自然とのふれあい、感動や癒し、科学的関心や環境教育の材料等を提供する場所です。

自然公園法での保護対象は自然の風景地ですが、人が感じる風景とは、視覚だけでなく、五感で感じるものまで含まれており、自然を包括的に認識しているものです。つまり、自然環境や生物多様性も内包する概念と言えます。奄美地域では、特に、五感で感じることのできる風景、例えば、その場所にしかいない固有の動植物が近くにいることが感じられたり、昔ながらの人の暮らしが感じられたりといったことも重要な風景と言えます。

古くから狭い国土の中で土地を多目的に管理・利用してきた日本では、アメリカやオーストラリア等のように国立公園の地域を公園専用に限定せずに、土地の所有にかかわらず公園を指定できる地域制公園制度を採用しています。国立公園は環境大臣が指定しますが、地域行政や地元の関係者と協力し、所有権、財産権や産業との調整を図りながら、管理を行う仕組みになっています。国立公園内では、厳正な保護を図る地域、ある程度の制限を設けて利用を図る地域、積極的な利用を図る地域等を公園計画により定め、地域の取組を支援するための事業や制度も準備されています。

奄美地域の国内最大級の亜熱帯照葉樹林、地史を反映した島ごとに特徴的な地形や生物相は、我が国を代表するすぐれた風景を構成していると言えます。また、歴史的に高度に利用され、土地所有も複雑な奄美地域においては、制度的特徴から考えても、国立公園を指定し、それを核として関係行政機関が連携しながら自然資源の保全・活用を図っていくことが適当と考えます。

5．奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方

奄美地域は、大陸との接続と分断を繰り返してきた地史を反映して、固有の動植物と生態系が育まれ、国際的・国内的に価値の高い自然資源が存在します。一方、奄美地域は、古くから、各島のそれぞれの自然環境に影響を受けながら人の暮らしや意識が形成

され、島の隅々にまで人の暮らしが影響を及ぼしてきた地域と言えます。そのため、奄美地域の自然資源の保全・活用を考える際、自然資源そのものだけでなく、人の暮らしや意識を考えることが不可欠です。奄美地域の国立公園は、地域の自然資源と暮らしの一部となるべきです。

このような奄美地域において指定する国立公園は、二つの点でこれまでにない新しい国立公園になり得ると考えます。一つは、亜熱帯照葉樹林を中心とする生態系全体を管理しながら保全・活用を進める「生態系管理型国立公園」であること、もう一つは、千年以上にわたり人間と自然が深く関わり調和してきたその関係そのものを保全・活用の対象とする「環境文化型※国立公園」であることです。そして、これらを実現するためには、地域の人たちとともにつくり、管理していくことが重要であり、地域に貢献できる国立公園を目指します。

（生態系管理型国立公園）

国立公園の核となるのは、世界に類を見ない固有種・希少種が生息・生育する亜熱帯照葉樹林を中心とする生態系とそれが醸し出す景観であり、それらの保全は不可欠です。これまでの国立公園では、森林景観を主たる保全対象としてきましたが、森林生態系全体を保全対象とし、管理手法まで踏み込んでいくことになれば、奄美地域での取組がパイオニアとなり得るものです。

奄美地域では、完全に原生状態である亜熱帯照葉樹林は少なく、大部分に古くから人の手が入っていますが、従来は再生力を基礎とした林業等が行われ、結果的に固有種と共生してきたと言えます。国立公園に指定した後は、森林生態系の適切な管理をすることにより、意識的に共生状態を確保していく必要があります。

また、保全の取組と併せて、生態系の豊かさを感じることのできる新しい利用形態を提供していきます。

（環境文化型国立公園）

国立公園として指定することになる奄美地域の森や川、浜などの自然資源は、人々の暮らし、営みなど、文化と深く関わりを持ってきました。その関わりそのものが資源ということができ、その全体を理解し守っていく意識が重要です。それらを紹介していくことにより、国立公園の魅力は増大し、利用者を引きつけることにもなります。奄美地域の自然と文化を住民と利用者がともに楽しみ、ともに守る国立公園を目指します。

また、奄美地域の島々がそれぞれ少しずつ異なる多様な文化を持つことも、魅力の一つです。この「文化」は、人々の暮らし、営みの中に生まれた民俗、習慣、意識、価値観などが中心であることも特徴です。

以下に、具体的な手法について述べます。

※　環境文化とは

ここでは、固有の自然環境の中で、歴史的につくり上げられてきた自然と人間のかかわりの過程と結果の総体、つまり、島の人々が島の自然とかかわり、相互に影響を加え合いながら形成、獲得してきた意識及び生活・生産様式の総体である。屋久島環境文化村構想（鹿児島県）で提唱された。

奄美地域では、集落の背後に神が降り立つ山（カミヤマ）があったり、海の彼方には神々のいるネリヤ・カナヤ（ナルコ・テルコ、リュウグウ）と呼ばれる理想郷があり豊穣や災害をもたらすと信じられていた

ことなどが示すように、自然環境と暮らしや信仰は密接な関わりを持ってきた。樹木や動物にも霊や神が宿ると考えられていたり、自然物に敬称をつけることがある（ティダガナシ（太陽）、マチガナシ（火）、クルムンガナシ（クジラ）など）ことも、その一端ととらえることができる。過去に関わりを持ってきたのみならず、現在の生活様式にもそれが影響を及ぼしており、奄美地域は、環境文化が色濃く存在する地域と言える。

（1）国立公園として保全・活用を図ることが適当な地域

奄美地域では、多様な固有種・希少種が見られる亜熱帯照葉樹林や、島ごとに異なる地形形成過程を反映したリアス式海岸、サンゴ礁段丘などの地形が我が国を代表する風景地を形成していると考えられます。

照葉樹林については、奄美に固有の動植物種が生息・生育するために十分な範囲を含め、特に、動植物の生息・生育にとって重要な小河川などの水系や固有の植物が集中して生育している高標高部に配慮する必要があります。また、森から河川、海までの連続性も重要です。

海岸線については、現在の奄美群島国定公園に指定されている地域を中心に、自然海岸が残る海岸線、海岸植生が発達している海岸、ウミガメの産卵地や渡り鳥類の繁殖・中継地として重要な海岸及び周辺海域を含めます。また、良好なサンゴ群集が見られる海域についても評価し、含めることが適当です。

なお、奄美地域の特徴である自然と文化のつながりは、照葉樹林や海岸など地域全体に見られるものですが、伝統的な集落景観の残る集落には、特に象徴的にその関係が残っていると考えられることから、そのような集落の一または複数を含めることが望まれます。

（2）国立公園として保全・活用を図る際に特に留意すべき事項

国立公園としては、（1）で示した地域の資質を損なわずに、将来にわたって保全・活用していく必要があります。ここでは、奄美地域において国立公園を指定し、管理していく上で留意すべき事項をまとめます。

特に、生態系管理型、環境文化型の国立公園として指定・管理していくために留意すべきこと、また、国立公園指定とともに世界自然遺産登録も目指していることから、利用者の増加を想定した対応について具体的に述べます。

①　生態系の管理

生態系を適切に保全するためには、科学的データに基づいた管理を行う必要があります。希少種の生息状況、森林の状態等に応じて公園区域、保護・利用計画を検討します。特に、水系は生態系にとって重要であり、良好な状態に保つことが必要です。

また、モニタリングを継続的に行い、そのデータに基づいて順応的な管理をすることが重要です。

②　亜熱帯照葉樹林における持続的な森林管理

奄美地域の生態系の中核をなす森林は、原生林、長期間人為的攪乱を受けていない林齢の高い森林、若齢林、リュウキュウマツ林等があります。それらの森林が、生物多様性の保全、林産物の生産、温暖化対策等の機能を十分に発揮できるよう、守るべき森林は守り、活用すべき森林は適切に活用し、再生が必要な森林は再生すべく、国立公園としての適切なゾーニングを行った上で管理していく必要があります。

戦前は、集落を中心として生活や祭祀等のための日常的、伝統的な利用が中心であり、その後、産業としての林業に転換していきました。林業としては、地域での建築用材生産の他は、昭和30年代までは枕木生産を、近年は、建築構造材や集成材化などによる建築用途への活用、パルプチップ生産を中心としていました。亜熱帯照葉樹林は高い再生産力を有していることから、パルプチップ生産は、天然更新を基本とした皆伐によって行われています。

これまでの国立公園内の林業については、主として暖温帯や冷温帯の森林を対象とした林業（建築用材の生産が可能であり、再生産力は亜熱帯に比べて低い）を基本としていることから、奄美地域においては、再生産力の高い亜熱帯照葉樹林における林業と国立公園との関係について新たに検討していく必要があります。

これまでも奄美地域では森林施業が行われてきており、そのような状況の中で、多くの希少種が維持されてきています。これまでの森林施業による影響を評価しつつ、希少種の生息環境を保全しつつ、かつ、経済的合理性にも配慮した林業のあり方を検討することが重要です。

具体的には、伐期・伐区の適切な設定による生息環境としての連続性の確保、土壌の保持、河川流路の確保等に関して指針の検討を行います。指針は、モデル事業等を実施することにより妥当性について検証していく必要があります。また、管理が不十分となっていて森林の機能が十分発揮できていない人工林（リュウキュウマツ林等）の照葉樹林への転換についても検討します。以上の検討を踏まえ、国立公園の森林施業に係る行為許可の基準について、亜熱帯照葉樹林の特性を考慮した検討を行います。

祭祀や地域行事のための植物採取、木炭生産、シイタケ栽培のための伐採や大島紬生産のためのシャリンバイ伐採などの昔ながらの利用については、生態系への影響も考慮しながら継続できるよう配慮します。

一方で、人口減少や林業従事者の高齢化等によって森林との関わりが希薄になる傾向があり、森林に関わりながら保全していく仕組みを如何に維持するかについても考慮する必要があります。

③　環境と文化の融合（環境文化型国立公園）

奄美地域の自然資源と地域の文化は一体的なものです。従来、生活上の感覚として自然を意識して暮らしていたと考えられますが、徐々にその意識が薄れていく傾向にあることが言われています。国立公園においては、それらの暮らしや意識を再認識しながら、地域と一体となって管理運営を行っていくことを通じて、自然資源の保全のみならず、失われつつある自然との関わりを維持・保全していく一助になるように努めます。

また、自然資源を理解する際に、科学的な説明のみならず人々の暮らしとの接点からの説明が加わることにより、自然資源が身近に感じられ、より深く理解できます。逆に、地域文化と離れて存在する国立公園では、来訪者にとって魅力が半減するだけでなく、地域においても存在感のないものとなります。地域文化とともにある国立公園の姿を描いていくことが必要です。

例えば、海や山の風景を良好に維持することは、島唄のイメージを損なうことなく実際に存在するものとして伝承することにもつながり、地域文化の基盤を維持し継承することにも寄与できるものと思われます。ビジターセンターを整備する際、また、国立公園内の利用ルートを設定し、プログラムを提案する際には、地域の文化を紹介するとともに、地域社会とのつながりが持てるようなものとしていきます。ただし、来訪者が、昔から守られてきた地域の慣習やしきたりを冒したりすることのないよう、十分な注意も必要です。

④　持続可能な観光利用の推進

奄美地域が国立公園に指定されると、観光資源としても脚光を浴びる可能性が高く、また、地域経済の活性化のためにも自然資源を持続的に活用した観光振興は重要です。

今後の利用者の増加を想定してのルール作りを行った上で、奄美地域の魅力を十分に味わえるような利用ルートや利用メニューを、地域主体で検討し、提供することが重要です。

観光客の受け入れに当たっては、住民が積極的に関わり、観光客が住民とともに楽しむ形態を確立していくことが重要です。また、それらを通じて、地域活性化や地域学習、環境教育の推進等にも寄与することが望まれます。そのためには、幅広い関係者が協議し、合意形成を図るための協議会等を組織していくことも検討する必要があります。

さらに、新しいタイプの国立公園として、生態系の豊かさを感じることのできる新しい利用形態を提供していくための方策を検討していきます。

具体的には、多人数利用が可能でガイド無しでも楽しめるエリアと、エコツーリズムなど人数制限が必要でガイド付きを前提とする利用に適したエリアを区分し、それぞれに応じたルール作りや利用施設を整備したり、一般道としての利用が少なくなっている旧道等について、関係者と調整の上、エコツアー等に効果的に活用するなど、ニーズに応じた魅力ある旅行形態を提供できるよう努めます。

森林部については、土壌が脆弱であり容易に流出が発生すること、また、密猟、盗掘が懸念される昆虫、植物も多く存在することから、利用に際してのルールを検討し、マナーの徹底を図ることが重要です。また、ハブなどの危険な生物が存在することから、ツアーの安全性の確保も考慮する必要があります。

（３）国立公園とその他の地域との関係

以上に述べたような国立公園を運営していくために、また、地域に貢献できる国立公園としていくためには、国立公園内だけでの取組ではなく、国立公園外も含めた地域全体が一体となった取組を進める必要があります。関係行政機関、民間団体、地域

住民など、地域全体が協力して、国立公園を中心とする奄美地域の自然資源を保全・活用していくための取組が重要です。

（4）国立公園と世界自然遺産との関係

世界自然遺産の推薦にあたっては、推薦地が世界的に見て顕著な普遍的価値を有し、それらが開発などによる悪影響を受けていないなど完全性の条件を満たし、その価値が将来にわたって維持されるよう適切に保護されていなければなりません。

奄美地域の世界的に見て顕著な普遍的価値は、多くの固有動植物の生息・生育地となっている亜熱帯照葉樹林などを中心とした地域にあると考えています。一方で、奄美地域の国立公園は、そうした地域以外にもすぐれた多様な景観を対象として指定することを考えているため、国立公園区域と世界自然遺産の推薦地域は必ずしも一致しません。ただし、世界自然遺産として推薦しない地域についても、遺産の価値を説明するためには不可欠な存在であり、世界遺産に関連する地域としてその適切な保全・活用を図っていく視点が重要です。

奄美地域において国立公園を指定することは、世界自然遺産推薦の上での第一歩です。しかし、価値が将来にわたって維持されるよう適切に保護されていることを担保するためには、国立公園指定だけでなく、そこに生息・生育する希少種の保護、外来種対策等も不可欠です。

また、世界自然遺産の価値は、琉球弧として沖縄地域（特にやんばる地域や西表島）と併せて証明できるものであり、沖縄県及び関係地域との連携が重要です。

奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方
概要版

「奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方（以下「基本的な考え方」という）」は、奄美地域において、自然資源の効果的な保全・活用を図るため、新たな国立公園の指定を検討し、また、国立公園の運営を通じた地域の活性化を図る際の基本指針としてとりまとめたもの。

○　奄美地域の国立公園とは

奄美地域において指定する国立公園は、二つの点でこれまでにない新しい国立公園となり得る。一つは亜熱帯照葉樹林を中心とする生態系全体を管理しながら保全・活用を進める「生態系管理型国立公園」であること、もう一つは千年以上にわたり人間と自然が深く関わり調和してきたその関係そのものを保全・活用の対象とする「環境文化型国立公園」であること。

地域の人たちとともにつくり、管理していくことを通じて、地域に貢献できる国立公園を目指す。

○　国立公園として保全・活用を図ることが適当な地域

奄美に固有の動植物種が生息・生育するために十分な範囲の照葉樹林を含める。特に小河川などの水系に配慮し、森から河川、海までの連続性も重視。海岸線は、現在奄美群島国定公園に指定されている地域を中心に、自然海岸が残る海岸線及び周辺海域を含める。なお、伝統的な集落景観の残る集落も一または複数を含めることが望まれる。

○　生態系の管理

世界に類を見ない固有種・希少種が生息・生育する亜熱帯照葉樹林を中心とする生態系とそれが醸し出す景観の保全は不可欠。生態系の保全のためには、科学的データに基づいた指定や継続的なモニタリング及びそのデータにもとづく順応的な管理が重要。

○　亜熱帯照葉樹林における持続的な森林管理

奄美地域では、完全に原生状態である亜熱帯照葉樹林は少なく、古くから人の手が入ってきたが、従来は再生力を基礎とした林業等が行われ、結果的に固有種と共生してきた。国立公園指定後は、適切な森林生態系の管理により、意識的な共生状態の確保が必要。

亜熱帯照葉樹林における国立公園においては、希少種の生息環境を保全しつつ、かつ、経済的合理性にも配慮した林業のあり方を検討することが重要。具体的には、適切なゾーニングを行うとともに、伐期・伐区の適切な設定による生息環境としての連続性の確保、土壌の保持、河川流路の確保や、人工林の照葉樹林化等について指針を検討する。また、国立公園の森林施業に係る行為許可の基準についても亜熱帯照葉樹林の特性を考慮して検討する。

○　環境と文化の融合

奄美地域では、生活上の感覚として自然を意識して暮らしてきたと考えられる。国立公園においては、それらの暮らしや意識を再認識しながら、地域と一体となって管理運営を行うことを通じて、自然資源の保全のみならず、失われつつある自然との関わりを維持・保全していく一助になるよう努める。

国立公園の利用ルートやプログラム等を考える際も、地域の文化を紹介するとともに、地域社会とのつながりが持てるようなものとする。

○　持続可能な観光利用の推進

地域経済の活性化のためにも自然資源を持続的に活用した観光振興は重要。奄美地域の魅力を十分に味わえるような利用ルートや利用メニューを提供するとともに、今後の利用者の増加を想定してのルール作りも重要。

多人数利用が可能でガイドなしでも楽しめるエリアと、エコツーリズムなど人数制限が必要でガイド付きを前提とするエリアを区分し、それぞれに応じたルール作りや利用施設を整備するなど、ニーズに応じた魅力ある旅行形態を提供できるよう努める。特に、森林部については、その脆弱性に対応したルール作り、マナーの徹底を図ることが重要。

○　国立公園とその他の地域との関係

国立公園内だけでなく、国立公園外も含めた地域全体が一体となった取組を進める必要。関係行政機関、民間団体、地域住民など、地域全体が協力して国立公園を中心とする奄美地域全体の自然資源を保全・活用していくための取組が重要。

○　国立公園と世界自然遺産との関係

世界自然遺産の推薦地域は、世界的に見て顕著な普遍的価値を有し、かつ、その価値が将来にわたって維持されるよう法的に厳正な保護を受けていることなどが必要。

奄美地域の世界的に見て顕著な普遍的価値は、多くの固有動植物の生息生育地となっている亜熱帯照葉樹林などを中心とした地域にあると考えているが、そうした地域以外にもすぐれた多様な景観を有する地域の指定を想定している国立公園の区域とは必ずしも一致しない。ただし、世界自然遺産として推薦しない地域も、遺産の価値を説明するためには不可欠な存在であり、推薦地域と一体としてその適切な保全・活用を図っていくことが重要。

奄美地域の自然資源の保全・活用に関する基本的な考え方（5章）
構成

（前文） 奄美地域の国立公園

奄美地域 ： 固有の動植物と生態系が育まれ、国際的・国内的に価値の高い自然資源
自然資源と人々の暮らしや意識の密接なつながり

このような特性を持つ奄美地域の国立公園は、

新しい国立公園！

生態系管理型国立公園 ： 亜熱帯照葉樹林を中心とする生態系全体を管理する国立公園

環境文化型国立公園 ： 数百年単位で自然と人とが深く関わり調和してきた関係そのものを扱う国立公園

また、地域とともにつくり、地域に貢献する国立公園に

（1） 国立公園として保全・活用を図ることが適当な地域

- 奄美に固有の動植物が生息・生育するために十分な範囲の照葉樹林（特に小河川などの水系に配慮し、森から河川、海までの連続性重視）
- 自然海岸が残る海岸線及び周辺海域（現在の奄美群島国定公園を中心として）
- 伝統的な集落景観の残る集落も一または複数含めることが望ましい

（2） 国立公園として保全・活用を図る際に特に留意すべき事項

① 生態系の管理
② 亜熱帯照葉樹林における持続的な森林管理
③ 環境と文化の融合
④ 持続可能な観光利用の推進

※ 内容は別紙参照

（3） 国立公園とその他の地域との関係

- 関係行政機関、民間団体、地域住民など、地域全体が協力して国立公園を中心とする奄美地域全体の自然資源を保全・活用していくための取組が重要

（4） 国立公園と世界自然遺産との関係

- 奄美地域において世界自然遺産の価値を持つと考えられるのは、多くの固有動植物の生息・生育地となっている亜熱帯照葉樹林を中心とする地域
- 国立公園区域と世界自然遺産の推薦地域は必ずしも一致しないが、推薦しない地域についても、推薦地域と一体としてその適切な保全・活用を図っていくことが重要

資料集　目次

１．琉球諸島位置図……1

２．奄美群島歴史年表……2

３．奄美群島の地理等の概況……4

４．奄美群島の社会経済状況

（１）人口・労働力等……5

①島別人口の推移……5

②人口構成（年齢別）の推移……6

③産業別就業者数の推移……7

（２）農林水産業……9

①耕地面積の推移……9

②耕地面積に占める水田比率の推移……9

③農業産出額の推移……10

④農家一戸当たりの耕地面積……11

⑤農家戸数……11

⑥耕地面積別農家戸数……12

⑦林野面積……13

⑧林業産出額の推移……15

⑨主要林産物の推移……16

⑩林業生産実績（生産品別）……17

⑪木材業、製材業及びチップ工場の所在状況の推移……18

⑫林野面積と耕地面積の推移……19

⑬漁業産出額の推移……21

⑭階層別漁船数……21

⑮漁業経営組織別経営体数……22

（３）所得等……23

（４）復興・振興・振興開発事業費等……26

５．自然資源等の現状

（１）表層地質図……29
（２）自然景観資源一覧……31
（３）地形・地質要素位置図……33
（４）現存植生図……35
（５）常緑広葉樹・海岸植生等の分布……37
（６）大陸性遺存種、島嶼間の種分化が進行中であることを明示する種等の分布（動物）……39
（７）大陸性遺存種、島嶼間の種分化が進行中であることを明示する種等の分布（植物）……43
（８）サンゴ礁・干潟・マングローブの分布……45
（９）ウミガメ上陸地点、海鳥繁殖地の分布……47
（10）島別植生自然度……49
（11）固有種・絶滅危惧種等……50

６．文化資源等の現状

（１）指定文化財……52
（２）年中行事……61
（３）奄美大島の人々の資源と空間の利用……62

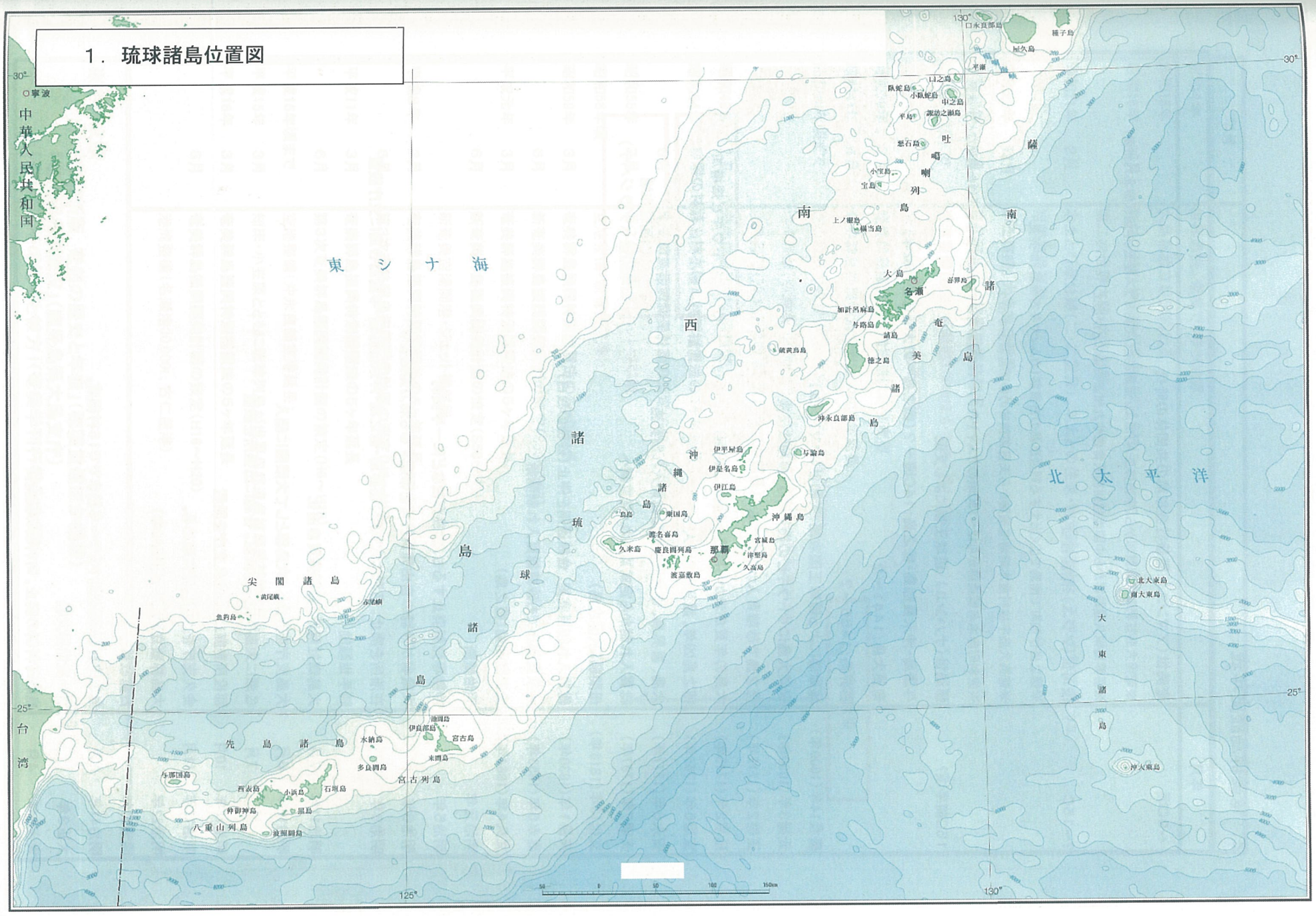
７．保護地域の概要

（１）奄美群島国定公園概要図……63
（２）鳥獣保護区・天然保護区位置図……65

８．観光利用の現状

（１）観光客数の推移……67
（２）月別入込者数……68
（３）主要観光施設の利用者数……69
（４）宿泊施設……69
（５）エコツアー等の実施状況……70

1．琉球諸島位置図


中華人民共和国
寧波
東シナ海
北太平洋
台湾
琉球諸島
尖閣諸島
先島諸島
宮古列島
八重山列島
南西諸島
奄美諸島
トカラ列島
薩南諸島
大東諸島
口永良部島
種子島
屋久島
平瀬
口之島
臥蛇島
小臥蛇島
中之島
諏訪之瀬島
平島
悪石島
小宝島
宝島
上ノ根島
横当島
大島
名瀬
加計呂麻島
与路島
請島
徳之島
沖永良部島
与論島
伊平屋島
伊是名島
伊江島
沖縄島
那覇
久米島
慶良間列島
渡嘉敷島
粟国島
渡名喜島
宮古島
伊良部島
池間島
来間島
水納島
多良間島
石垣島
西表島
小浜島
黒島
竹富島
波照間島
与那国島
尖閣諸島
魚釣島
北大東島
南大東島
沖大東島
30°
25°
125°
130°

2．奄美群島歴史年表

年月		
～9C頃		奄美世（アマンユ）：階級社会以前の共同体の時代
		※奄美大島笠利町宇宿貝塚から「宇宿弥生人」出土。装飾品として鉛ガラス製玉（中国朝鮮北九州産）
		※喜界島城久遺跡群から中国産越州窯系青磁や九州産石鍋などが出土
?～15C		按司世（アジユ）：階級社会
		※徳之島伊仙町で南島で広く出土する類須恵器の古窯群（カムィヤキ古窯群）が発見
		※奄美大島宇検村倉木崎海底遺跡から天目茶碗等の中国産製品が出土
		※笠利町赤木名城遺跡から12～13C頃のカムィヤキ、14･15C頃の青磁や大和の影響を受けた堀切などが発見
15C前半頃?		那覇世（ナハンユ）：琉球王朝による支配
		与論島・沖永良部島・徳之島：14C頃～？（徳之島への大親着任1562年）
		奄美大島：1441～？
		喜界島：1466～？
慶長14年（1609年）		薩摩藩による琉球王国攻略：大和世（ヤマトンユ）
元禄3年（1690年）		奄美大島にサトウキビの植え付け・製糖法伝来
正徳2年（1712年）		徳之島で砂糖買入れを命ずる
延享2年（1745年）		大島の年貢が米から黒糖へ（換糖上納制）
宝暦5年（1755年）		徳之島凶年。餓死者3千人
安永6年（1777年）		大島、喜界島、徳之島で砂糖総買入れ制実施
天明7年（1787年）		総買入れ制から定式買入れ・買重制へ
文化13年（1816年）		母間騒動（徳之島）
天保1年（1830年）		総買入れ制再実施、金銭通用を停止（砂糖の独占）
嘉永6年（1853年）		沖永良部島でも砂糖総買入れ制開始
文久4年（1864年）		犬田布騒動（徳之島）
明治元年		明治維新
明治5年		砂糖専売制廃止するも、大島商社などに一手契約
明治6年		大蔵省が砂糖の自由売買許可を布達するも効力発揮せず
明治8年	6月	在藩所を廃止。名瀬に大支庁、喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島各島に支庁設置
		勝手世騒動
明治11年	7月	大島商社解散。砂糖売買自由化
明治12年	6月	大島支庁を廃止し、大島郡として大隈国に編入
	7月	名瀬に大島郡役所を設置。各島に出張所を設置
明治18年	10月	郡役所を廃止し、金久支庁を設置
明治19年	11月	金久支庁を大島島庁に改める。
明治22年		大島郡独立経済（～昭和15年）
明治37年		日露戦争
明治41年	4月	島嶼町村制の実施。トカラ～与論まででで16村編成。
大正3年		第一次世界大戦
大正9年	4月	島嶼町村制の廃止。町村制の実施。

サトウキビ畑増加
樽木材、薪材の採取

斜面耕作地
山地開墾（アラジバテ）

年月		
昭和4年		世界恐慌。奄美でソテツ地獄
昭和15年		大島郡独立経済終わる
昭和16年	12月	町村の独立や改称が続き、5町16村に
		第二次世界大戦(太平洋戦争)
昭和21年	2月	本土と行政分離(二・二宣言)。本土との往来・物資輸送禁止:アメリカ世(アメリカユ)
		祖国復帰運動
昭和28年	12月	本土復帰。大島支庁設置
昭和29年	6月	奄美群島復興特別措置法制定
昭和38年頃まで		港湾整備(8港。名瀬港3,000tほか各島1港1,000t)
		空港整備(喜界空港、奄美空港)
昭和39年	3月	奄美群島振興特別措置法に名称変更
昭和44年	4月	奄美群島振興特別措置法の10ヶ年延長
昭和48年頃まで		陸上交通の確保(大和村や宇検村にも車道整備)
		港湾整備(名瀬港10,000t、亀徳・和泊港3,000t、湾・茶花港2,000t)
		空港整備(沖永良部空港、徳之島空港延長)
昭和49年	2月	奄美群島国定公園指定
昭和54年	3月	奄美群島振興特別措置法の5ヶ年延長
	6月	奄美群島振興開発計画の策定(S49～S58)
昭和55年	7月	徳之島空港にジェット機就航
昭和58年頃		空港整備(新奄美空港)
昭和59年	3月	奄美群島振興特別措置法の5ヶ年延長
	6月	新奄美群島振興開発計画の策定(S59～S63)
平成元年	3月	奄美群島振興特別措置法の5ヶ年延長
	6月	新奄美群島振興開発計画の策定(S59～H5)
		新奄美空港開港・ジェット機就航
平成6年	3月	奄美群島振興特別措置法の5ヶ年延長
	6月	第3次奄美群島振興開発計画の策定(H6～H10)
平成11年	3月	奄美群島振興特別措置法の5ヶ年延長
	6月	第3次奄美群島振興開発計画の策定(H6～H15)
平成15年頃まで		空港整備(沖永良部空港延長)
平成15年	3月	知床・小笠原とともに琉球列島が世界自然遺産推薦候補地となる
平成16年	3月	奄美群島振興特別措置法の5ヶ年延長
	8月	奄美群島振興開発計画の策定(H16～H20)
		港湾整備(名瀬港30,000t、古仁屋港)

減反政策

※参考文献
「改訂新版　奄美の歴史と年表」(穂積重信ほか編著)
「奄美群島の概況」(鹿児島県大島支庁)
「奄美学　その地平と彼方」(奄美学刊行委員会編)

３．奄美群島の地理等の概況

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
面積(ha)	81,247	5,693	24,777	9,365	2,047
平均気温(℃)	22.0 (名瀬測候所)	22.1 (喜界島測候所)	21.9 (天城測候所)	22.7 (沖永良部測候所)	22.8 (与論島測候所)
降水量(mm)	2,623	1,710	1,787	1,854	2,101
人口(人)	70,462	8,572	27,167	14,551	5,731
人口密度(人／ha)	7.3	3.5	4.0	3.8	6.3
最高標高(m)	694	211	645	240	97
ハブ生息有無	有	無	有	無	無
河川数(二級河川:本)	33	0	15	3	0
森林面積(ha)	69,422	1,066	11,147	969	82
森林率(%)	85	19	45	10	4
耕地面積(ha)	2,196	2,180	6,880	4,530	1,060
耕地率(%)	2.7	38.3	27.8	48.4	51.8
総生産額(千円)	192,564,703	21,683,027	67,470,925	41,425,750	13,524,962

※人口密度は、(面積－森林面積－耕地面積) ÷人口で計算。

※喜界島の最高標高は、喜界町職員から最新データを聞き取り。

4．奄美群島の社会経済状況

（1）人口・労働力等

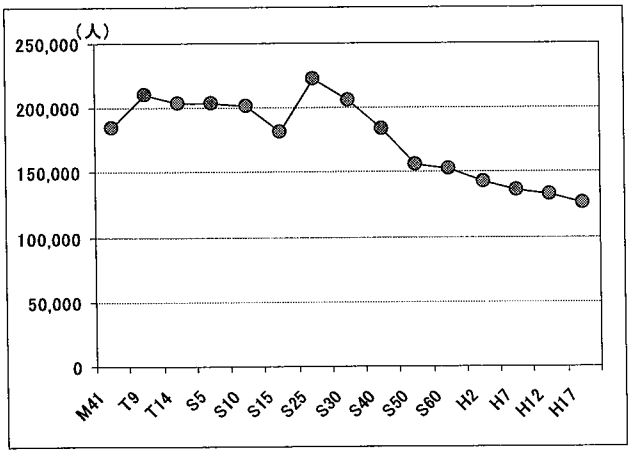
①島別人口の推移

単位：人

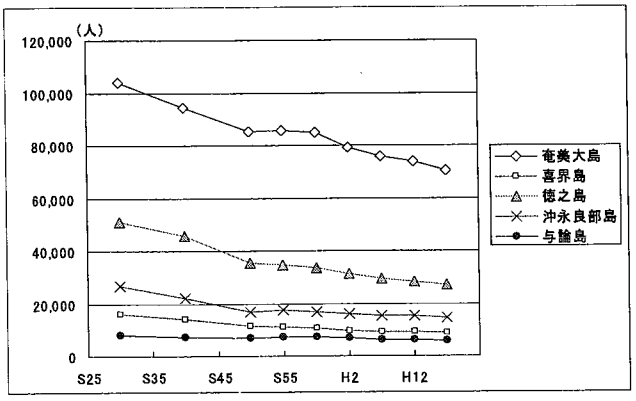
	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島	計
明治 41 年	—	—	—	—	—	185,033
大正 9 年	—	—	—	—	—	210,511
大正 14 年	—	—	—	—	—	203,912
昭和 5 年	—	—	—	—	—	204,062
昭和 10 年	—	—	—	—	—	200,973
昭和 15 年	—	—	—	—	—	181,495
昭和 25 年	—	—	—	—	—	222,779
昭和 30 年	103,907	16,037	50,932	26,636	7,851	205,363
昭和 40 年	94,348	14,231	45,662	22,049	7,181	183,471
昭和 50 年	85,171	11,464	35,391	16,882	6,971	155,879
昭和 55 年	85,600	11,169	34,646	17,339	7,320	156,074
昭和 60 年	84,799	10,591	33,632	16,818	7,222	153,062
平成 2 年	79,302	9,641	31,231	15,956	6,704	142,834
平成 7 年	75,832	9,268	29,156	15,325	6,210	135,791
平成 12 年	73,896	9,041	28,108	15,171	6,099	132,315
平成 17 年	70,462	8,572	27,167	14,551	5,731	126,483

（注）奄美大島には加計呂麻島、請島、与路島を含む

出典：国勢調査



図－奄美群島の人口推移



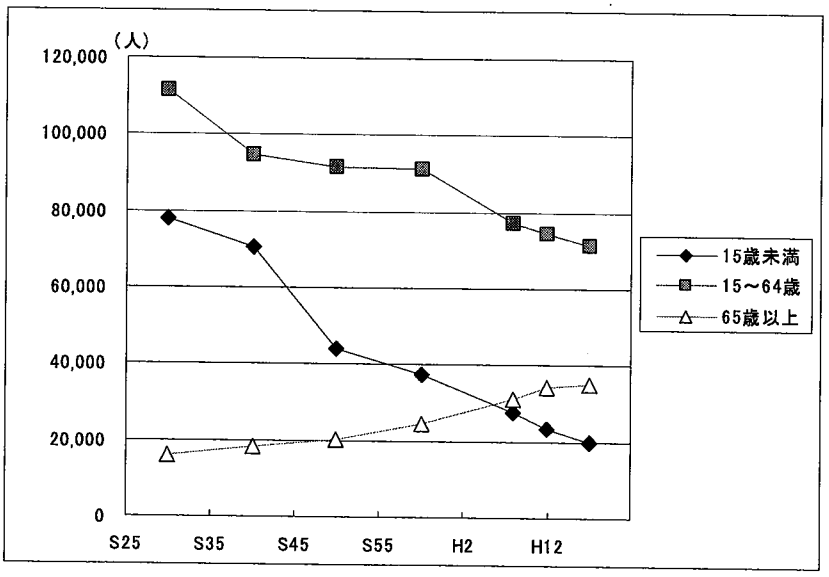
図－島別人口推移

②人口構成（年齢別）の推移

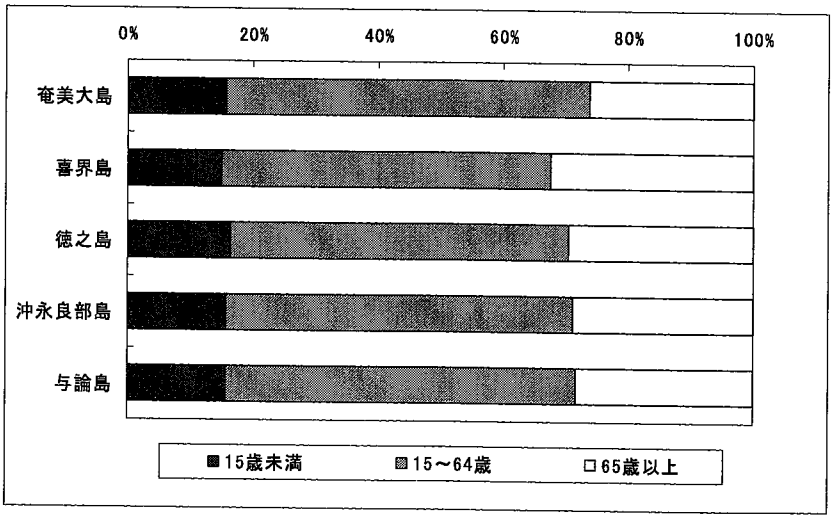
単位：人

	15歳未満		15～64歳		65歳以上		不詳		計
昭和30年	78,057	38.0%	111,515	54.3%	15,785	7.7%	6	0.0%	205,363
昭和40年	70,430	38.4%	94,675	51.6%	18,461	10.1%	0	0.0%	183,566
昭和50年	44,101	28.3%	91,516	58.7%	20,252	13.0%	10	0.0%	155,879
昭和60年	37,425	24.5%	91,269	59.6%	24,368	15.9%	0	0.0%	153,062
平成7年	27,584	20.3%	77,054	56.7%	31,153	22.9%	－	－	135,791
平成12年	23,189	17.5%	74,607	56.4%	34,189	25.8%	330	0.2%	132,315
平成17年	20,045	15.8%	71,336	56.4%	35,081	27.7%	21	0.0%	126,483
奄美大島	11,113	15.8%	40,902	58.0%	18,438	26.2%	9	0.0%	70,462
喜界島	1,290	15.0%	4,507	52.6%	2,775	32.4%	0	0.0%	8,572
徳之島	4,454	16.4%	14,665	54.0%	8,036	29.6%	12	0.0%	27,167
沖永良部島	2,287	15.7%	8,062	55.4%	4,202	28.9%	0	0.0%	14,551
与論島	901	15.7%	3,200	55.8%	1,630	28.4%	0	0.0%	5,731

出典：国勢調査



図－年齢別人口の推移



図－島別人口構成（平成17年）

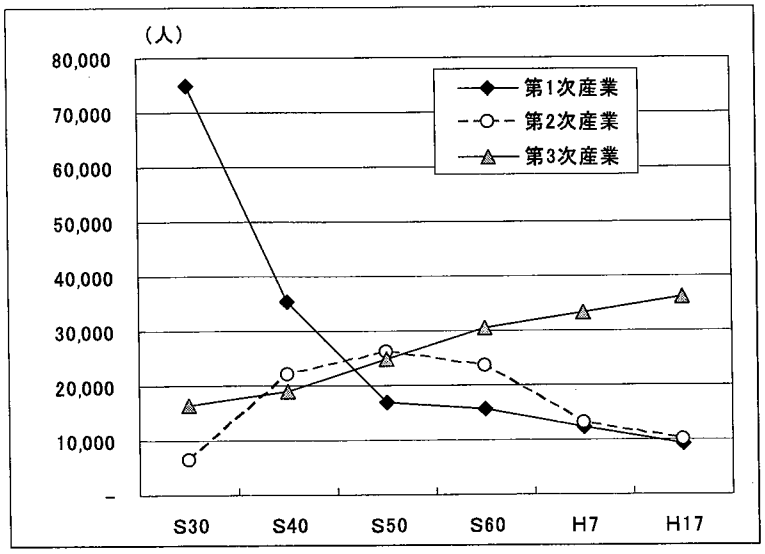
③産業別就業者数の推移

○産業別就業者数の推移

単位：人

産業別＼年別	奄美群島							鹿児島県		全国	
	昭和30年	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成7年	平成17年		平成17年		平成17年	
総数	97,928	76,704	68,064	69,894	58,822	55,429	100.0%	809,835	100.0%	61,505,973	100.0%
第1次産業	74,899	35,464	16,940	15,567	12,233	9,303	16.8%	94,335	11.6%	2,965,791	4.8%
農業	71,857	33,934	15,639	14,371	10,975	8,497	15.3%	86,141	10.6%	2,703,360	4.4%
林業	1,769	631	442	309	112	49	0.1%	1,175	0.1%	46,618	0.1%
漁業	1,273	899	859	987	1,146	757	1.4%	7,019	0.9%	215,813	0.4%
第2次産業	6,486	22,090	26,173	23,659	13,121	9,903	17.9%	171,497	21.2%	16,065,188	26.1%
鉱業	56	349	110	102	149	78	0.1%	674	0.1%	26,921	0.0%
建設業	2,316	5,279	4,936	6,987	7,991	6,711	12.1%	79,983	9.9%	5,391,905	8.8%
製造業	4,114	16,462	21,127	16,570	4,981	3,114	5.6%	90,840	11.2%	10,646,362	17.3%
第3次産業	16,535	19,096	24,804	30,532	33,420	36,183	65.3%	539,970	66.7%	41,328,993	67.2%
電気・ガス・熱供給・水道業	－	242	325	409	426	357	0.6%	3,522	0.4%	279,799	0.5%
情報通信業	2,234	2,433	2,916	3,296	2,733	283	0.5%	7,486	0.9%	1,624,480	2.6%
運輸業						1,846	3.3%	35,286	4.4%	3,132,712	5.1%
卸売・小売業	6,017	6,736	8,660	10,548	10,589	8,480	15.3%	146,868	18.1%	11,018,413	17.9%
飲食店・宿泊業						839	1.5%	42,991	5.3%	3,223,451	5.2%
金融・保険業	273	491	635	983	997	230	0.4%	16,993	2.1%	1,537,830	2.5%
不動産業			39	97	132	3,308	6.0%	5,603	0.7%	859,635	1.4%
医療・福祉	－	－	－	－	－	7,628	13.8%	100,051	12.4%	5,353,261	8.7%
教育・学習支援事業	－	－	－	－	－	3,067	5.5%	38,163	4.7%	2,702,160	4.4%
複合サービス業	－	－	－	－	－	1,213	2.2%	14,202	1.8%	679,350	1.1%
サービス業	5,453	6,516	8,867	11,620	14,525	5,137	9.3%	92,451	11.4%	8,819,754	14.3%
公務	2,588	2,678	3,362	3,579	4,018	3,795	6.8%	36,354	4.5%	2,098,148	3.4%
分類不能の産業	8	54	147	36	48	40	0.1%	4,033	0.5%	1,146,001	1.9%

出典：国勢調査

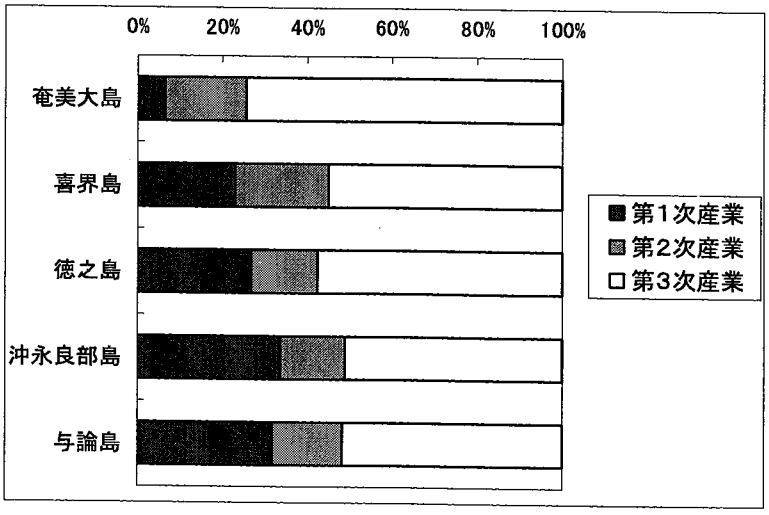


図－産業別就業者数の推移

○島別産業別就業者数（平成 17 年）

産業別＼島別	奄美大島		喜界島		徳之島		沖永良部島		与論島	
	就業者数（人）	割合	就業者数（人）	割合	就業者数（人）	割合	就業者数（人）	割合	就業者数（人）	割合
総数	29884	100%	3886	100%	11344	100%	7325	100%	2990	100%
第 1 次産業	1959	6.6%	894	23.0%	3030	26.7%	2471	33.7%	949	31.7%
農業	1329	4.4%	859	22.1%	2982	26.3%	2440	33.3%	887	29.7%
林業	46	0.2%	1	0.0%	2	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
漁業	584	2.0%	34	0.9%	46	0.4%	31	0.4%	62	2.1%
第 2 次産業	5661	18.9%	852	21.9%	1782	15.7%	1114	15.2%	494	16.5%
鉱業	59	0.2%	0	0.0%	12	0.1%	7	0.1%	0	0.0%
建設業	3474	11.6%	603	15.5%	1403	12.4%	928	12.7%	303	10.1%
製造業	2128	7.1%	249	6.4%	367	3.2%	179	2.4%	191	6.4%
第 3 次産業	22239	74.4%	2136	55.0%	6525	57.5%	3737	51.0%	1546	51.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	223	0.7%	28	0.7%	44	0.4%	44	0.6%	18	0.6%
情報通信業	242	0.8%	3	0.1%	19	0.2%	15	0.2%	4	0.1%
運輸業	1106	3.7%	126	3.2%	314	2.8%	208	2.8%	92	3.1%
卸売・小売業	5160	17.3%	519	13.4%	1579	13.9%	850	11.6%	372	12.4%
飲食店・宿泊業	2027	6.8%	192	4.9%	538	4.7%	351	4.8%	200	6.7%
金融・保険業	594	2.0%	39	1.0%	132	1.2%	60	0.8%	14	0.5%
不動産業	211	0.7%	0	0.0%	15	0.1%	4	0.1%	0	0.0%
医療・福祉	4812	16.1%	374	9.6%	1407	12.4%	733	10.0%	302	10.1%
教育・学習支援事業	1780	6.0%	212	5.5%	649	5.7%	289	3.9%	137	4.6%
複合サービス業	556	1.9%	87	2.2%	323	2.8%	159	2.2%	88	2.9%
サービス業	3337	11.2%	254	6.5%	908	8.0%	472	6.4%	166	5.6%
公務	2191	7.3%	302	7.8%	597	5.3%	552	7.5%	153	5.1%
分類不能の産業	25	0.1%	4	0.1%	7	0.1%	3	0.0%	1	0.0%

出典：国勢調査



図－島別産業別就業者の割合（平成 17 年）

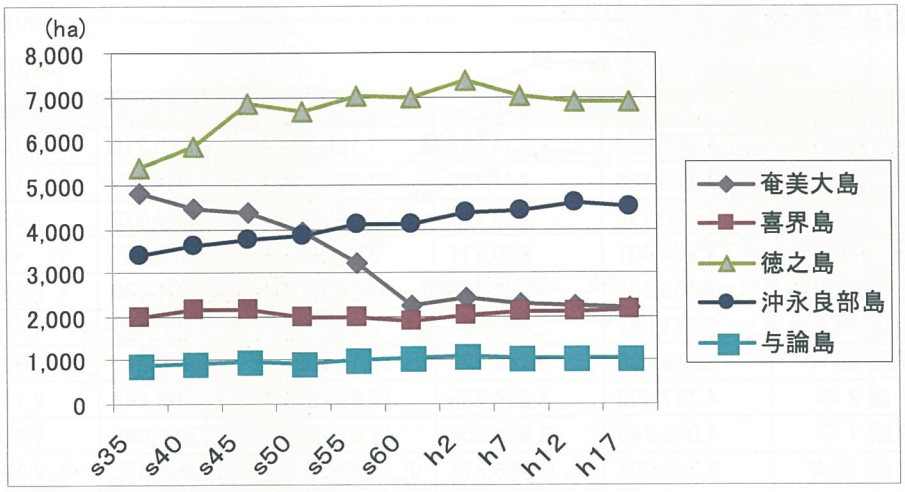
（２）農林水産業

①耕地面積の推移

単位：ha

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
昭和 35 年	4,834	1,984	5,405	3,416	876
昭和 40 年	4,470	2,159	5,895	3,627	929
昭和 45 年	4,372	2,159	6,854	3,759	952
昭和 50 年	3,937.6	1,997	6,675	3,844	918.4
昭和 55 年	3,234	2,011	7,045	4,091	1,021
昭和 60 年	2,249	1,890	6,990	4,110	1,080
平成 2 年	2,422	2,020	7,360	4,360	1,110
平成 7 年	2,303	2,130	7,010	4,420	1,060
平成 12 年	2,243	2,130	6,910	4,580	1,060
平成 17 年	2,196	2,180	6,880	4,530	1,060

「奄美群島の概況」から作成



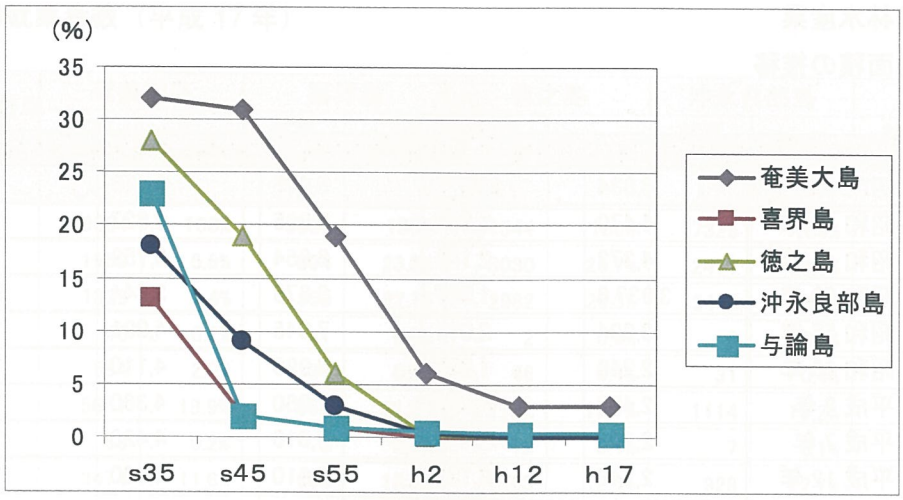
図－耕地面積の推移

②耕地面積に占める水田比率の推移

単位：%

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
昭和 35 年	32	13	28	18	23
昭和 45 年	31	2	19	9	2
昭和 55 年	19	1	6	3	1
平成 2 年	6	0	0.2	0.3	0.5
平成 12 年	3	0	0.06	0.07	0.4
平成 17 年	2.9	0	0.06	0.07	0.38

「奄美群島の概況」から作成



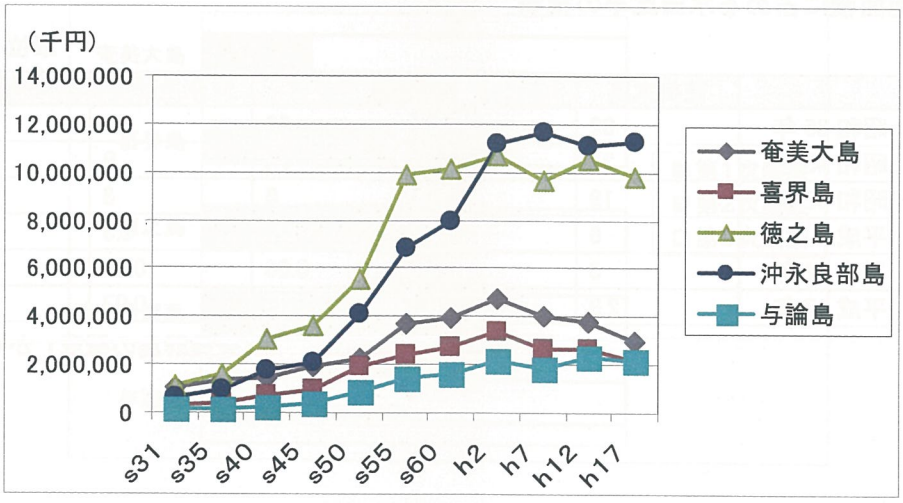
図－水田比率の推移

③農業産出額の推移

単位：千円

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
昭和 31 年	1,069,933	336,305	1,109,201	640,275	149,014
昭和 35 年	1,335,426	441,925	1,595,336	984,229	184,903
昭和 40 年	1,410,979	729,192	3,021,116	1,768,578	233,086
昭和 45 年	1,964,401	950,711	3,620,438	2,118,441	407,563
昭和 50 年	2,258,853	1,904,975	5,587,069	4,101,630	904,632
昭和 55 年	3,671,081	2,420,591	9,882,987	6,812,749	1,465,533
昭和 60 年	3,968,086	2,747,129	10,155,298	7,990,340	1,569,488
平成 2 年	4,737,406	3,354,733	10,695,277	11,189,493	2,151,392
平成 7 年	4,046,246	2,615,658	9,616,609	11,641,848	1,884,539
平成 12 年	3,749,006	2,686,916	10,505,237	11,063,575	2,296,802
平成 17 年	2,958,924	2,179,075	9,795,754	11,253,644	2,209,185

「奄美群島の概況」から作成



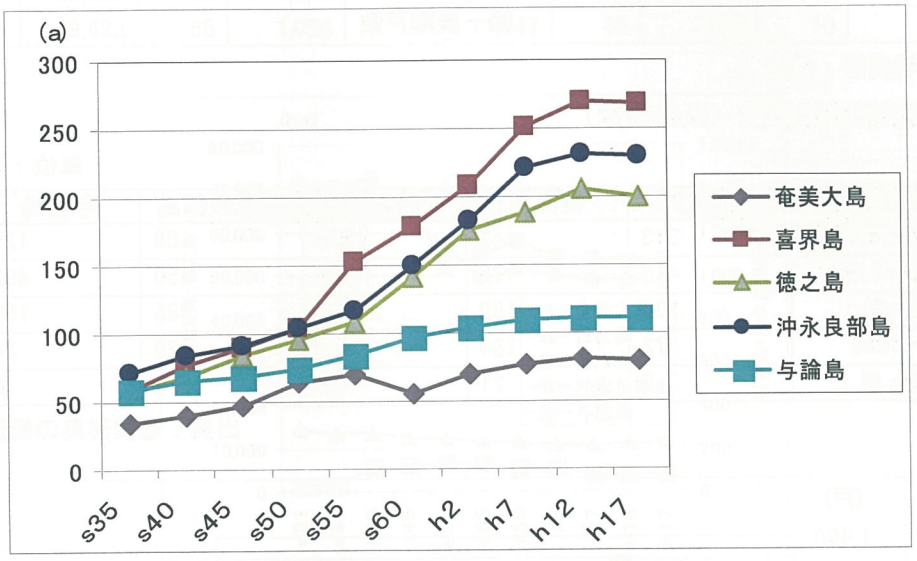
図－農業産出額の推移

④農家一戸当たりの耕地面積

単位：a

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
昭和 35 年	34	59	57	71	59
昭和 40 年	40	77	69	85	66
昭和 45 年	47	90	85	92	68
昭和 50 年	65	105	96	104	74
昭和 55 年	70	153	109	117	85
昭和 60 年	55.6	179	141.2	149.7	97.2
平成 2 年	70.1	208	175.7	182.8	104.2
平成 7 年	77	251.8	188.2	221.2	109.9
平成 12 年	81.8	269.6	206	231.4	111.8
平成 17 年	80	268.4	199.8	229.4	111.8

「奄美群島の概況」から作成



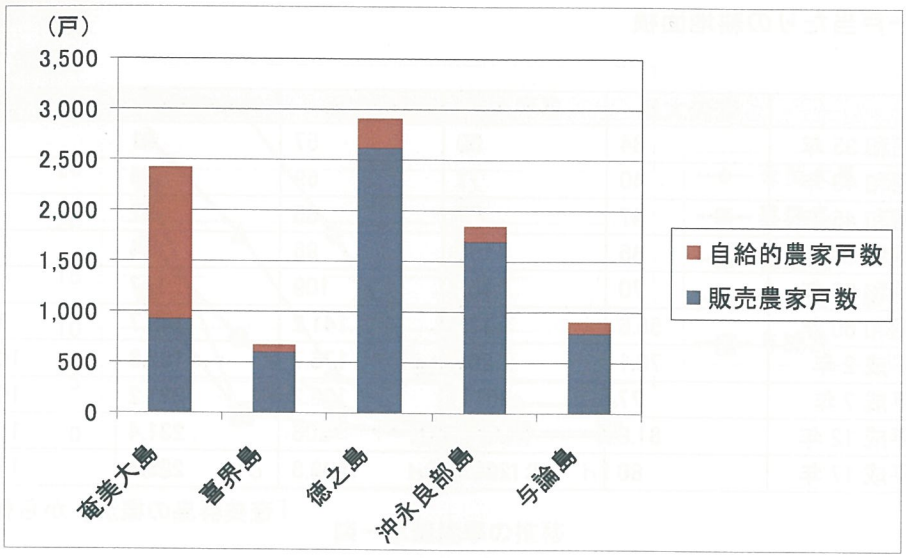
図－農家一戸当たりの耕地面積

⑤農家戸数

単位：戸

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
販売農家戸数	926	602	2,616	1,684	797
自給的農家戸数	1,489	65	285	161	103
総農家戸数	2,415	667	2,901	1,845	900

出典：奄美群島の概況



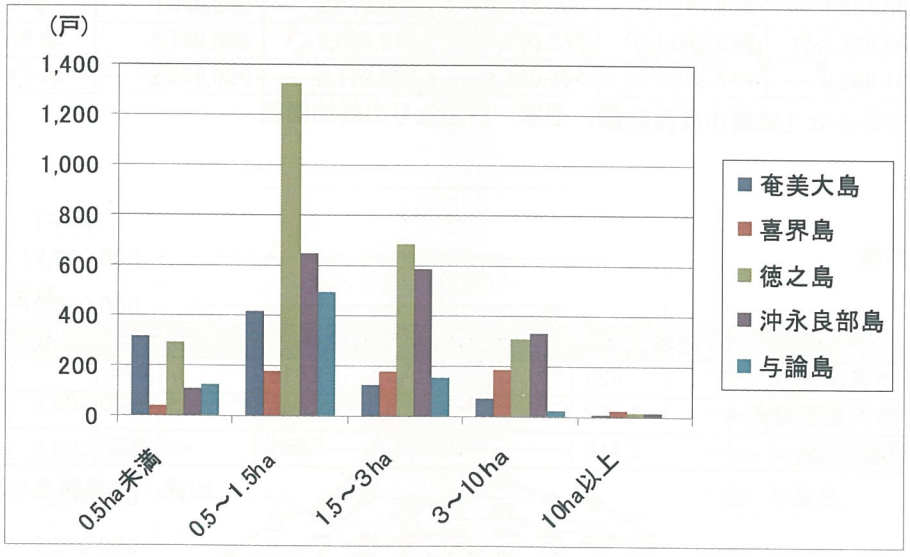
図ー農家戸数

⑥耕地面積別農家戸数（販売農家）

単位：戸

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
0.5ha 未満	313	42	289	108	125
0.5～1.5ha	413	175	1,322	650	492
1.5～3ha	120	180	683	585	156
3～10ha	72	184	305	328	24
10ha 以上	8	21	17	13	0

出典：奄美群島の概況



図ー耕地面積別農家戸数

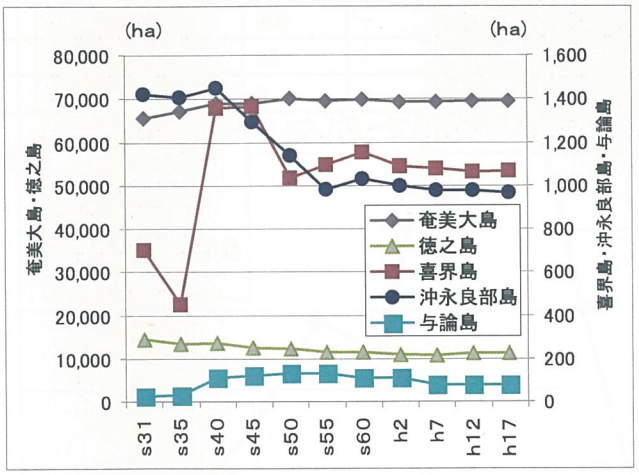
⑦林野面積

○林野面積・林野率の推移

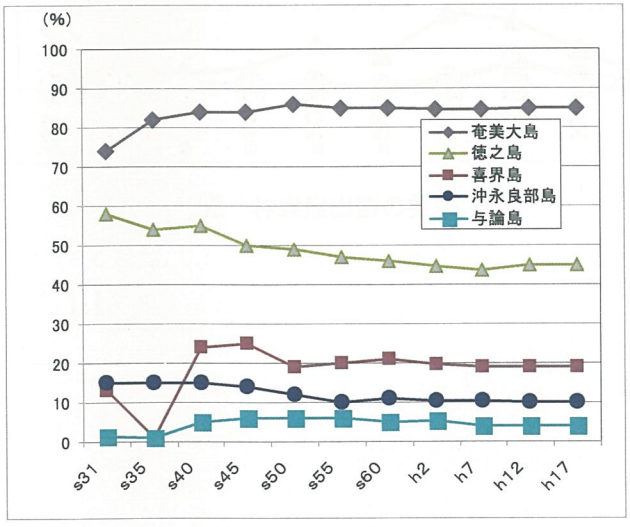
単位：ha，％

	奄美大島		喜界島		徳之島		沖永良部島		与論島	
	林野面積	林野率	林野面積	林野率	林野面積	林野率	林野面積	林野率	林野面積	林野率
昭和 31 年	65,478	74	703	13	14,501	58	1,421	15	29	1.4
昭和 35 年	67,172	82	449	1	13,434	54	1,409	15	30	1
昭和 40 年	68,966	84	1,358	24	13,712	55	1,447	15	113	5
昭和 45 年	68,891	84	1,366	25	12,514	50	1,293	14	126	6
昭和 50 年	70,075	86	1,038	19	12,229	49	1,140	12	135	6
昭和 55 年	69,556	85	1,097	20	11,649	47	982	10	133	6
昭和 60 年	69,737	85	1,152	21	11,436	46	1,029	11	111	5
平成 2 年	69,394	84.6	1,090	19.6	11,078	44.6	996	10.5	111	5.3
平成 7 年	69,377	84.7	1,078	19	10,801	43.6	978	10.4	83	4.1
平成 12 年	69,420	85	1,061	19	11,185	45	978	10	82	4
平成 17 年	69,422	85	1,066	19	11,147	45	969	10	82	4

出典：奄美群島の概況



図－林野面積の推移



図－林野率の推移

○土地所有別林野面積

単位：ha，％

	総土地面積	林野面積	総面積に対する林野率	国有林			
				林野庁所管	官行造林地	その他	計
総計	124,014	82,687	67%	7,866	80	－	7,945
奄美大島	82,117	69,422	85%	4,055	80	－	4,134
喜界島	5,691	1,066	19%	－	－	－	－
徳之島	24,791	11,147	45%	3,811	－	－	3,811
沖永良部島	9,366	969	10%	－	－	－	－
与論島	2,049	82	4%	－	－	－	－

	民有林									
	県営林	市町村有林	公有林計	緑資源機構	集落有林	会社有林	個人有林	その他	私有林計	計
総計	303	15,355	15,658	1,215	18,218	7413	28,088	4,149	59,084	74,742
奄美大島	282	14,146	14,428	1,215	16,827	7047	22,880	2,889	50,858	65,287
喜界島	1	137	138	－	552	3	255	119	928	1,066
徳之島	9	730	739	－	808	363	4364	1064	6,598	7,337
沖永良部島	11	318	329	－	28	0	535	77	640	969
与論島	－	24	24	－	3	1	54	1	59	82

（注）1 総数と内訳の合計は四捨五入の関係で一致しない。

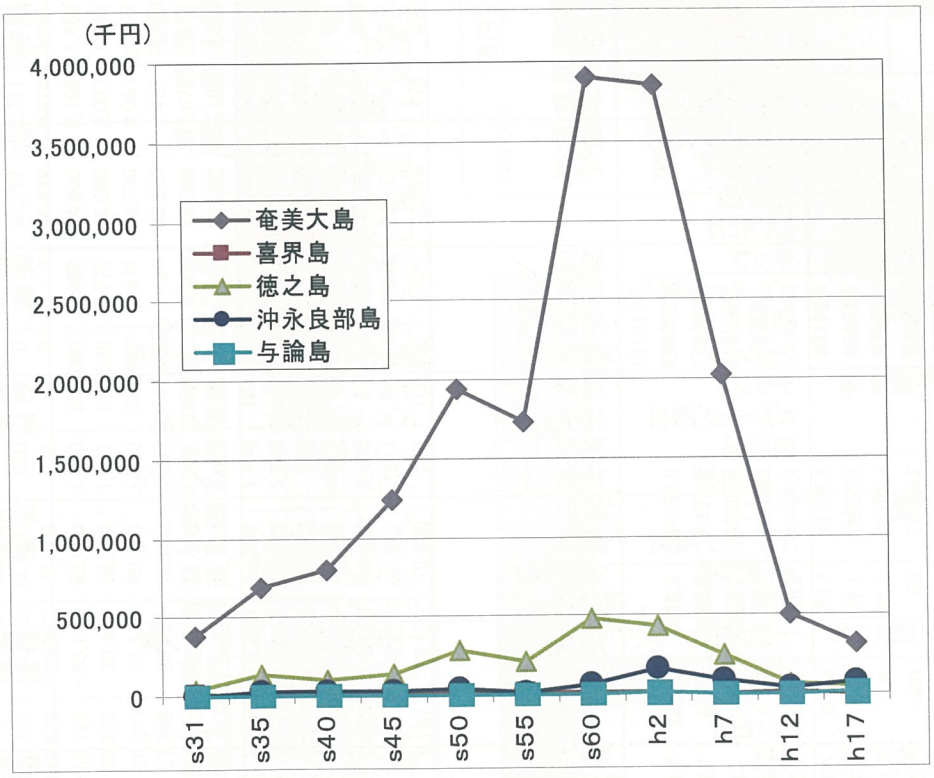
出典：奄美群島の概況（鹿児島県）

⑧林業産出額の推移

単位：千円

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
昭和 31 年	383,015	9,756	39,556	4,769	30
昭和 35 年	685,257	5,329	137,766	27,550	80
昭和 40 年	795,077	5,197	100,210	23,830	1,087
昭和 45 年	1,234,646	5,986	134,866	26,740	1,248
昭和 50 年	1,935,182	7,845	277,005	40,020	1,810
昭和 55 年	1,734,205	7,451	207,065	15,039	1,510
昭和 60 年	3,903,037	6,763	484,519	60,066	5,201
平成 2 年	3,850,768	10,986	427,210	158,540	6,478
平成 7 年	2,021,244	5,712	241,643	81,943	4,094
平成 12 年	497,335	9,536	60,174	40,618	5,648
平成 17 年	317,379	4,070	52,278	76,517	10,125

出典：奄美群島の概況



図－林業産出額の推移

⑨主要林産物の推移

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
昭和 31 年	素材 製材 木炭 樹実	素材 製材 ヘゴ材等 松脂	製材 素材 木炭 樹実	製材 松脂 ヘゴ材等 薪材	ヘゴ材等
昭和 35 年	パルプ 一般用材 薪材 しいたけ	パルプ 薪材 樹苗	パルプ 一般用材 薪材 木炭	パルプ 薪材 一般用材 松種子	樹苗
昭和 40 年	一般用材 パルプ用材 枕木用材 しいたけ	ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ 薪材 一般用材 樹苗	一般用材 ﾊﾟﾙﾌﾟ用材 薪材 しいたけ	一般用材 薪材 ﾊﾟﾙﾌﾟ用材 樹苗	薪材 樹苗
昭和 45 年	パルプ用材 チップ 製材品 一般用材	薪材 樹苗 ﾊﾟﾙﾌﾟ用材 ｷｸﾗｹﾞ	ﾊﾟﾙﾌﾟ用材 薪材 一般用材 樹苗	製材品 一般用材 薪材 ﾊﾟﾙﾌﾟ用材	薪材 樹苗
昭和 50 年	ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 製材品 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ 一般用材	薪材 樹苗 木炭 竹材	ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 薪材 製材品 一般用材	製材品 一般用材 薪材	薪材 樹苗
昭和 55 年	ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ 製材品 しいたけ	薪材 木炭	ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 製材品 薪材 しいたけ	薪材	薪材
昭和 60 年	チップ ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 製材品 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ	種苗 薪材 木炭 狩猟	チップ ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ 製材品	薪材 種苗 製材品 一般用材	種苗 薪材
平成 2 年	チップ ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 製材品 一般用材	種苗 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ 薪材 狩猟	チップ ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 しいたけ ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ	種苗 製材品 薪材 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ	種苗 薪材
平成 7 年	チップ ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 一般用材 製材品	種苗 薪材 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ 狩猟	チップ ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材 しいたけ ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ	種苗 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ 薪材 狩猟	種苗 狩猟
平成 12 年	一般用材 チップ ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ しいたけ	種苗 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ	一般用材 しいたけ ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ ﾊﾟﾙ･ﾁｯﾌﾟ用材	ソテツ実 種苗 狩猟 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ	種苗 狩猟
平成 17 年	狩猟 製材品 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ チップ	種苗 木炭 狩猟	製材品 一般用材 しいたけ 狩猟	種苗 狩猟 ｼｬﾘﾝﾊﾞｲ ソテツ実	種苗 狩猟

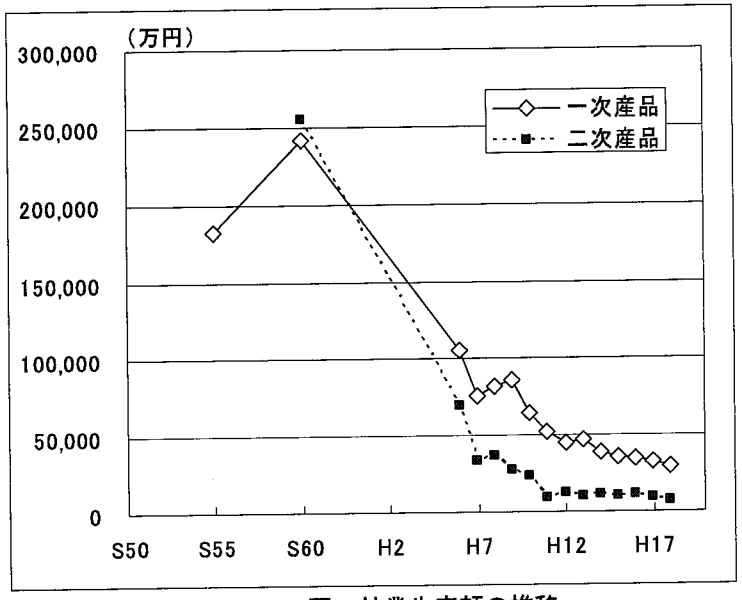
「奄美群島の概況」から作成

⑩林業生産実績（生産品別）

区分 / 市町村別	一次産品																			
	一般用材		パルプ・チップ用材		素材計		木炭・粉炭		ソテツ実		しいたけ		しゃりんばい		狩猟		種苗		その他	小計
	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額	量	額		
	m^3	万円	m^3	万円	m^3	万円	(俵)kg	万円	kg	万円	kg	万円	t	万円	頭(羽)	万円	千本	万円	万円	万円
昭和 55 年度	4,324	6,918	120,948	114,901	125,272	121,819	(3,870)	890	0	0	88,367	12,371	5,192	19,885		0		0	26,944	181,910
60 〃	6,326	8,861	136,247	161,236	142,573	170,097	41,400	828	0	0	84,439	10,310	8,031	14,145	6,460	3,661	907	3,145	39,059	241,245
平成6年度	8,729	13,698	47,396	46,462	56,125	60,161	63,900	1,150	599,000	5,990	84,800	9,108	1,355	6,775	2,183	5,386	532	2,739	14,380	105,688
7 〃	7,235	10,853	21,083	19,607	28,318	30,459	58,700	1,057	577,040	5,770	76,030	8,037	1,282	6,410	2,171	6,057	522	2,798	15,675	76,262
8 〃	5,858	9,002	23,783	22,571	29,641	31,574	60,000	1,032	547,400	5,474	76,000	8,094	1,239	6,195	1,737	4,474	315	1,666	23,810	82,319
9 〃	5,905	8,858	21,544	19,605	27,449	28,462	48,000	999	447,600	7,430	80,200	8,421	1,200	6,000	2,564	8,445	292	1,542	24,213	85,512
10 〃	1,764	2,646	15,048	13,693	16,812	16,339	51,000	1,056	469,500	7,794	65,800	7,679	1,134	7,129	1,957	4,772	194	1,319	18,264	64,351
11 〃	6,381	9,572	4,746	4,366	11,127	13,938	92,577	2,062	345,624	5,081	51,800	5,186	1,003	6,061	2,081	3,781	289	1,884	13,954	51,946
12 〃	2,600	3,900	4,526	4,364	7,126	8,064	77,378	1,484	181,050	3,873	62,339	5,941	860	5,154	1,753	4,647	338	1,877	13,919	44,958
13 〃	3,758	5,261	3,324	2,659	7,082	7,920	70,610	1,149	142,700	4,735	49,701	4,743	845	5,068	2,044	5,977	507	4,060	13,421	47,072
14 〃	3,393	4,750	2,985	2,090	6,378	6,840	39,125	685	120,300	2,017	40,369	4,085	895	5,365	2,055	5,035	199	3,020	12,021	39,067
15 〃	3,804	4,945	3,154	2,208	6,958	7,153	31,557	557	98,900	1,931	26,320	2,913	841	5,046	1,798	4,060	164	2,672	11,976	36,309
16 〃	3,686	4,423	1,757	1,230	5,443	5,653	24,542	445	79,800	1,995	33,046	3,304	807	4,843	2,767	6,283	166	2,270	10,354	35,147
17 〃	2,891	3,180	3,596	2,517	6,487	5,697	25,512	574	63,042	1,040	29,177	2,762	695	4,165	1,730	3,851	189	3,049	11,481	32,618
18 〃	1,856	2,423	4,245	2,730	6,101	5,152	12,880	254	106,650	2,026	29,096	2,879	598	3,582	1,723	3,574	130	2,500	94,385	29,404

区分 / 市町村別	二次産品							一次・二次産品合計
	チップ		製材品		バーク		小計	
	量	額	量	額	量	額		
	m3	万円	m3	万円	t	万円	万円	万円
昭和 55 年度	–	–	–	–	–	–	–	181910.1
60 〃	131,791	221,409	5195	29429.6	15677	3919.3	254757.8	496002.4
平成6年度	39,084	60,442	1707	7887	6928	1385.6	69715	175402.9
7 〃	18,958	28,179	1073	4598.5	2948	589.6	33367.3	109629.6
8 〃	20,621	30,677	1205	5320	4016	803.2	36800.2	119118.7
9 〃	17,440	25,811	400	1323	2392	355.2	27489.4	113001
10 〃	15,029	22,243	355	1180	2000	337	23759.5	88110.4
11 〃	4,115	6,090	965	3203	547	92.1	9385.1	61331.1
12 〃	5,400	5,400	2130	7084.3	500	84.1	12568.4	57526.7
13 〃	4,000	4,000	1765	6120.2	400	65	10185.2	57257.3
14 〃	4,500	4,800	1700	6800	400	65	11665	50731.7
15 〃	5,600	5,600	725	4706.8	800	160	10466.8	46775.4
16 〃	4,200	4,200	1245	6480	800	209.5	10889.5	46036.9
17 〃	3,100	3,100	1113	5972	680	171.7	9243.7	41861.3
18 〃	3,000	3,000	854	4358	366	842	7441.8	36845.4

出典：奄美群島の概況



図ー林業生産額の推移

⑪木材業、製材業及びチップ工場の所在状況

年度別	素材生産業　(件) (～H10＝木材業登録者)	製材工場　(件) (～H10＝製材業登録者)	チップ工場 (件)
昭和 55 年度	111	11	6
60 〃	115	11	7
平成 2 〃	106	8	7
5 〃	92	7	7
6 〃	78	7	6
7 〃	63	5	3
8 〃	59	4	3
9 〃	59	4	3
10 〃	57	4	3
11 〃	6	4	1
12 〃	6	4	1
13 〃	4	5	1
14 〃	4	5	1
15 〃	5	5	1
16 〃	5	4	1
17 〃	5	4	1
18 〃	**5**	**4**	**1**
(奄美大島)	**4**	**3**	**1**
旧名瀬市	2	–	–
大和村	–	–	–
宇検村	1	1	–
瀬戸内町	1	1	–
旧住用村	–	–	–
龍郷村	–	–	–
旧笠利村	–	1	1
(喜界島)	–	–	–
喜界町	–	–	–
(徳之島)	**1**	**1**	–
徳之島町	–	–	–
天城町	1	1	–
伊仙町	–	–	–
(沖永良部島)	–	–	–
和泊町	–	–	–
知名町	–	–	–
(与論島)	–	–	–
与論町	–	–	–

(注)1 市町村別内訳は平成 17 年度分
2 木材業・製材業の登録制度は、平成 10 年度末で廃止された。
3 奄美大島には、加計呂麻島、請島、与路島を含む。

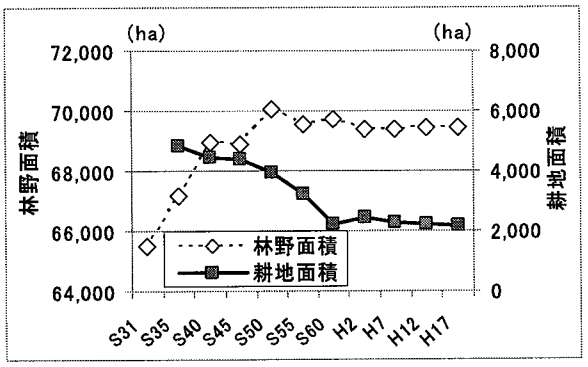
出典:奄美群島の概況

⑫林野面積と耕地面積の推移

＜奄美大島＞

単位：ha

	林野面積	耕地面積
昭和 31 年	65,478	
昭和 35 年	67,172	4,834
昭和 40 年	68,966	4,470
昭和 45 年	68,891	4,372
昭和 50 年	70,075	3,937.6
昭和 55 年	69,556	3,234
昭和 60 年	69,737	2,249
平成 2 年	69,394	2,422
平成 7 年	69,377	2,303
平成 12 年	69,420	2,243
平成 17 年	69,422	2,193

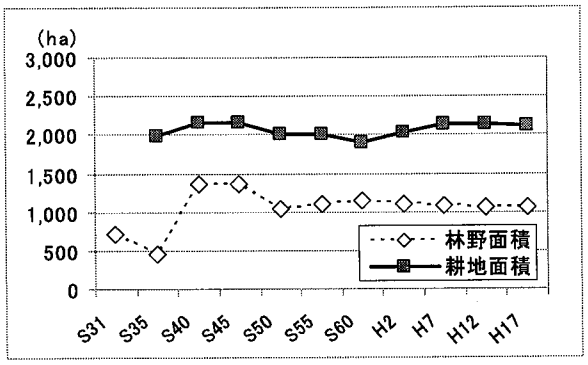


図－林野面積と耕地面積の推移（奄美大島）

＜喜界島＞

単位：ha

	林野面積	耕地面積
昭和 31 年	703	
昭和 35 年	449	1,984
昭和 40 年	1,358	2,159
昭和 45 年	1,366	2,159
昭和 50 年	1,038	1,997
昭和 55 年	1,097	2,011
昭和 60 年	1,152	1,890
平成 2 年	1,090	2,020
平成 7 年	1,078	2,130
平成 12 年	1,061	2,130
平成 17 年	1,066	2,120

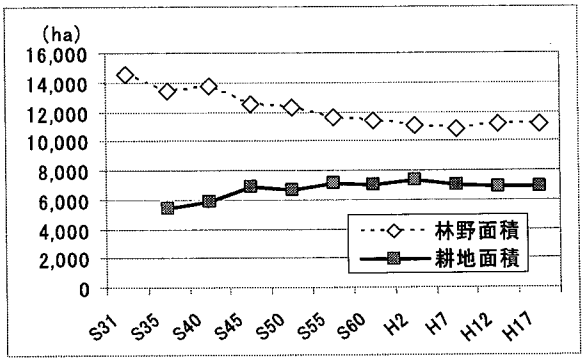


図－林野面積と耕地面積の推移（喜界島）

＜徳之島＞

単位：ha

	林野面積	耕地面積
昭和 31 年	14,501	
昭和 35 年	13,434	5,405
昭和 40 年	13,712	5,895
昭和 45 年	12,514	6,854
昭和 50 年	12,229	6,675
昭和 55 年	11,649	7,045
昭和 60 年	11,436	6,990
平成 2 年	11,078	7,360
平成 7 年	10,801	7,010
平成 12 年	11,185	6,910
平成 17 年	11,147	6,890

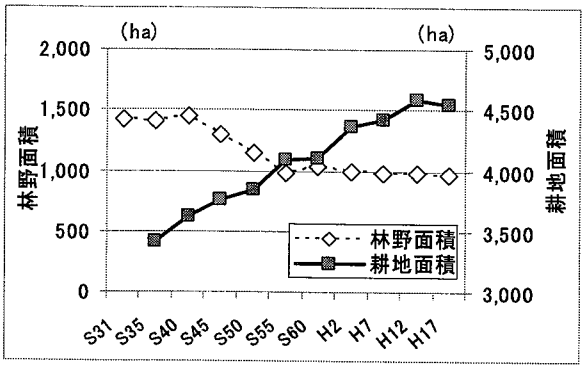


図－林野面積と耕地面積の推移（徳之島）

＜沖永良部島＞

単位：ha

	林野面積	耕地面積
昭和 31 年	1,421	
昭和 35 年	1,409	3,416
昭和 40 年	1,447	3,627
昭和 45 年	1,293	3,759
昭和 50 年	1,140	3,844
昭和 55 年	982	4,091
昭和 60 年	1,029	4,110
平成 2 年	996	4,360
平成 7 年	978	4,420
平成 12 年	978	4,580
平成 17 年	969	4,540

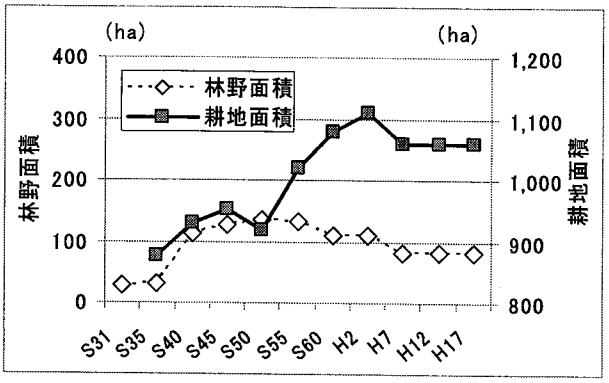


図－林野面積と耕地面積の推移（沖永良部島）

＜与論島＞

単位：ha

	林野面積	耕地面積
昭和 31 年	29	
昭和 35 年	30	876
昭和 40 年	113	929
昭和 45 年	126	952
昭和 50 年	135	918.4
昭和 55 年	133	1,021
昭和 60 年	111	1,080
平成 2 年	111	1,110
平成 7 年	83	1,060
平成 12 年	82	1,060
平成 17 年	82	1,060



図－林野面積と耕地面積の推移（与論島）

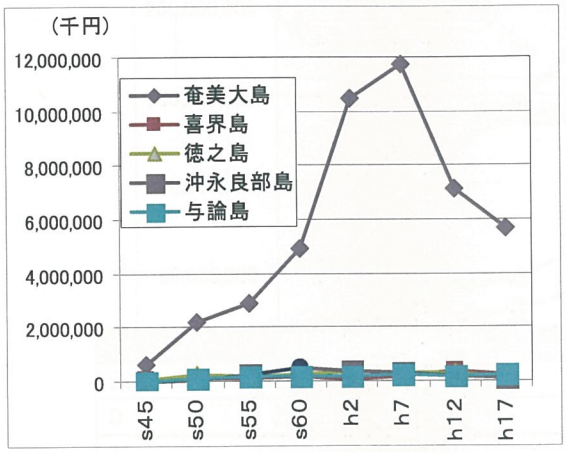
以上「奄美群島の概況」から作成

⑬漁業産出額の推移

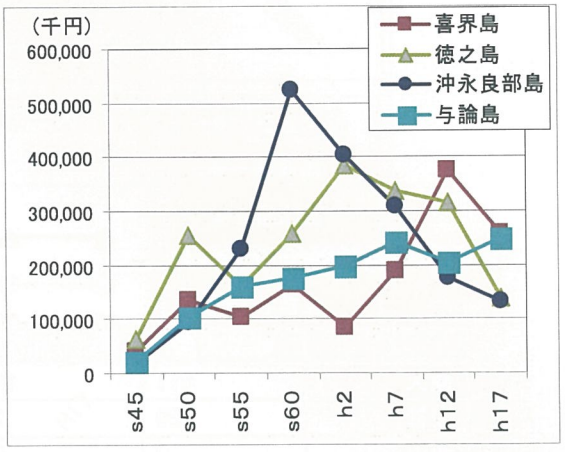
単位：千円

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
昭和 45 年	646,840	40,965	63,445	19,552	21,640
昭和 50 年	2,183,232	134,470	254,435	94,415	103,465
昭和 55 年	2,930,443	103,059	161,510	230,256	161,016
昭和 60 年	4,953,572	165,736	260,514	525,368	175,921
平成 2 年	10,499,350	84,370	386,282	402,955	199,755
平成 7 年	11,742,426	189,298	338,062	308,561	244,096
平成 12 年	7,138,726	377,367	315,794	177,625	204,500
平成 17 年	5,689,134	260,078	138,366	131,156	249,964

「奄美群島の概況」から作成



図－漁業産出額の推移



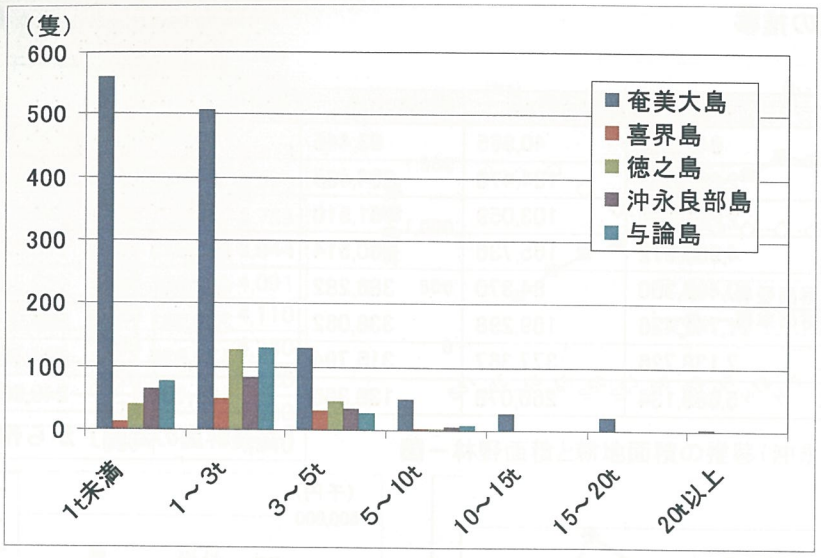
図－漁業産出額の推移（奄美大島以外）

⑭階層別漁船数

単位：隻

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
1t 未満	560	11	39	64	76
1～3t	508	51	127	82	130
3～5t	131	30	47	33	29
5～10t	51	3	2	6	9
10～15t	28	0	1	0	1
15～20t	23	0	0	0	0
20t 以上	2	0	0	0	0
計	1,303	95	216	185	245

出典：奄美群島の概況

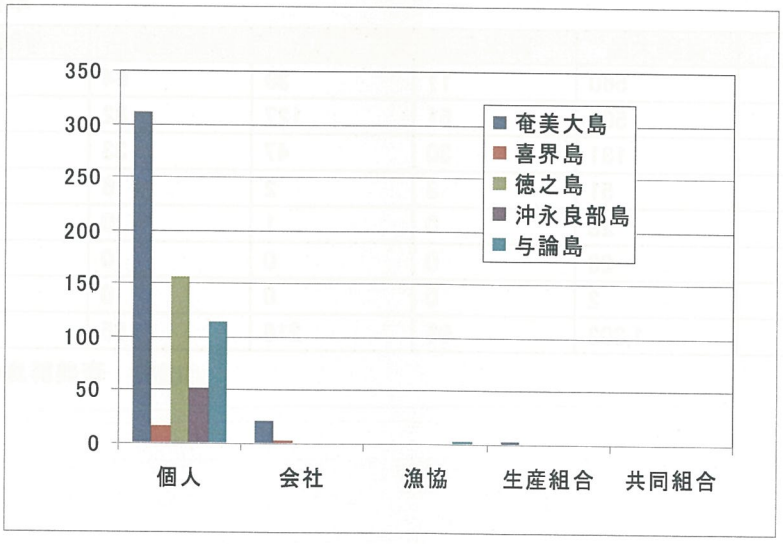


図－階層別漁船数

⑮漁業経営組織別経営体数

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
個人	311	16	156	51	113
会社	20	2	0	0	0
漁協	0	0	0	0	1
生産組合	2	0	0	0	0
共同組合	0	0	0	0	0
計	338	18	156	51	114

「奄美群島の概況」から作成



図－漁業経営組織別経営体数

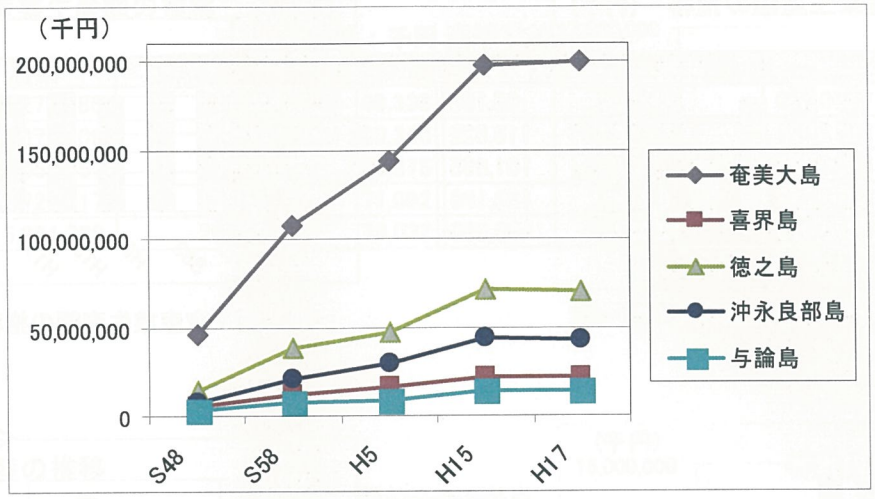
（３）所得等

○郡内総生産の推移

単位：千円

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島
昭和 48 年	46,295,875	5,465,288	13,962,795	7,622,847	2,996,099
昭和 58 年	107,569,994	12,252,270	38,067,849	21,060,879	7,187,866
平成 5 年	143,492,670	16,249,150	47,445,083	29,810,414	8,989,151
平成 15 年	198,031,030	21,657,696	71,914,666	44,431,699	14,253,345
平成 17 年	199,690,632	22,438,750	69,967,712	43,138,726	14,025,459

「奄美群島の概況」から作成



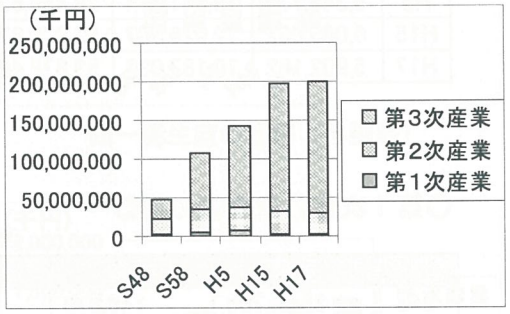
図－郡内総生産の推移

＜奄美大島＞

○郡内生産の推移

単位：千円

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	計
S48	2,842,189	18,936,800	24,516,886	46,295,875
S58	5,292,428	30,525,376	71,752,190	107,569,994
H5	7,726,832	30,903,578	104,862,260	143,492,670
H15	3,451,327	28,077,718	166,501,985	198,031,030
H17	2,921,716	25,920,680	170,848,236	199,690,632

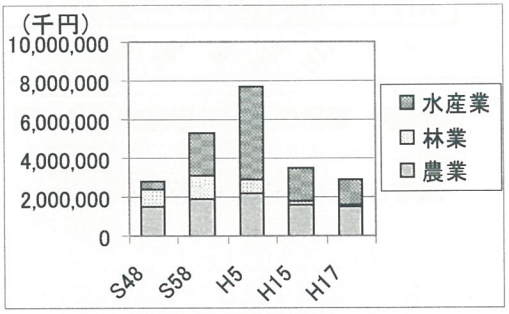


図－総生産の推移（奄美大島）

○第１次産業生産額の推移

単位：千円

	農業	林業	水産業
S48	1,474,173	880,636	487,396
S58	1,943,002	1,196,184	2,153,242
H5	2,231,936	671,558	4,823,338
H15	1,627,997	215,354	1,607,976
H17	1,482,812	125,999	1,312,935



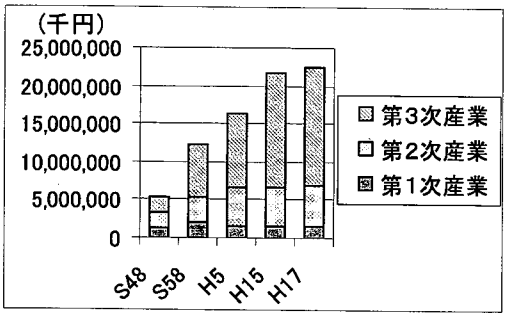
図－第１次産業生産額の推移（奄美大島）

＜喜界島＞

○郡内生産の推移

単位：千円

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	計
S48	1,216,157	2,099,356	2,149,775	5,465,288
S58	1,930,889	3,532,692	6,788,689	12,252,270
H5	1,484,441	5,047,178	9,717,531	16,249,150
H15	1,549,654	5,045,146	15,062,896	21,657,696
H17	1,519,946	5,435,708	15,483,096	22,438,750

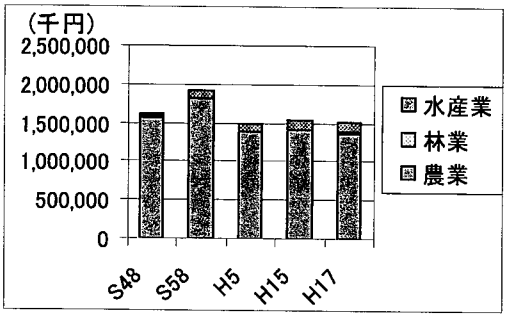


図ー総生産の推移（喜界島）

○第１次産業生産額の推移

単位：千円

	農業	林業	水産業
S48	1,559,699	21,259	35,199
S58	1,812,021	46	118,822
H5	1,382,565	31	101,855
H15	1,412,249	8,219	129,186
H17	1,372,079	12,037	135,830



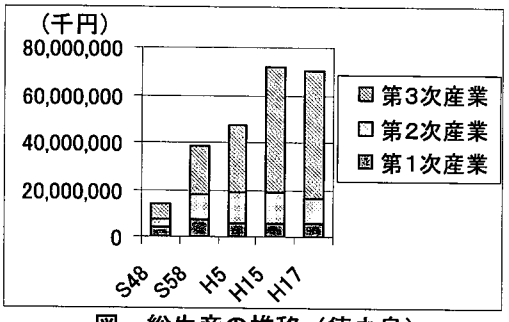
図ー第１次産業生産額の推移（喜界島）

＜徳之島＞

○郡内生産の推移

単位：千円

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	計
S48	3,950,927	3,266,409	6,745,459	13,962,795
S58	7,325,820	10,759,057	19,982,972	38,067,849
H5	5,346,774	13,641,674	28,456,635	47,445,083
H15	6,005,682	12,929,307	52,979,677	71,914,666
H17	5,902,192	10,187,038	53,878,482	69,967,712

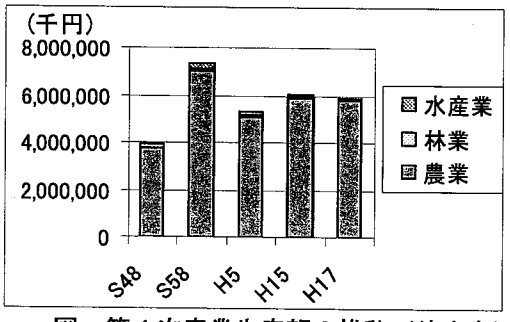


図ー総生産の推移（徳之島）

○第１次産業生産額の推移

単位：千円

	農業	林業	水産業
S48	3,745,786	146,879	58,262
S58	7,032,757	84,987	208,076
H5	5,037,458	75,648	233,668
H15	5,890,189	57,620	57,873
H17	5,814,231	35,789	52,172

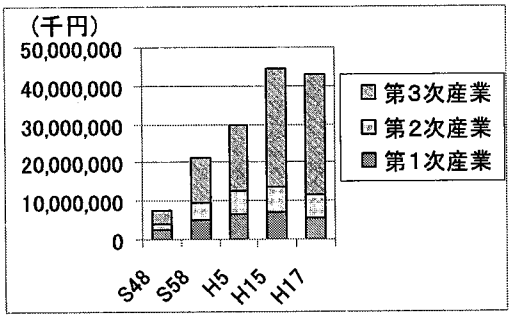


図ー第１次産業生産額の推移（徳之島）

＜沖永良部島＞
○郡内生産の推移

単位：千円

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	計
S48	2,350,808	1,737,915	3,534,124	7,622,847
S58	5,004,050	4,689,953	11,366,876	21,060,879
H5	6,318,133	6,100,154	17,392,127	29,810,414
H15	6,835,275	7,048,070	30,548,354	44,431,699
H17	5,569,651	5,968,374	31,600,701	43,138,726

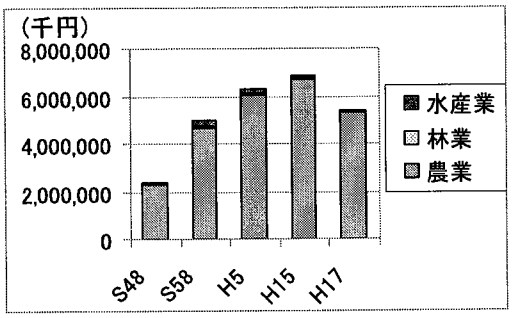


図ー総生産の推移（沖永良部島）

○第１次産業生産額の推移

単位：千円

	農業	林業	水産業
S48	2,278,786	22,683	49,339
S58	4,671,209	44,493	290,348
H5	6,056,157	61,601	200,375
H15	6,720,817	43,366	71,092
H17	5,281,330	29,289	79,032

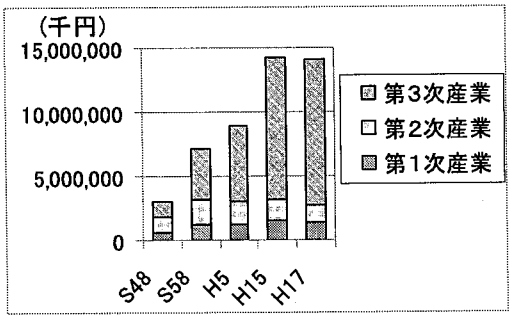


図ー第１次産業生産額の推移（沖永良部島）

＜与論島＞
○郡内生産の推移

単位：千円

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	計
S48	570,195	1,322,437	1,103,467	2,996,099
S58	1,275,539	1,870,871	4,041,456	7,187,866
H5	1,178,392	1,889,467	5,921,292	8,989,151
H15	1,471,802	1,773,684	11,007,859	14,253,345
H17	1,365,193	1,378,599	11,281,667	14,025,459



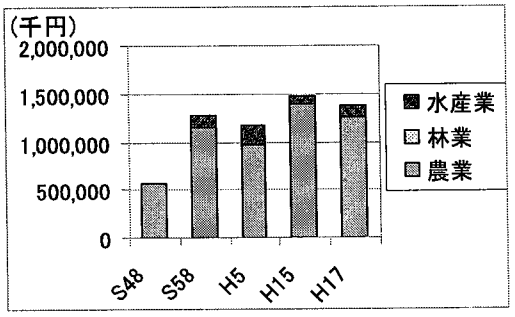
図ー総生産の推移（与論島）

+

○第１次産業生産額の推移

単位：千円

	農業	林業	水産業
S48	562,879	0	7,316
S58	1,158,060	0	117,479
H5	969,748	0	208,644
H15	1,383,977	780	87,045
H17	1,258,963	700	105,530



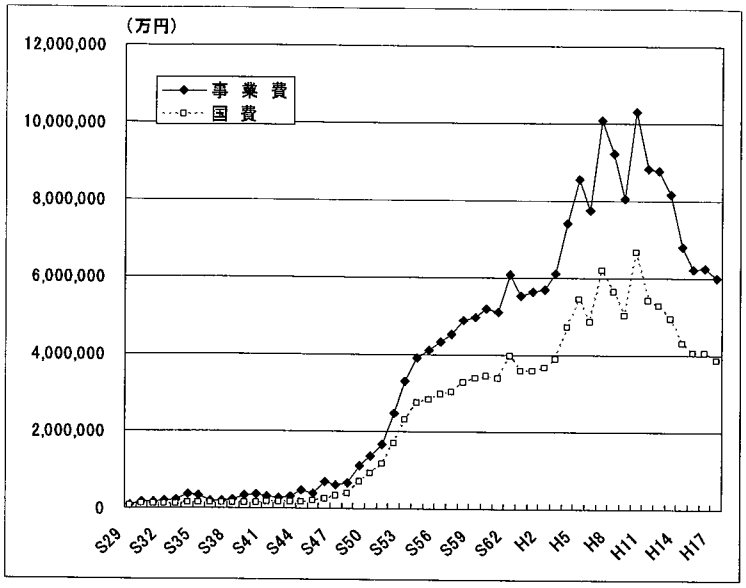
図ー第１次産業生産額の推移（与論島）

以上「奄美群島の概況」から作成

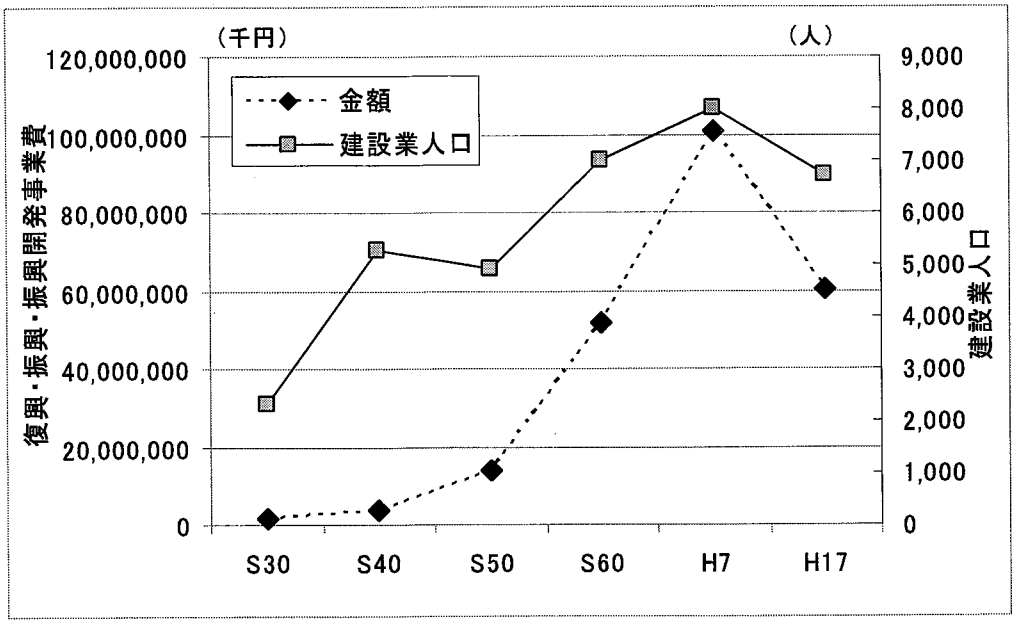
（4）復興・振興・振興開発事業費等

区分	年度	総計 事業費（円）	総計 国費（円）
復興事業	昭和29	903,662,733	689,370,714
	30	1,626,066,510	1,116,641,752
	31	1,641,353,371	1,118,663,266
	32	1,830,528,994	1,219,238,503
	33	2,163,625,915	1,222,995,588
	29～33	8,165,237,523	5,366,909,823
	34	3,566,252,666	1,275,650,933
	35	3,269,865,305	1,296,881,979
	36	1,839,558,128	1,369,898,855
	37	2,043,319,941	1,400,535,345
	38	2,115,501,959	1,407,880,418
	34～38	12,834,497,999	6,750,847,530
	29～38	20,999,735,522	12,117,757,353
振興事業	39	3,282,331,685	1,402,341,098
	40	3,720,873,178	1,517,160,601
	41	2,996,757,716	1,551,615,114
	42	2,713,759,596	1,594,337,542
	43	2,936,202,510	1,649,849,154
	39～43	15,649,924,685	7,715,303,509
	44	4,658,311,255	1,794,728,370
	45	3,835,090,173	2,068,586,503
	46	6,978,439,919	2,411,564,145
	47	6,041,924,374	3,306,207,104
	48	6,647,248,541	3,784,979,670
	44～48	28,161,014,262	13,366,065,792
	39～48	43,810,938,947	21,081,369,301
振興開発事業	49	11,211,001,600	6,914,924,100
	50	13,647,626,000	9,179,802,000
	51	16,800,158,000	11,737,719,500
	52	24,622,739,563	16,941,062,700
	53	32,983,610,453	23,109,334,863
	49～53	99,265,135,616	67,882,843,163
	54	39,124,020,651	27,510,513,000
	55	41,188,765,625	28,332,357,500
	56	43,303,157,800	29,638,713,000
	57	45,343,776,170	30,252,109,000
	58	48,864,815,830	32,782,104,000
	54～58	217,824,536,076	148,515,796,500
	49～58	317,089,671,692	216,398,639,663
振興開発事業	59	49,793,965,150	33,935,474,000
	60	51,849,983,000	34,332,258,991
	61	51,009,100,708	33,891,008,425
	62	60,782,646,734	39,753,774,734
	63	55,151,306,570	35,723,486,000
	59～63	268,587,002,162	177,636,002,150
	平成元	56,439,366,352	35,969,604,713
	2	56,829,241,056	36,574,125,220
	3	61,180,018,685	38,928,879,855
	4	74,274,848,035	47,095,900,656
	5	85,653,402,357	54,492,575,488
	元～5	334,376,876,485	213,061,085,932
	59～5	602,963,878,647	390,697,088,082
第3次振興開発事業	6	77,369,539,473	48,491,438,503
	7	100,964,567,361	62,052,910,804
	8	92,161,216,017	56,505,066,000
	9	80,440,199,369	50,252,505,600
	10	103,182,817,914	66,711,337,000
	6～10	454,118,340,134	284,013,257,907
	11	88,251,992,363	54,142,297,300
	12	87,698,988,812	52,750,434,000
	13	81,635,113,415	49,565,611,634
	14	68,017,870,719	43,017,535,999
	15	62,083,736,967	40,534,894,844
	11～15	387,687,702,276	240,010,773,777
	6～15	841,806,042,410	524,024,031,684
振興開発事業	16	62,476,475,111	40,476,222,536
	17	60,006,622,083	38,749,451,518
総計		1,949,153,364,412	1,243,544,560,137

出典：奄美群島の概況



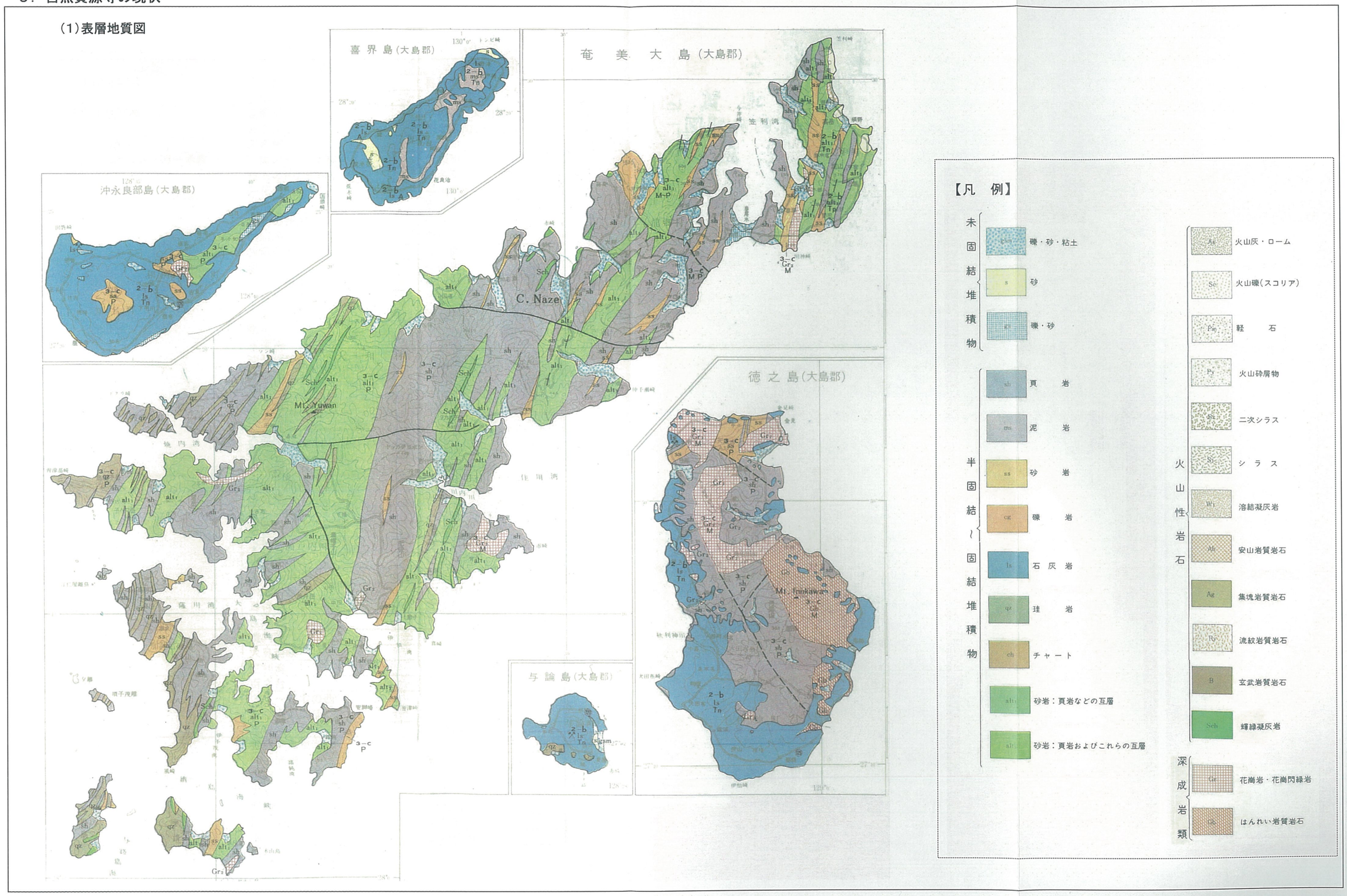
図－復興・振興・振興開発事業費の推移



図－復興・振興・振興開発事業費と建設業人口の推移

5．自然資源等の現状

(1)表層地質図



データ出典：土地分類図（(財) 日本地図センター）

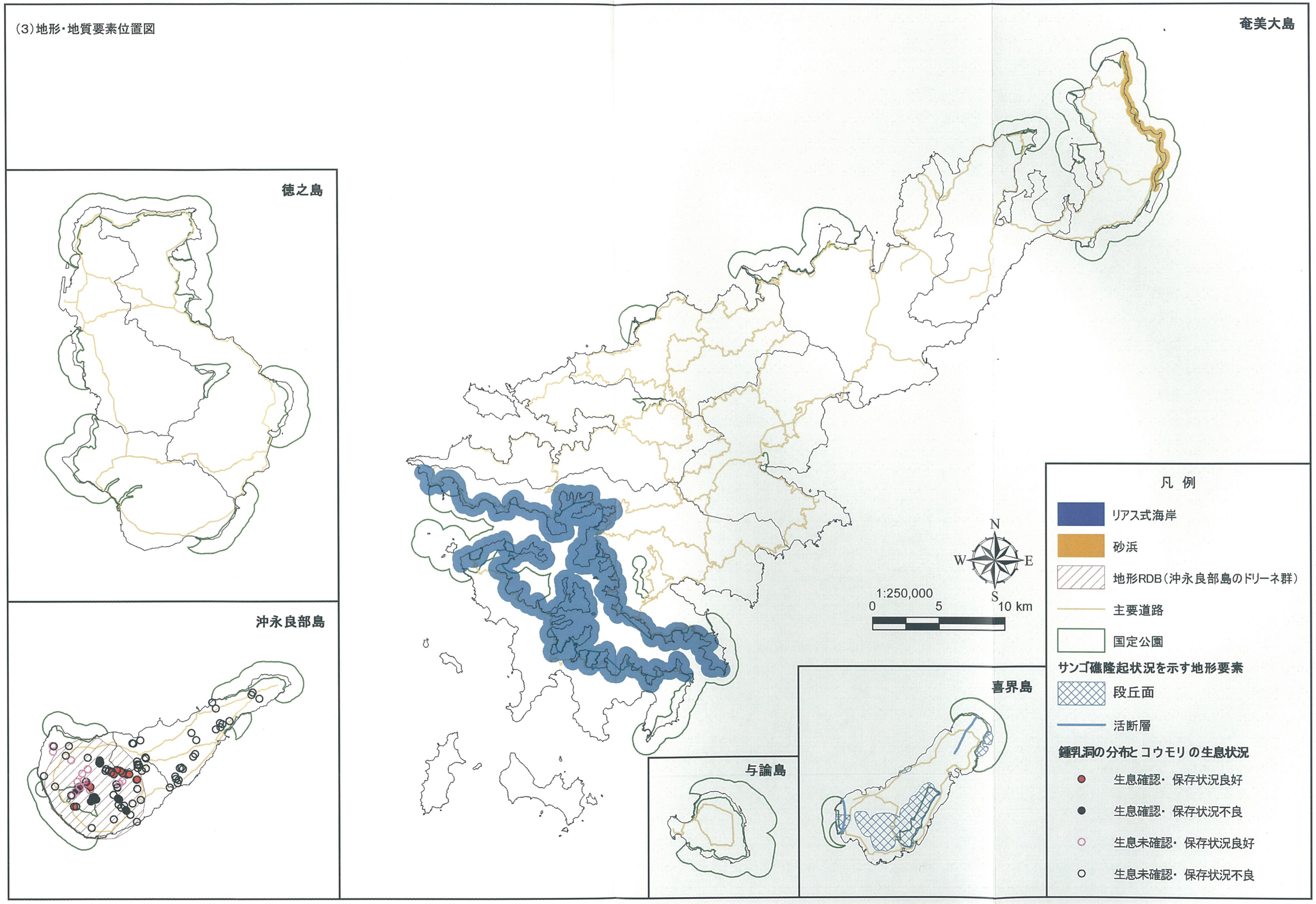
（２）自然景観資源一覧

No.	分類	名称	関係市町村
1	非火山性高原	百之台	喜界町
2		大山	知名町
3	非火山性弧峰	湯湾岳	宇検村、大和村
4		井之川岳	徳之島町、知名町
5	カルスト地形	田皆岬	知名町
6	カッレンフェルド・ドリーネ群	下原のドリーネ群	天城町
7		住吉のドリーネ群	知名町
8		茶花のドリーネ群	与論町
9	鍾乳洞	島中	喜界町
10		小島の新洞	伊仙町
11		銀河洞	伊仙町
12		銀竜洞	伊仙町
13		明神	伊仙町
14		上喜念亜の穴	伊仙町
15		上喜念北の穴	伊仙町
16		小島の新洞	伊仙町
17		暗川	伊仙町
18		水連洞	知名町
19		沖永良部洞	知名町
20		昇竜洞	知名町
21		白鳳洞	知名町
22		魔氷洞	知名町
23		銀水洞	知名町
24		天竜洞	知名町
25		極楽洞	与論町
26		赤崎鍾乳洞	与論町
27	峡谷・渓谷	鹿浦川渓谷	伊仙町
28	滝	轟の滝	奄美市
29		マテリヤ滝	大和村
30		水神川滝	徳之島町
31		米川滝	徳之島町
32		堀切川滝(1)	徳之島町
33		堀切川滝(2)	徳之島町
34		阿場の滝	知名町
35	湖沼	耳付池	和泊町
36	湿原	住用	奄美市
37	溺れ谷	焼内湾	宇検村
38		大島海峡	瀬戸内町
39		笠利湾	笠利町、龍郷町
40	海成段丘	百之台	喜界町
41	隆起サンゴ礁	中里～荒木の西	喜界町
42		喜界島東南部	喜界町
43		志戸桶～早町	喜界町
44	砂浜・礫浜	笠利半島東海岸	奄美市
45		仲子瀬崎	奄美市
46		小宿	奄美市
47		大浜海岸	奄美市
48		奥勝湾	奄美市
49		戸田海岸	大和村
50		ホノホシ海岸	瀬戸内町

No.	分類	名称	関係市町村
51	砂浜・礫浜	山海岸	徳之島町
52		手々海岸	徳之島町
53		岡前	天城町
54		黒久浜	徳之島町
55		下久志海岸	徳之島町
56		諸田海岸	徳之島町
57		伊仙崎	伊仙町
58		内喜名浜	知名町
59		畦布	和泊町
60		喜美留海岸	和泊町
61		与論島西	与論町
62		百合が浜	与論町
63	砂嘴	内海の砂嘴	奄美市
64	砂丘	喜念浜砂丘	伊仙町
65	海食崖	加計呂麻島東海岸	瀬戸内町
66		犬田布	伊仙町
67		田皆岬	知名町
68	波食台	むしろ瀬	徳之島町
69	岩礁	ウシジ浜	知名町
70	上記以外の際立った地形	隕石孔	龍郷町
71		ムシロ瀬	天城市
72		犬の門蓋	天城市
73		国頭岬	和泊町

出典：第３回自然環境保全基礎調査「自然景観資源調査」（環境庁）

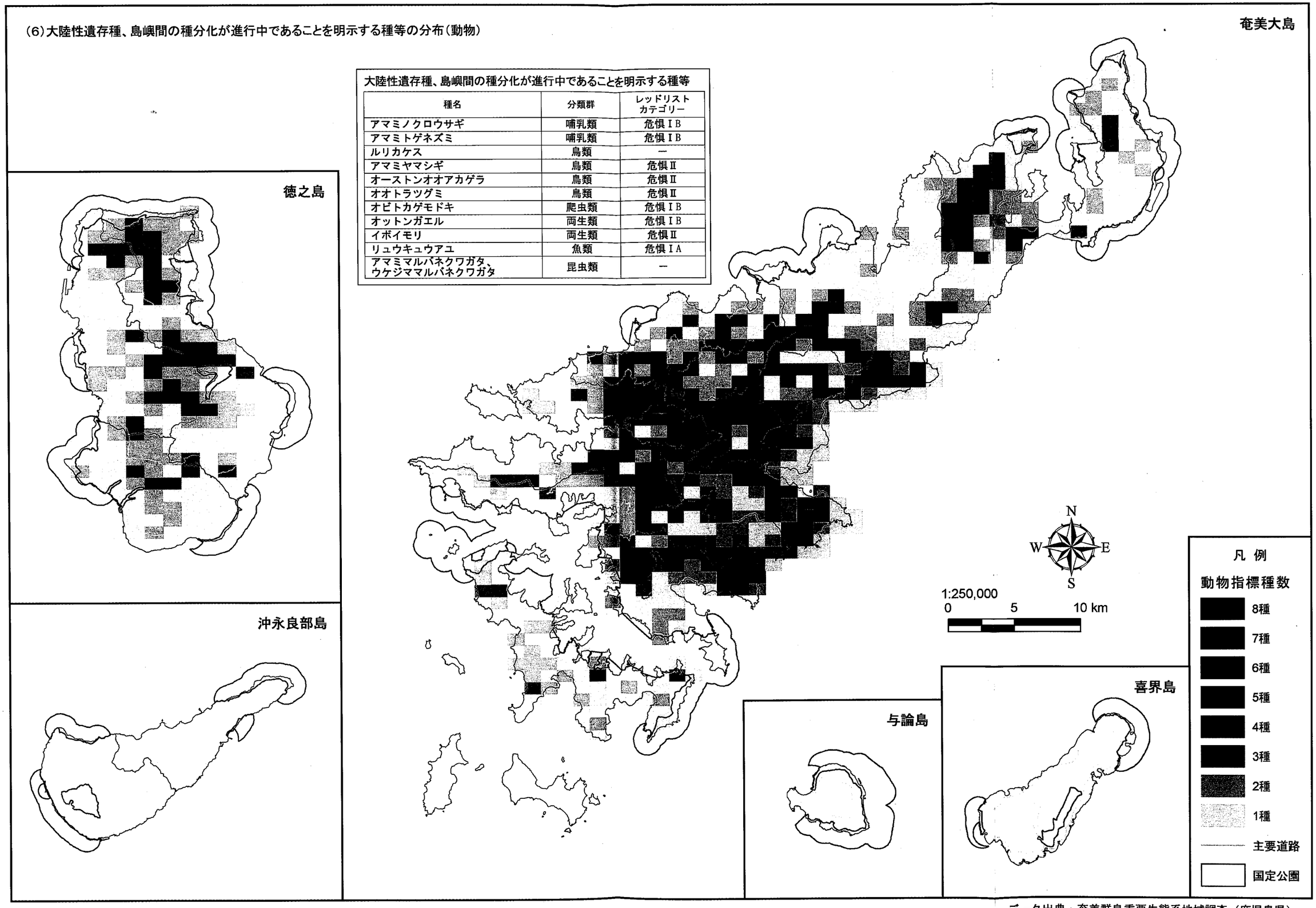
(3)地形・地質要素位置図


奄美大島
徳之島
沖永良部島
与論島
喜界島
N
W
E
S
1:250,000
0
5
10 km
凡 例
リアス式海岸
砂浜
地形RDB(沖永良部島のドリーネ群)
主要道路
国定公園
サンゴ礁隆起状況を示す地形要素
段丘面
活断層
鍾乳洞の分布とコウモリの生息状況
生息確認・保存状況良好
生息確認・保存状況不良
生息未確認・保存状況良好
生息未確認・保存状況不良

(6)大陸性遺存種、島嶼間の種分化が進行中であることを明示する種等の分布(動物)

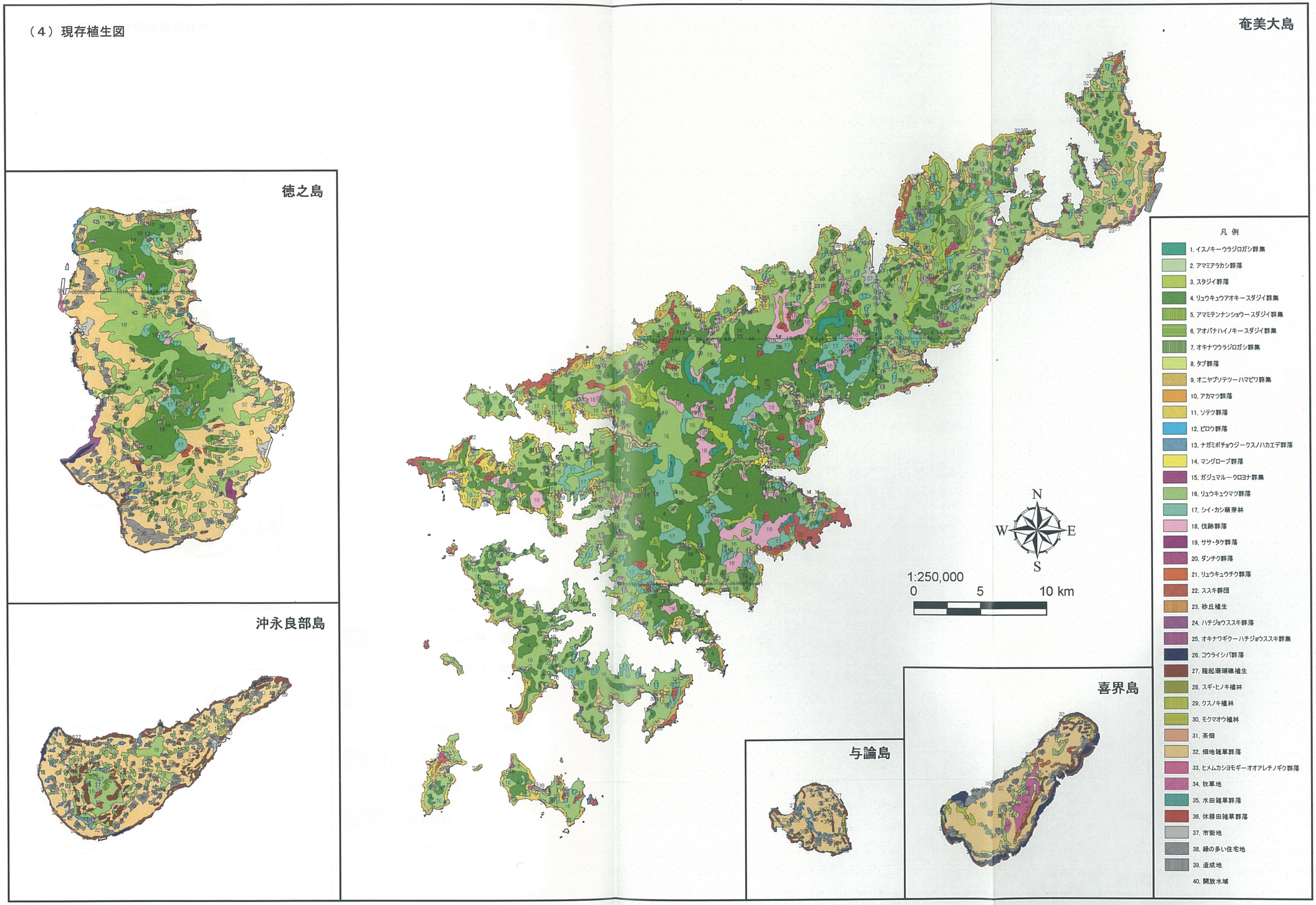
大陸性遺存種、島嶼間の種分化が進行中であることを明示する種等

種名	分類群	レッドリストカテゴリー
アマミノクロウサギ	哺乳類	危惧ⅠB
アマミトゲネズミ	哺乳類	危惧ⅠB
ルリカケス	鳥類	―
アマミヤマシギ	鳥類	危惧Ⅱ
オーストンオオアカゲラ	鳥類	危惧Ⅱ
オオトラツグミ	鳥類	危惧Ⅱ
オビトカゲモドキ	爬虫類	危惧ⅠB
オットンガエル	両生類	危惧ⅠB
イボイモリ	両生類	危惧Ⅱ
リュウキュウアユ	魚類	危惧ⅠA
アマミマルバネクワガタ、ウケジママルバネクワガタ	昆虫類	―



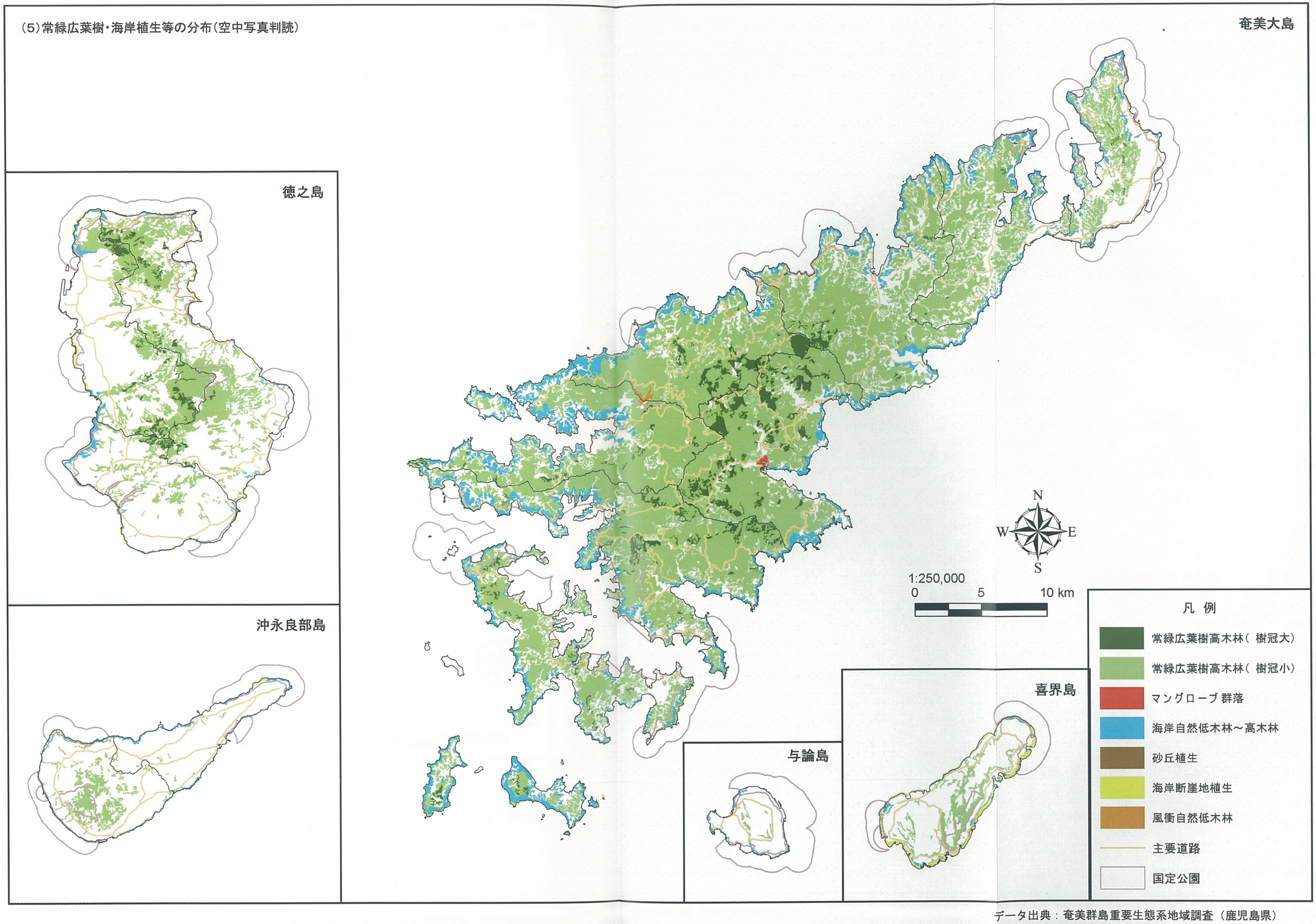
データ出典：奄美群島重要生態系地域調査（鹿児島県）

（4）現存植生図



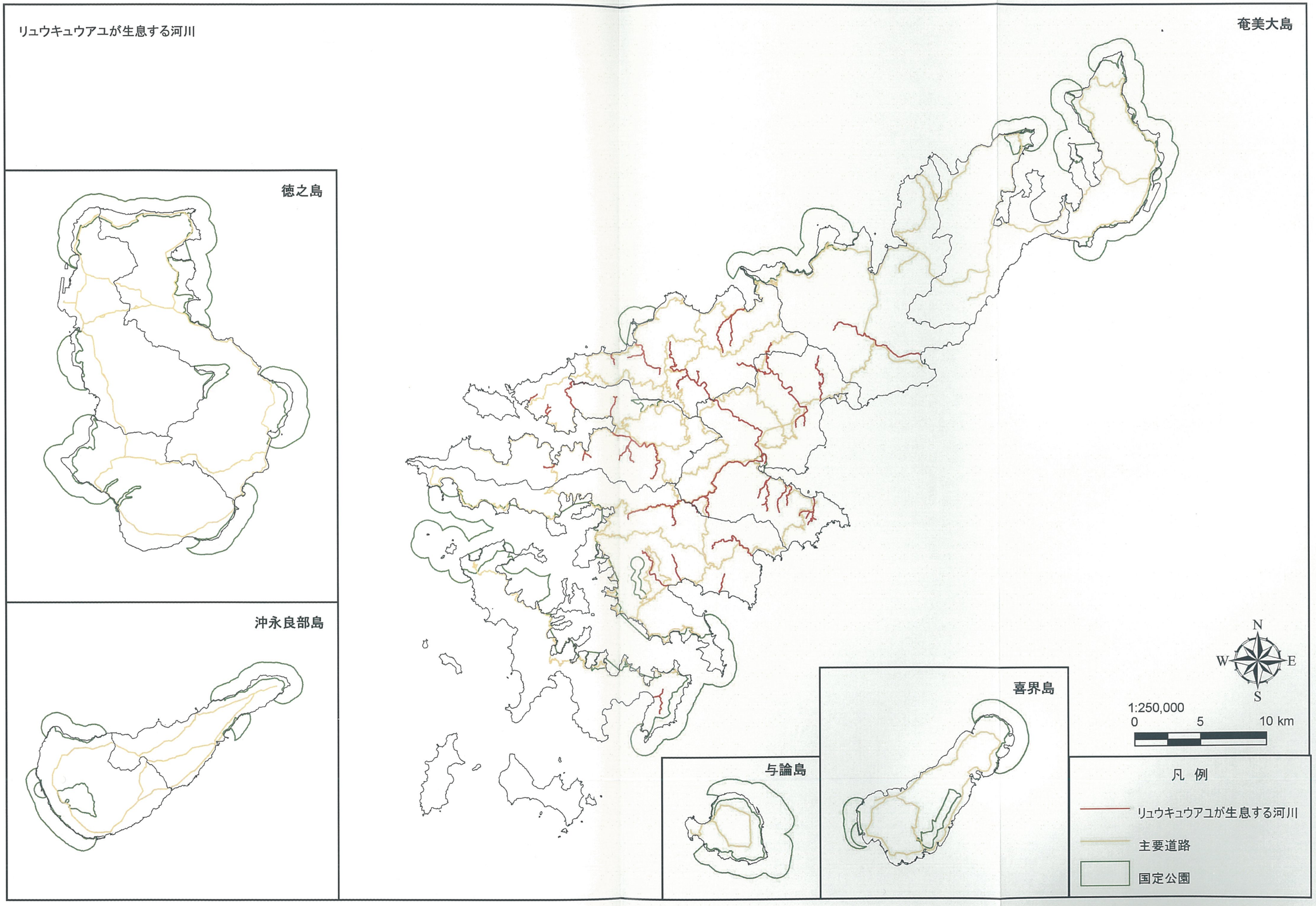
データ出典：自然環境保全基礎調査

(5)常緑広葉樹・海岸植生等の分布(空中写真判読)



データ出典：奄美群島重要生態系地域調査（鹿児島県）

リュウキュウアユが生息する河川

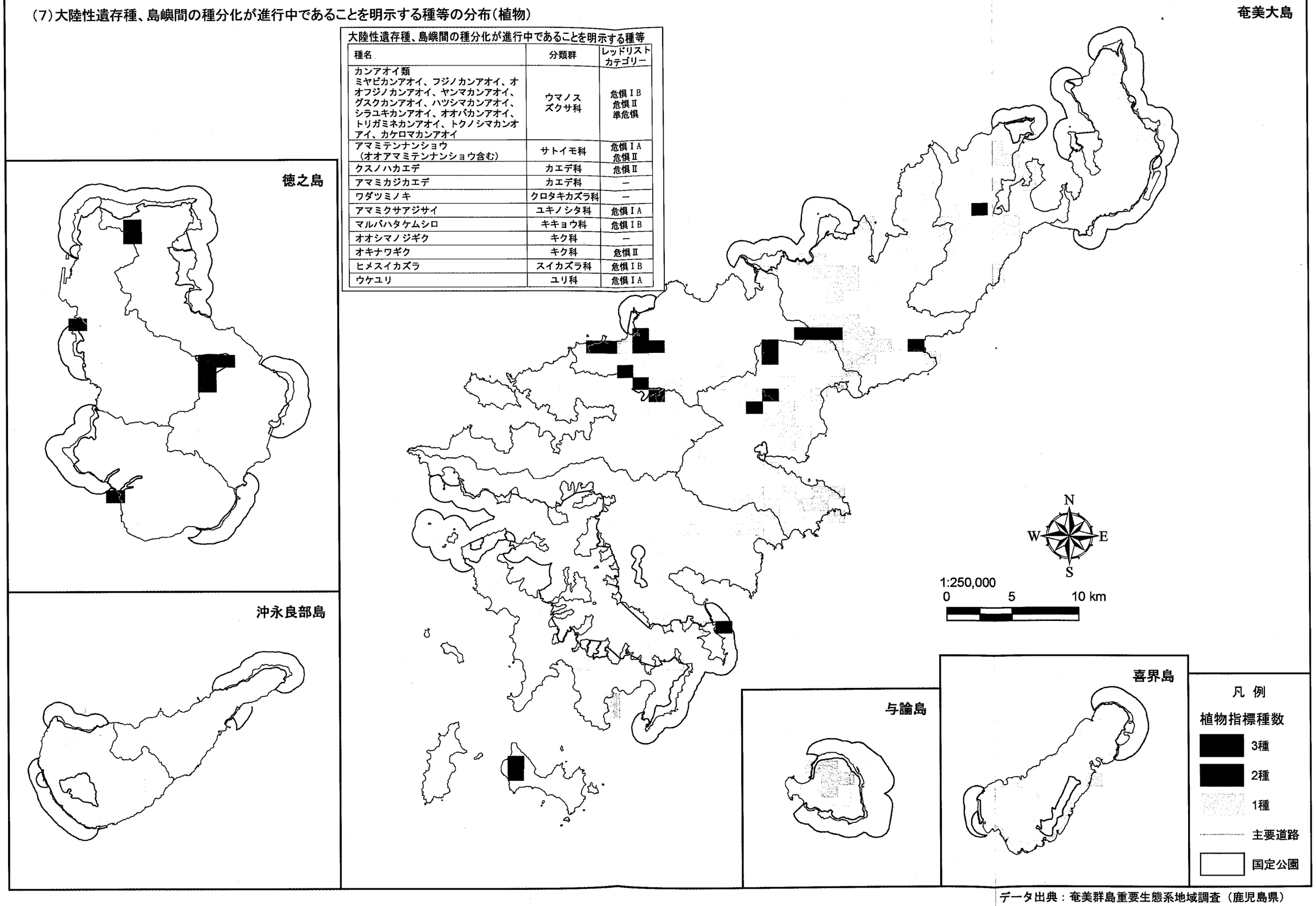


データ出典：奄美群島重要生態系地域調査（鹿児島県）

(7)大陸性遺存種、島嶼間の種分化が進行中であることを明示する種等の分布(植物)

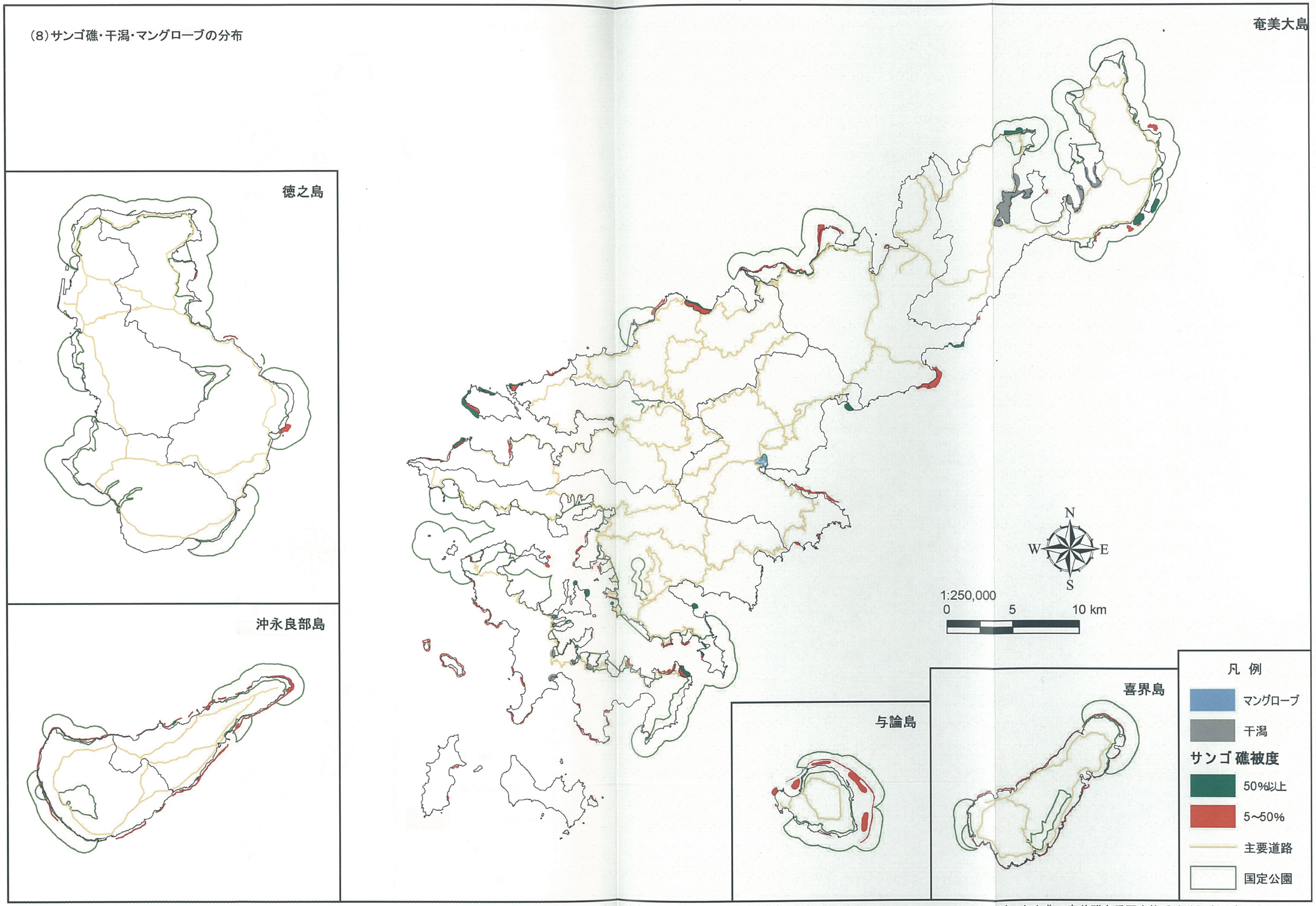
大陸性遺存種、島嶼間の種分化が進行中であることを明示する種等

種名	分類群	レッドリストカテゴリー
カンアオイ類 ミヤビカンアオイ、フジノカンアオイ、オオフジノカンアオイ、ヤンマカンアオイ、グスクカンアオイ、ハツシマカンアオイ、シラユキカンアオイ、オオバカンアオイ、トリガミネカンアオイ、トクノシマカンオアイ、カケロマカンアオイ	ウマノスズクサ科	危惧ⅠB 危惧Ⅱ 準危惧
アマミテンナンショウ (オオアマミテンナンショウ含む)	サトイモ科	危惧ⅠA 危惧Ⅱ
クスノハカエデ	カエデ科	危惧Ⅱ
アマミカジカエデ	カエデ科	―
ワダツミノキ	クロタキカズラ科	―
アマミクサアジサイ	ユキノシタ科	危惧ⅠA
マルバハタケムシロ	キキョウ科	危惧ⅠB
オオシマノジギク	キク科	―
オキナワギク	キク科	危惧Ⅱ
ヒメスイカズラ	スイカズラ科	危惧ⅠB
ウケユリ	ユリ科	危惧ⅠA



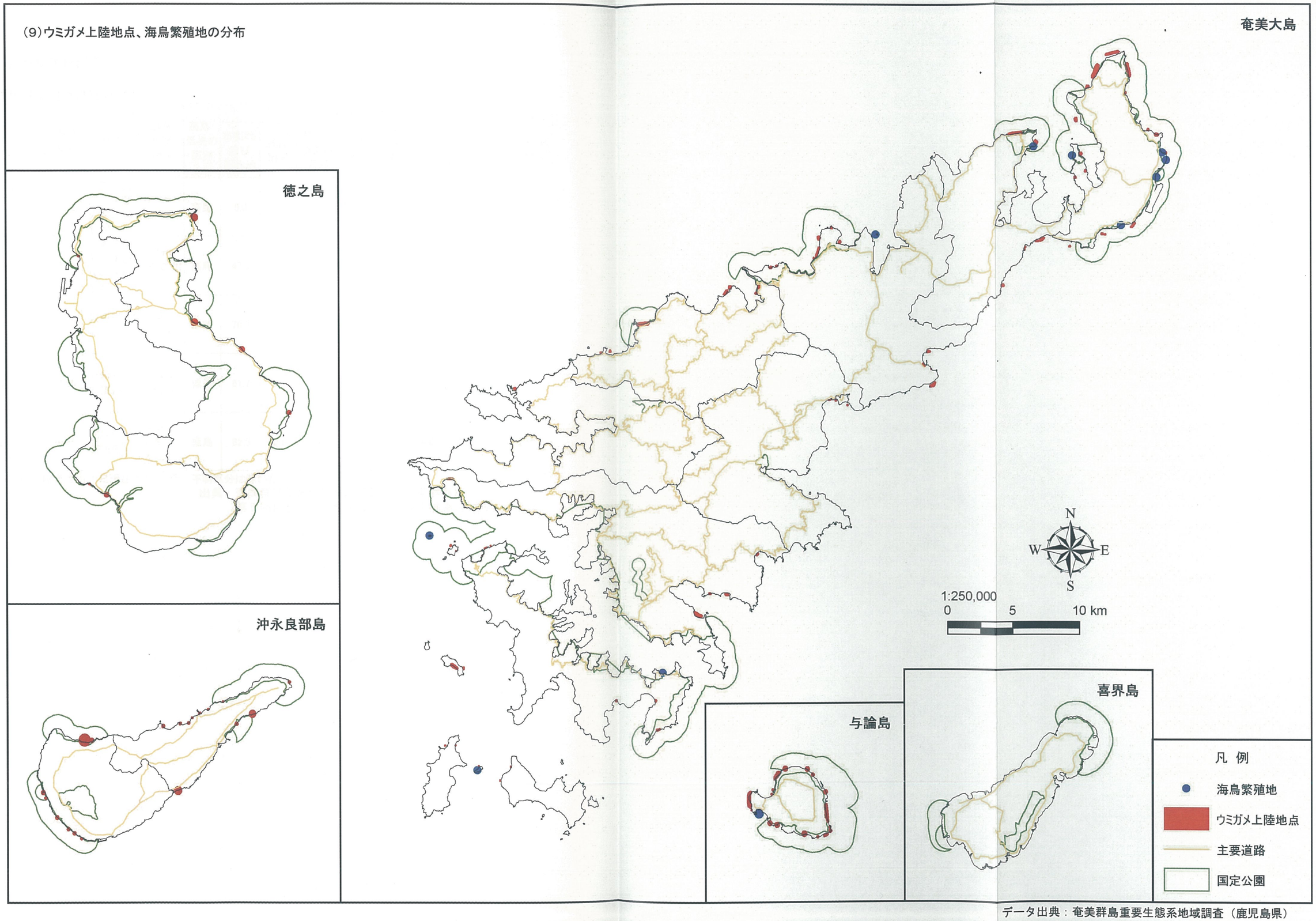
データ出典：奄美群島重要生態系地域調査（鹿児島県）

(8)サンゴ礁・干潟・マングローブの分布



データ出典：奄美群島重要生態系地域調査（鹿児島県）

(9)ウミガメ上陸地点、海鳥繁殖地の分布



データ出典：奄美群島重要生態系地域調査（鹿児島県）

(10) 島別植生自然度

■島嶼別植生自然度面積割合

	面積 (km²)	地質	最高高度 (m)	高島・低島の区別	自然度による区分(%)								
					市街地及び耕作地	伐採地等	竹林・ススキ草原	植林地	二次林	自然林	(内リュウキュウマツ群落)	自然草原	自然裸地
奄美大島(加計呂間島、請島、与路島を含む)	820.2	先第三紀層および先第三紀岩類	694m(湯湾岳)	高島	9.0	5.6	3.0	0.1	6.5	75.4	37.1	0.5	0.0
徳之島	147.9	先第三紀層および先第三紀岩類	645m(井之川岳)	高島	47.3	1.0	0.9	0.0	2.5	45.4	23.4	2.9	0.0
喜界島	56.87	第四紀石灰岩	224m(百之台)	低島	70.2	0.0	2.7	0.0	0.0	7.6	2.6	19.4	0.0
沖永良部島	93.66	第四紀石灰岩	246m(大山)	低島	61.7	0.1	0.7	0.0	0.0	21.4	19.0	16.0	0.0
与論島	20.49	第四紀石灰岩	97m(名称なし)	低島	82.5	0.1	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	13.3	0.0

＊:平成16年2月1日現在:開放水面、不明区分は除いた。

出典：奄美群島重要生態系地域調査（鹿児島県）
第５回自然環境保全基礎調査　植生調査（1999）による

(11) 固有種・絶滅危惧種等

○「琉球諸島」における北限種と南限種の種数（植物）

地域	地域	種数
北限種	奄美大島 沖縄島 先島諸島	132 54 127
南限種	奄美大島 沖縄島 先島諸島	20 73 26

出典：島袋（1990）、初島（1975）琉球植物誌（追加・訂正版）から集計

○島別の固有種と固有変種数（植物）

地域	固有種	変種
奄美諸島・沖縄諸島	54	15
奄美大島のみ	17	6
喜界島のみ	1	0
徳之島のみ	2	0
沖縄島のみ	16	4
奄美大島と徳之島に分布	5	3
奄美大島、徳之島、沖縄島に分布	13	2
奄美諸島から八重山列島にかけて分布	20	5

出典：平成17年琉球諸島世界遺産候補地の重要地域調査（環境省）、
初島（1975）琉球植物誌（追加・訂正版）を改変

○奄美群島の絶滅危惧植物種数

	絶滅		絶滅危惧		小計	絶滅危惧	合計
	EX	EW	IA類 CR	IB類 EN	CR+EN	II類 VU	
奄美大島	3		62	49	111	26	140
徳之島			17	26	43	35	78
沖永良部島・与論島	1		8	4	12	20	33
奄美群島計＊	3	1	71	54	125	67	196
鹿児島県	3	1	147	119	266	149	419
県下での割合(%)	100	100	48.3	45.4	47	19.5	46.8

出典：堀田(2001)、奄美の希少・固有植物と絶滅問題、平成12年度鹿児島大学合同研究プロジェクト「離島の豊かな発展のための学際的研究―離島学の構築」自然班報告書―南西諸島における自然環境の保全と人間活動、鹿児島大学

＊2島以上に共通に分布する種があることから、単純な島ごとの種類数の合計にはなっていない。

○奄美群島に生息する固有種（哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・魚類・昆虫類）

	奄美群島固有種	奄美群島固有亜種	琉球列島固有種	琉球列島固有亜種
哺乳類	アマミノクロウサギ(EN)◆ オリイジネズミ(EN)	オリイコキクガシラコウモリ(EN) アマミトゲネズミ(EN)◇	ケナガネズミ(EN)◇ リュウキュウユビナガコウモリ(EN)	リュウキュウイノシシ(徳之島の個体群はLP)
鳥類	ルリカケス◇ オオトラツグミ(VU)◇△	オーストンオオアカゲラ(VU)△ アカヒゲ(VU)◇△	アマミヤマシギ(VU)△	
爬虫類		オビトカゲモドキ(EN) オオシマトカゲ(NT) ヒャン(NT)	キノボリトカゲ(VU) バーバートカゲ(VU) ヘリグロヒメトカゲ アオカナヘビ(沖永良部島、徳之島の個体群はLP) アマミタカチホヘビ(NT) アカマタ ガラスヒバァ ハイ(NT) ヒメハブ ハブ	
両生類	アマミハナサキガエル(VU) オットンガエル(EN)	アマミアオガエル	イボイモリ(VU) シリケンイモリ(NT) イシカワガエル(EN) リュウキュウアカガエル(NT) ハロウェルアマガエル	
魚類			リュウキュウアユ(CR) ミナミアシシロハゼ(VU) キバラヨシノボリ(EN) ヨロイボウズハゼ(CR) など	
昆虫類	アマミミヤマクワガタ アマミコクワガタ アマミシカクワガタ アマミマルバネクワガタ(VU) ウケジママルバネクワガタ(CR+EN) エグリタマミズムシ(VU) アマミダルマガムシ アマミチビミズムシ など			

CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB種、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、
LP:絶滅のおそれのある地域個体群
◆:国の特別天然記念物、◇:国の天然記念物、△:国内希少野生動植物種

出典:奄美群島自然共生プラン(鹿児島県)
(財)自然環境研究センター(2000)奄美大島希少野生生物調査報告書、環境庁自然環境局(1991)平成2年度南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究報告書より作成
※レッドリストのランク、国内希少野生動植物種の情報は最新のものに改変

6．文化資源等の現状

（1）指定文化財

○指定・登録文化財数

		国	県	旧名瀬市	旧笠利村	旧住用村	龍郷村	大和村	宇検村	瀬戸内町	喜界町	徳之島町	天城町	伊仙町	和泊町	知名町	与論町	市町村計	計
有形文化財			1	6	6	1	4		4	28	20	18	14	4	13	1	11	130	131
	重要文化財	1																0	1
	国宝																	0	0
	登録有形文化財	10																0	10
無形文化財																		0	0
	重要無形文化財																	0	0
民俗文化財	無形民俗文化財		4		2	2	1		1	1		6	3	6	8	4		34	38
	有形民俗文化財		2	2				110	3	4	11	13	13	2	3	3		164	166
	重要無形民俗文化財	3																0	3
	重要有形民俗文化財																	0	0
	登録有形民俗文化財																	0	0
記念物															1			1	1
	史跡	3	4	2	8	1				1	6	4		21	2	7	3	55	62
	特別史跡																	0	0
	名勝				2					2				8	4	1		17	17
	特別名勝																	0	0
	天然記念物	9	8	2	2	2	4		2	3	8	1		2	1	6	5	38	55
	特別天然記念物	1																0	1
	登録記念物																	0	0
文化的景観																		0	0
	重要文化的景観																	0	0
伝統的建造物群																		0	0
	伝統的建造物群保存地区																	0	0
	重要伝統的建造物群保存地区																	0	0
文化財の保存技術																		0	0
埋蔵文化財																		0	0
計		27	19	12	20	6	9	110	10	39	45	42	30	35	32	22	19	431	477

○国指定・登録文化財

名　称	所　在　地	指定年月日	種　別
アマミノクロウサギ	奄美大島・徳之島	昭 38. 7. 4	特別天然記念物
ルリカケス	奄美大島・徳之島	大 10. 3. 3	天然記念物
神屋・湯湾岳	奄美市住用町・宇検村・大和村	昭 43.11. 8	〃
アカヒゲ	奄美大島・徳之島	〃 45. 1.23	〃
オカヤドカリ	南西諸島	〃 45.11.12	〃
オオトラツグミ	奄美大島	〃 46. 5.19	〃
カラスバト	鹿児島県	〃 46. 5.19	〃
オーストンオオアカゲラ	奄美大島	〃 46. 5.19	〃
トゲネズミ(アマミトゲネズミ)	奄美大島・徳之島	〃 47. 5.15	〃
ケナガネズミ	奄美大島・徳之島	〃 47. 5.15	〃
諸鈍芝居	瀬戸内町諸鈍	〃 51. 5. 4	重要無形民俗文化財
秋名アラセツ行事	龍郷町秋名	〃 60. 1.12	〃
宇宿貝塚	奄美市笠利町宇宿	〃 61.10. 7	史跡
与論十五夜踊	与論町字城	平 5.12.13	重要無形民俗文化財
泉家住宅	奄美市笠利町宇宿	〃 6. 7.12	建造物

名　　称	所 在 地	指定年月日	種　別
徳之島カムィヤキ陶器窯跡	伊仙町阿三	〃19. 2. 6	史跡
住吉貝塚	知名町大字住吉	〃19 7.26	史跡
古仁屋小学校旧泰安殿	瀬戸内町古仁屋	〃18. 8. 3	登録有形文化財
節子小学校旧泰安殿	瀬戸内町古仁屋	〃18. 8. 3	登録有形文化財
池地小学校旧泰安殿	瀬戸内町池地	〃18. 8. 3	登録有形文化財
薩川小学校旧泰安殿	瀬戸内町薩川	〃18. 8. 3	登録有形文化財
須子茂小学校旧泰安殿	瀬戸内町須子茂	〃18. 8. 3	登録有形文化財
旧木慈小学校泰安殿	瀬戸内町木慈	〃18. 8. 3	登録有形文化財
鹿浦小学校旧奉安殿	伊仙町阿三	〃18. 8. 3	登録有形文化財
薗家住宅主屋　一棟	奄美市笠利町大字用安	〃19.12. 5	登録有形文化財
奄美ばしゃ山民俗村旧安田家住宅主屋	奄美市笠利町大字用安	〃19.12. 5	登録有形文化財
今里小学校旧奉安殿	大和村今里クレツ	〃19.12. 5	登録有形文化財

○鹿児島県指定文化財

名　　称	所 在 地	指定年月日	種　別
南洲流謫跡	龍郷町龍郷	昭30. 1.14	史跡
和泊町の世之主の墓	和泊町内城	〃41. 3.11	〃
昇龍洞	知名町住吉吉野平川	〃42. 3.31	天然記念物
油井の豊年踊り	瀬戸内町油井	〃58. 4.13	無形民俗文化財
上平川の大蛇踊り	知名町上平川	〃59. 4.18	〃
沖永良部島下平川の大型有孔虫化石密集産地	知名町下平川	〃62. 3.16	天然記念物
犬田布貝塚	伊仙町犬田布	平元. 3.22	史跡
カムイヤキ窯跡	伊仙町阿三	〃 3. 3.22	〃
城間トフル墓群	奄美市笠利町万屋	〃 5. 3.24	〃
徳之島井之川夏目踊り	徳之島町井之川	〃13. 4.27	無形民俗文化財
住吉暗川	知名町住吉前間当り	〃13. 4.27	天然記念物
奄美大島のノロ関係資料	奄美市笠利町，宇検村，瀬戸内町，奄美市名瀬	〃15. 4.22	有形無形文化財
イボイモリ	奄美大島・徳之島	〃15. 4.22	天然記念物
イシカワガエル	奄美大島	〃15. 4.22	天然記念物
オビトカゲモドキ	徳之島	〃15. 4.22	天然記念物
大和浜の群倉	大和村	〃16. 4.20	建造物
オットンガエル	奄美大島・加計呂麻島	〃17. 4.19	天然記念物
喜界島のノロ関係資料	喜界町中央公民館	〃18. 4.21	有形民俗文化財
請島のウケユリ自生地	奄美大島（瀬戸内町請島池地）	〃20. 4.22	天然記念物

○市町村指定文化財

■奄美市（名瀬地区）

種別	名称	所在地
天然記念物	根瀬部地区自生タイワンヤマツツジ	名瀬大字根瀬部
有形文化財（彫刻）	有盛神社の石造弁才天像	名瀬大字浦上
天然記念物	有盛神社境内の森林	名瀬大字浦上
有形文化財（彫刻）	小湊厳島神社の木造弁才天坐像及び黒漆塗り厨子	名瀬大字小湊
有形民俗文化財	小湊厳島神社の石灯籠及び手水鉢	名瀬大字小湊
史　跡	朝仁貝塚	名瀬朝仁町
史　跡	小湊フワガネク遺跡群	名瀬小湊外金久
有形文化財（彫刻）	有良・厳島神社の石祠及び神体恵比寿像	名瀬大字有良
有形民俗文化財	浦上ノロ祭祀具	奄美市立奄美博物館
有形文化財（古文書）	南島雑話（写本5冊）	奄美市立奄美博物館
有形文化財（彫刻）	大熊・竜王神社観音堂石造観音坐像及び石造弁才天坐像	名瀬大熊
有形文化財（歴史）	奄美博物館所蔵・奄美群島日本復帰関係資料	奄美市立奄美博物館

■奄美市（笠利地区）

種別	名称	所在地
史　跡	土浜ヤーヤ遺跡	笠利町土浜
史　跡	宇宿高又遺跡	笠利町宇宿
史　跡	アナバリトフル	笠利町手花部
史　跡	辺留城古墓	笠利町笠利
史　跡	笠利大島奉行所跡	笠利町笠利
史　跡	津代古戦場跡	笠利町手花部
史　跡	大島仮屋跡	笠利町里
史　跡	赤木名観音寺跡	笠利町里
名　勝	アマンデー	笠利町節田
名　勝	薗家の庭園	笠利町用安
天然記念物	手花部メヒルギ群落	笠利町手花部
天然記念物	土盛子だき石	笠利町土盛
有形文化財（古文書）	大島代官記写本	笠利町外金久
有形文化財（古文書）	永代大雑書	笠利町里
有形文化財（歴史）	笠利村教育資料	笠利町笠利
有形文化財（歴史）	前島友庵の墓地	笠利町里
有形文化財（歴史）	手花部の墓石	笠利町手花部
有形文化財（彫刻品）	美財天（蒲生神社）	笠利町屋仁
無形民俗文化財	宇宿稲すり踊り	笠利町宇宿
無形民俗文化財	用シュンカネクワァ	笠利町用

■奄美市（住用地区）

種別	名称	所在地
天然記念物	マングローブ群落	住用町石原
天然記念物	モダマ自生地	住用町東仲間
史　跡	サモト遺跡	住用町城
有形文化財（彫刻）	石像	住用町西仲間
無形民俗文化財	コメツキ踊り	住用町市
無形民俗文化財	ソオ踊り	住用町西仲間

■龍郷町

種別	名称	所在地
有形文化財（建造物）	ハヤ	赤尾木
有形文化財（建造物）	仏像墓	龍郷
有形文化財（建造物）	奥平元安刀鍛冶跡	秋名
有形文化財（建造物）	今井権現石段及び石碑	安木屋場
天然記念物	奇岩群	赤尾木
天然記念物	西郷松	久場
天然記念物	サキシマスオウの木	久場
天然記念物	デイゴ	久場
無形民俗文化財	泥染めによる大島紬龍郷柄の技法	嘉渡

■大和村

種別	名称	所在地
有形民俗文化財	刳舟	思勝
有形民俗文化財	芭蕉布・短銃・ヌキ玉・ギファ・短剣・古文書等８点	津名久
有形民俗文化財	芭蕉布・木綿花織等３点	国直
有形民俗文化財	五人弁当・二人弁当・裁縫箱・赤金壷・陣笠・刀（大小）・鈴器・香ろう陶器等１８点	国直
有形民俗文化財	芭蕉布	名瀬井根町

種別	名称	所在地
有形民俗文化財	芭蕉布・ヌキ玉	大金久
有形民俗文化財	テルコ扇・刀・真鍮椀・玉ヌキ物・羽二重サルシ・羽二重袴等７点	名瀬佐大熊
有形民俗文化財	テルコ扇・ドギン・竹ザル	大棚
有形民俗文化財	和家文章６２点	名瀬長浜町
有形民俗文化財	小刀２点	名瀬長浜町
有形民俗文化財	ノロ道具２点	名瀬長浜町
有形民俗文化財	手かがみ	名瀬長浜町
	計 110 点	

■宇検村

種別	名称	所在地
有形文化財	佐念モーヤ	佐念
有形文化財	大型磨製石斧	名柄
有形文化財（古文書）	琉球王朝辞令古文書	名柄
無形民俗文化財	稲すり踊り	芦検
有形民俗文化財	辯才天石像、寄進塔	宇検
天然記念物	須古集落の松	須古
天然記念物	碇家の溶樹、老松、イヌマキ	宇検
有形民俗文化財	岡本家ノロ遺品	湯湾
有形民俗文化財	吉野家ノロ遺品	湯湾
有形文化財（古文書）	白井家古文書	湯湾

■瀬戸内町

種別	名称	所在地
有形文化財(建造物)	西家住宅(石垣含む)	加計呂麻島伊子茂
有形文化財(絵画)	屏風絵6面	古仁屋
有形文化財(彫刻)	龍樋	古仁屋
有形文化財(工芸品)	香炉3基	古仁屋
有形文化財(工芸品)	香炉台	古仁屋
有形文化財(工芸品)	敷物2枚(西洋織物)	古仁屋
有形文化財(工芸品)	シャム南蛮壺	古仁屋
有形文化財(古文書)	検地帳	古仁屋
有形文化財(古文書)	目録	古仁屋
有形文化財(古文書)	系図	古仁屋
有形文化財(古文書)	瀬戸内間切西掟職辞令書	古仁屋
有形文化財(古文書)	タル宛得分規定辞令書2通	古仁屋
有形文化財(古文書)	ネタチ宛得分規定辞令書3通	古仁屋
有形文化財(考古資料)	類須恵器	古仁屋
有形文化財(考古資料)	二重口縁面縄東洞式土器	古仁屋
有形文化財(考古資料)	嘉徳式土器2口	古仁屋
有形文化財(考古資料)	面縄前庭式土器	古仁屋
有形文化財(考古資料)	嘉徳Ⅰ式A土器	古仁屋
有形文化財(考古資料)	嘉徳Ⅱ式A土器	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	漢方医療器具	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	種子島銃3挺	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	陣傘3蓋	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	酒瓶3本(陶芸品)	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	酒瓶3本(錫製)	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	化粧箱	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	書類保管庫	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	食器一式(ウフビリヤー)	古仁屋
有形文化財(歴史資料)	柱掛	古仁屋
有形民俗文化財	ノロ祭祀具(水晶玉2点)	古仁屋

種別	名称	所在地
有形民俗文化財	嘉入ノロ祭祀具(ガラス玉2口、神衣1着)	古仁屋
有形民俗文化財	与路ノロ祭祀具(神扇)	古仁屋
有形民俗文化財	網野子ノロ祭祀具(サハリ(鉦)2口)	古仁屋
無形民俗文化財	アンドンデー	網野子
史跡	垣漁跡	加計呂麻島木慈
名勝	ホノホシ海岸	蘇刈
名勝	手久崎	加計呂麻島木慈東側岬
天然記念物	デイゴ並木	加計呂麻島諸鈍
天然記念物	ウケジママルバネクワガタ	請島池地
天然記念物	サキシマスオウノキ	油井

■喜界町

種別	名称	所在地
有形文化財（工芸品）	御神体	伊実久
有形文化財（工芸品）	能面	塩道
有形文化財（工芸品）	香爐	山田
有形文化財（工芸品）	香爐	志戸桶
有形文化財（工芸品）	古帖佐焼	志戸桶
有形文化財（考古資料）	須恵器	志戸桶
有形文化財（考古資料）	須恵器	羽里
有形民俗文化財	経石	赤連
有形民俗文化財	草子・玉	赤連
有形民俗文化財	羽衣	赤連
有形民俗文化財	糖漏	赤連
有形民俗文化財	ノロ神具一式	赤連
有形文化財（工芸品）	石像	大朝戸
有形民俗文化財	かめ棺	赤連
有形民俗文化財	厨子がめ	赤連
有形民俗文化財	ノロ神具	大朝戸
有形文化財（工芸品）	火縄銃・煙硝入れ	川嶺
有形文化財（工芸品）	薬籠	滝川
有形文化財（工芸品）	刀・銅鏡	佐手久
有形文化財（工芸品）	槍	赤連
天然記念物	ソテツ群生	中間
天然記念物	ソテツ群生	中間
有形文化財（古文書）	大屋子の辞令書	志戸桶
史跡	芭蕉句碑	志戸桶
有形民俗文化財	水瓶	小野津
有形文化財（工芸品）	銅鏡	川嶺
有形文化財（工芸品）	菓子型	佐手久
有形文化財（書跡）	帳箱及び帳簿一式	坂嶺
有形文化財（工芸品）	陶器	島中
有形文化財（工芸品）	銅鏡	湾
有形文化財（書跡）	掛軸	湾
有形文化財（古文書）	古文書一式	阿伝
天然記念物	ヒメタツナミソウ自生地	大朝戸・西目
天然記念物	ヒメタツナミソウ自生地	滝川
天然記念物	巨大ソテツ生息地	嘉鈍
天然記念物	ヒロハネム生息地	川嶺
天然記念物	ハスノハギリ生息地	志戸桶
史跡	泰安殿	坂嶺
史跡	泰安殿	阿伝
有形民俗文化財	糖漏	阿伝
史跡	ウリハー	荒木

種別	名称	所在地
史跡	戦闘指揮所跡	中里
史跡	ウリハー	先内
天然記念物	ヒメタツナミソウ自生地	城久
有形民俗文化財	「５つかめ」伝承の陶磁器	赤連

■徳之島町

種別	名称	所在地
有形文化財(古文書)	ノロの免状及び関係文書	亀津
有形文化財(古文書)	奥山家系図	井之川
有形文化財(古文書)	宗門手札改帳	井之川
有形文化財(工芸品)	トンダフー式	亀津
天然記念物	溶樹の巨木	山
有形文化財(工芸品)	琉球漆器	亀津
有形文化財(古文書)	郷士格免許辞令書	井之川
有形文化財(工芸品)	トンダフー式	花徳
有形文化財(歴史資料)	宗門手札	井之川
無形民俗文化財	亀津浜おどり	亀津
無形民俗文化財	尾母浜おどり	尾母
無形民俗文化財	井之川夏目おどり	井之川
無形民俗文化財	手々民芸	手々
有形文化財(歴史資料)	高千穂神社	亀津
有形文化財(歴史資料)	菅原神社	亀津
有形文化財(歴史資料)	松原神社	亀津
有形文化財(歴史資料)	護国神社	亀津
有形文化財(歴史資料)	穴八幡神社	亀津
有形文化財(歴史資料)	秋葉神社	亀津
有形文化財(歴史資料)	秋津神社	亀徳
有形文化財(歴史資料)	白峯神社	徳和瀬
有形文化財(歴史資料)	八幡神社	井之川
有形文化財(歴史資料)	蛭子神社	井之川
史跡	古勝森	亀津
有形民俗文化財	アムトガナシ	井之川
有形民俗文化財	アムトガナシ	井之川
有形民俗文化財	カンジャ神さん	井之川
有形民俗文化財	カンジャ神さん	井之川
有形民俗文化財	カンジャ神さん	井之川
有形民俗文化財	屋敷神さん	井之川
有形民俗文化財	テンナゴ屋敷の力石神さん	井之川
有形民俗文化財	フーシンコ岩神さん	井之川
有形民俗文化財	チンチンガナシ	井之川
有形民俗文化財	火の神さん	井之川
有形民俗文化財	イビガナシ	井之川
有形民俗文化財	アムトガナシ	井之川
史跡	アジ墓	手々
有形民俗文化財	大八の力石	手々
無形民俗文化財	下久志棒踊り	下久志
無形民俗文化財	池間棒踊り	池間
史跡	神之嶺ウシシギャ墓	神之嶺
史跡	シキントー墓	徳和瀬

■天城町

種別	名称	所在地
有形民俗文化財	砂糖車	岡前
有形民俗文化財	千歯	岡前
有形民俗文化財	むしろ	岡前
有形民俗文化財	ばしょう布	岡前
有形民俗文化財	むし器	岡前
有形民俗文化財	とうまんだう	岡前
有形民俗文化財	あんじき	岡前
有形民俗文化財	ガスランプ	岡前
有形民俗文化財	だんぐら2点	岡前
有形民俗文化財	ばしょうがや	岡前
有形民俗文化財	牛くら3点	岡前
有形民俗文化財	トックリ	岡前
有形民俗文化財	かんざし	岡前
無形民俗文化財	麦つき唄	浅間
有形文化財	西郷南州書	岡前
有形文化財	高倉	天城
有形文化財	荷車	天城
有形文化財	田しきいざい	天城
有形文化財	畑しきいざい3点	天城
有形文化財	マーガ	天城
有形文化財	シルチャ	天城
有形文化財	なかもち	天城
有形文化財	ちゃふりおけ	天城
有形文化財	ちょうのう	天城
有形文化財	カメ	天城
有形文化財	ウス2点	天城
有形文化財(工芸品)	杉戸	西阿木名
有形文化財	綿刻画	
無形民俗文化財	田植え歌	
無形民俗文化財	7月踊り	

■伊仙町

種別	名称	所在地
有形文化財(建造物)	高倉	伊仙
有形文化財(建造物)	高倉	阿三
有形文化財(彫刻)	禅像坐像	伊仙
有形文化財(彫刻)	仏像	伊仙
無形民俗文化財	八月踊り	喜念・目手久
無形民俗文化財	犬田布手踊り	犬田布
無形民俗文化財	イッサンサン(秋餅もらい)	犬田布
無形民俗文化財	前原口説	徳之島一円
無形民俗文化財	てんちゅうあもれ口説	伊仙
史跡・名勝	喜念浜一帯	喜念
史跡・名勝	喜念権現新田神社	喜念
史跡・名勝	面縄高千穂神社	面縄
史跡・名勝	検福穴八幡	検福
史跡・名勝	義名山の森	伊仙
史跡・名勝	みょうがん山	犬田布
史跡・名勝	犬田布岬	犬田布
史跡・名勝	暗川	小島
史跡	古井戸	東面縄
史跡	面縄按司城跡	面縄

種別	名称	所在地
史跡	面縄村外16村戸長役場跡	面縄
史跡	蔵屋敷跡	面縄
史跡	面縄第二貝塚	面縄
史跡	犬田布前泊西貝塚	犬田布
史跡	てんちゅうあもれ伝説の地(ナーマンゾウガナシ)	伊仙
天然記念物	でいごの大木4本	面縄
天然記念物	ガジュマル(老木)2本	伊仙
史跡	面縄第一貝塚	面縄
史跡	佐弁西ミヤド遺跡	佐弁
史跡	前泊浜下り洞窟	犬田布
史跡	花津川泊浜下り洞窟	東伊仙
史跡	面縄泊東浜浜下り洞窟	面縄
有形民俗文化財	中国陶器(青磁碗)	伊仙
有形民俗文化財	中国陶器(青磁碗)	伊仙
無形民俗文化財	中山地域における田植え歌と踊り	中山
史跡	アマングスク遺跡	木之香太野

■和泊町

種別	名称	所在地
有形文化財(建造物)	九本柱高倉	根折
有形文化財(絵画)	南洲翁肖像	西原
有形文化財(絵画)	狩野常信	和泊
有形文化財(工芸品)	世得堂	和泊
有形文化財(工芸品)	柱掛(2)	和泊
有形文化財(書跡)	川口雪篷の掛け軸	西原
有形文化財(書跡)	川口雪篷の掛け軸	西原
有形文化財(書跡)	川口雪篷の掛け軸	西原
有形文化財(書跡)	西郷南洲の掛け軸(2対)	和泊
有形文化財(書跡)	西郷南洲の掛け軸(2対)	喜美留
有形文化財(古文書)	世之主かなし由緒書	和泊
有形文化財(古文書)	在与中日記	上手々知名
有形文化財(古文書)	誥役系圓在番所	和泊
有形民俗文化財	ノロの遺品	畦布
有形民俗文化財	ノロの遺品	国頭
有形民俗文化財	西郷南洲遺品	国頭
無形民俗文化財	遊び踊り	手々知名
無形民俗文化財	獅子舞	畦布
無形民俗文化財	せんする節	畦布
無形民俗文化財	忍び踊り	国頭
無形民俗文化財	竿打踊(五尺踊)	国頭
無形民俗文化財	収納米踊り	永嶺
無形民俗文化財	やっこ	国頭
無形民俗文化財	仲里節	玉城
史跡	世之主の城跡	内城
史跡	後蘭孫八の城跡	後蘭
遺跡	畦布北海岸の古墳	畦布
天然記念物	国頭小学校の溶樹	国頭
名勝	瀬名半崎黒瀬付近一帯	瀬名
名勝	喜美留笠石一帯	喜美留
名勝	国頭の美瀬の浜一帯	国頭
名勝	国頭フーチャ	国頭

■知名町

種別	名称	所在地
天然記念物	水連洞	大勘津
天然記念物	沖泊アダンの自然林	新城
天然記念物	大勘津海岸ビーチロック	大勘津
天然記念物	瀬利覚・知名・小米の海岸サンゴ礁	瀬利覚・知名・小米
天然記念物	大山ヘゴの自然林	大山
天然記念物	永良部洞	大山
有形文化財(建造物)	九本柱の高倉	大山
有形民俗文化財	住吉福永家のノロの遺品	住吉
有形民俗文化財	瀬利覚林家のノロの遺品	知名
有形民俗文化財	ジョッキョヌホー	瀬利覚
無形民俗文化財	久志検チンカラ踊り	久志検
無形民俗文化財	瀬利覚の獅子舞	瀬利覚
無形民俗文化財	正名ヤッコ踊り	正名
無形民俗文化財	西目イシシハカマ踊り	上城校区
史跡	屋者琉球式墳墓	屋者
史跡	屋子母セージマ墳墓跡	屋子母
史跡	アーニマガヤトゥール墓	赤嶺
史跡	新城花窪ニャート墓	新城
史跡	浜倉	屋子母
史跡	中甫洞穴	久志検
史跡	住吉貝塚	住吉
名勝	田皆カルスト地帯	田皆

■与論町

種別	名称	所在地
天然記念物	供利一本松	立長
天然記念物	大道那太遺物・遺跡(舟置き石)	朝戸
天然記念物	大道那太遺物・遺跡(力石)	朝戸
天然記念物	屋川(ヤゴー)	麦屋
天然記念物	アマンジョウ	麦屋
史跡	与論城跡	立長
史跡	赤崎ウガン	麦屋
史跡	赤崎ウガン	麦屋
有形文化財(建造物)	大道那太遺物・遺跡(母屋)	朝戸
有形文化財(建造物)	大道那太遺物・遺跡(高倉)	朝戸
有形文化財(工芸品)	大道那太遺物・遺跡(手水鉢)	朝戸
有形文化財(工芸品)	大道那太遺物・遺跡(刀入れ箱)	朝戸
有形文化財(工芸品)	大道那太遺物・遺跡(着物入れ櫃)	朝戸
有形文化財(工芸品)	櫃	麦屋
有形文化財(古文書)	古文書	麦屋
有形文化財(古文書)	古文書	立長
有形文化財(古文書)	古文書	茶花
有形文化財(古文書)	古文書	麦屋
有形文化財(古文書)	家系図	麦屋

（2） 年中行事（例）

月	日	行事	内容
1月	1日	正月 火の神様遊びの日	新年を祝う。若水汲み
	2日	大工の神祭り 船祝い	大工、山仕事等の人が無事息災を祈る 漁業者が無事息災を祈る
	16日	16日遊びの日	山に行かず一日中何もしない日（山の神の日）
		アクニチ	年中で最も悪い日。山海仕事等は休み慎んで過ごす。
	18日	引き揚げ	正月行事の終わり
	13・15・17・23・24・25・28	お月待ち（神様拝み）	月の出を拝む。家族の健康と安全を祈願する。
	癸酉の日	浴み川の神様拝み	水の神様を拝む
2月	初壬（みずのえ）の日	ウムケ	ノロなどがネリヤなどから神を迎える祭り
3月	3日	サンガツサンチ	女の節句（遊び日：潮干狩り）
4月	初壬（みずのえ）の日	アズィランフェー（アヅラネ	穂ばらみの季節に田にハブに来てもらい、ネズミを捕ってもらおうと祈願。（ハブ除け祈願） 長いものは集落内を持ち歩かない。
		オホリ	ノロなどがウムケに迎えた神を送り返す祭り。
	初寅（とら）or申（さる）の日	浜下れ	カメムシ等害虫駆除の日（遊び日）
	初午（うま）の日	初午（マネアソビ）	ハブを鎮めハブの難を避ける祈願の日（遊び日） 長い物を持ち歩かない。
5月	1日	火の神様遊びの日	遊び日（終日家で慎んで過ごす日）
	5日	ゴガツィグンチ	男の節句（遊び日とするところもある）
	16日	アクニチ	年中で最も悪い日。山海仕事等は休み慎んで過ごす。（山の神の日）
	13・15・17・23・24・25・28	お月待ち（神様拝み）	月の出を拝む。家族の健康と安全を祈願する。
	癸酉（ミズトリ）の日	浴み川の神様拝み	水の神様を拝む
6月	1日	万石の祝い	墓参り
	初戊（つちのえ）の日	ウチキヘイ	家や神山、共有地などを清掃
	初壬の日	新穂花(アラホバナ)	ノロたちが行う稲の初穂祭り
	中庚（なかかのえ）の日	ウフンメ	ノロたちが行う粟の初穂祭り
7月	7日	七夕	
	初壬の日	ミナクチ	ノロたちが行う稲の豊年を祈る祭り
	13～15日	盆	13日にご先祖様を迎え、15日に送る。15日夜盆踊り
	16日	盆の十六日 アクニチ	何もしない日（山へも畑へも行かない） 年中で最も悪い日。山海仕事等は休み慎んで過ごす。
8月	初丙・丁（ひのえ・ひのと）の日	アラセツ（新節）	墓参り、先祖迎え、八月踊り
	アラセツから7日目の壬（みずの）・癸（みずのと）の日	シバサシ	魔除け、八月踊り
9月	1日	火の神様遊びの日	遊び日（終日家で慎んで過ごす日）
	9日	クガツクンチ	豊年祭（海浜から採った砂の土俵で豊年相撲）、八月踊り
	16日	アクニチ	年中で最も悪い日。山海仕事等は休み慎んで過ごす。（山の神の日）
	13・15・17・23・24・25・28	お月待ち（神様拝み）	月の出を拝む。家族の健康と安全を祈願する。
	癸酉の日	浴み川の神様拝み	水の神様を拝む
10月	シバサシの次にくる甲子（きのえね）の日	ドゥンガ	改葬の日、地をあらさぬ日（地面を耕したりしない日、遊び日） 先祖祭り、墓参り
	9日	クンチマツリ	無事息災を祈願
	庚申（かのえさる）or庚（かのえ）の日	カネサル	神の散歩の日。外出しない山に行かない日
	辛未（カノヒツジ）の日	トモチ	遊び日
11月	戌（イヌ）の日	冬折目（フユルメ）	ノロたちが行う芋や野菜の豊作を祈る祭り。（山の祭り）
12月		正月準備	
毎月	巳（み）の日	ミニアシビの日	仕事を休んで家で慎んで過ごす日。ハブ除け祈願の日

※赤文字の月は、神月。

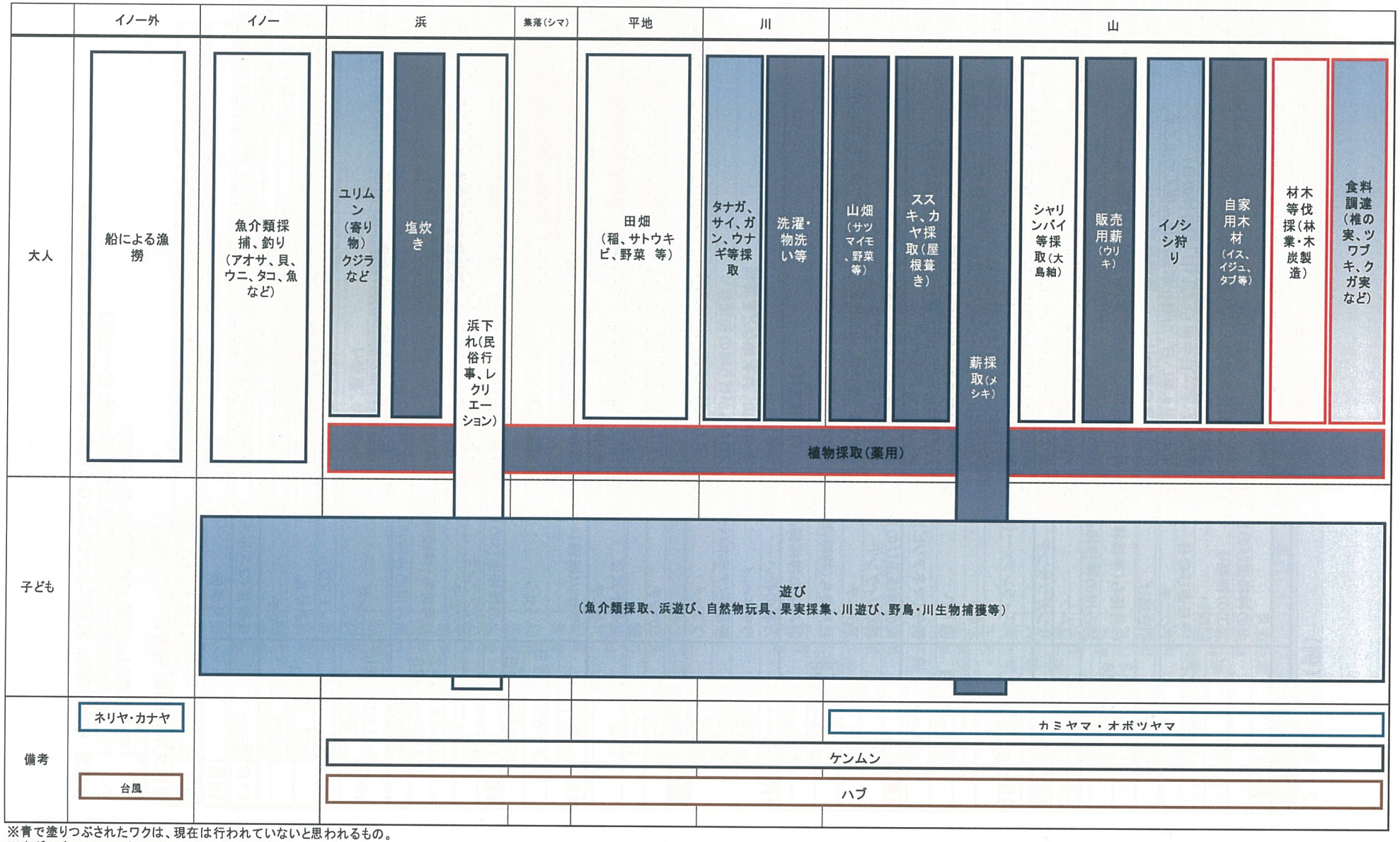
※参考文献

「奄美の暮らしと儀礼」（田畑千秋：第一書房）

「奄美の島かけろまの民俗」（鹿児島民俗学会編：第一法規）

★注意：年中行事は、集落によってもことなるため、本表の取扱には注意が必要。

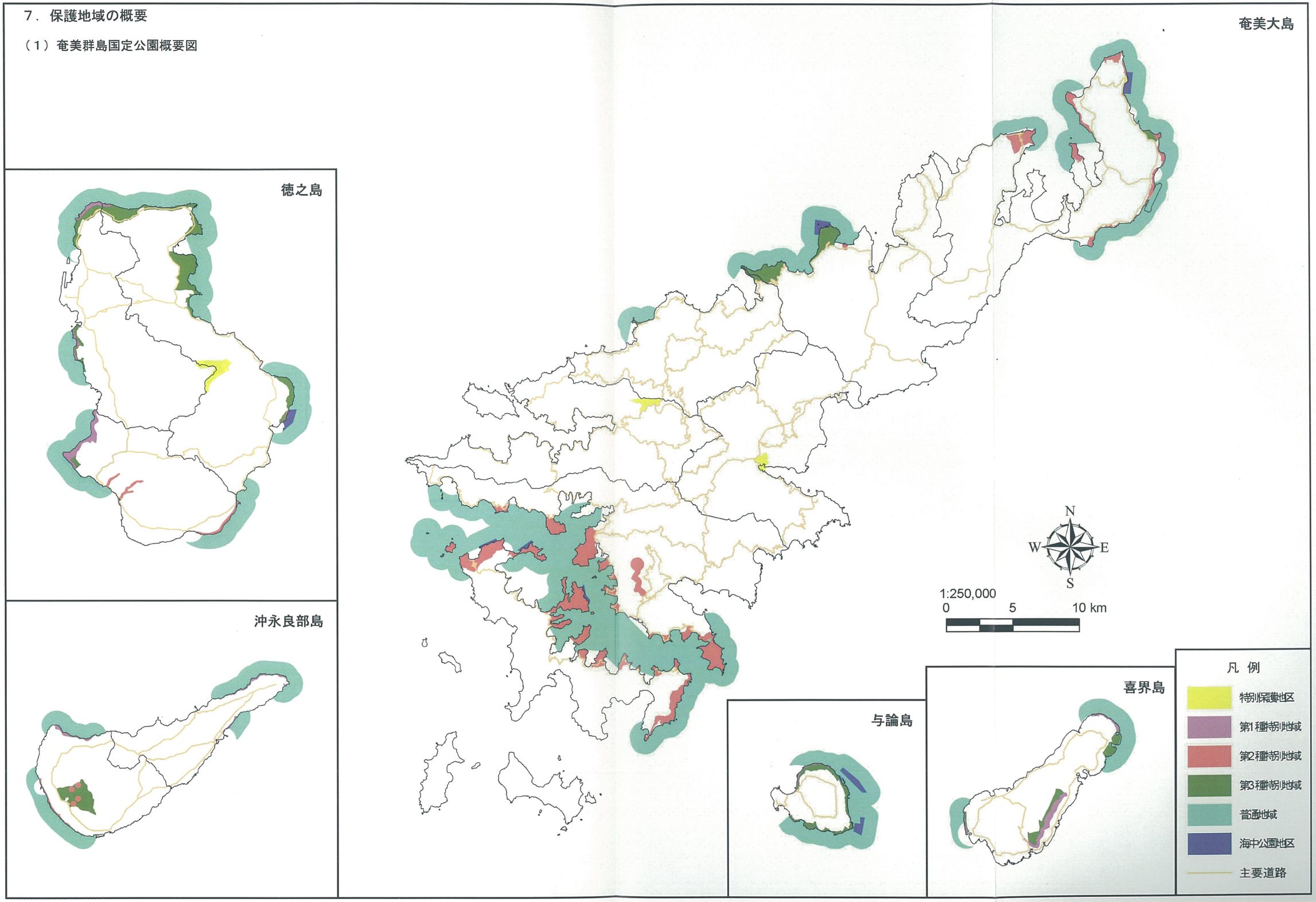
（3）奄美大島の人々の資源と空間の利用（一般的な模式図）



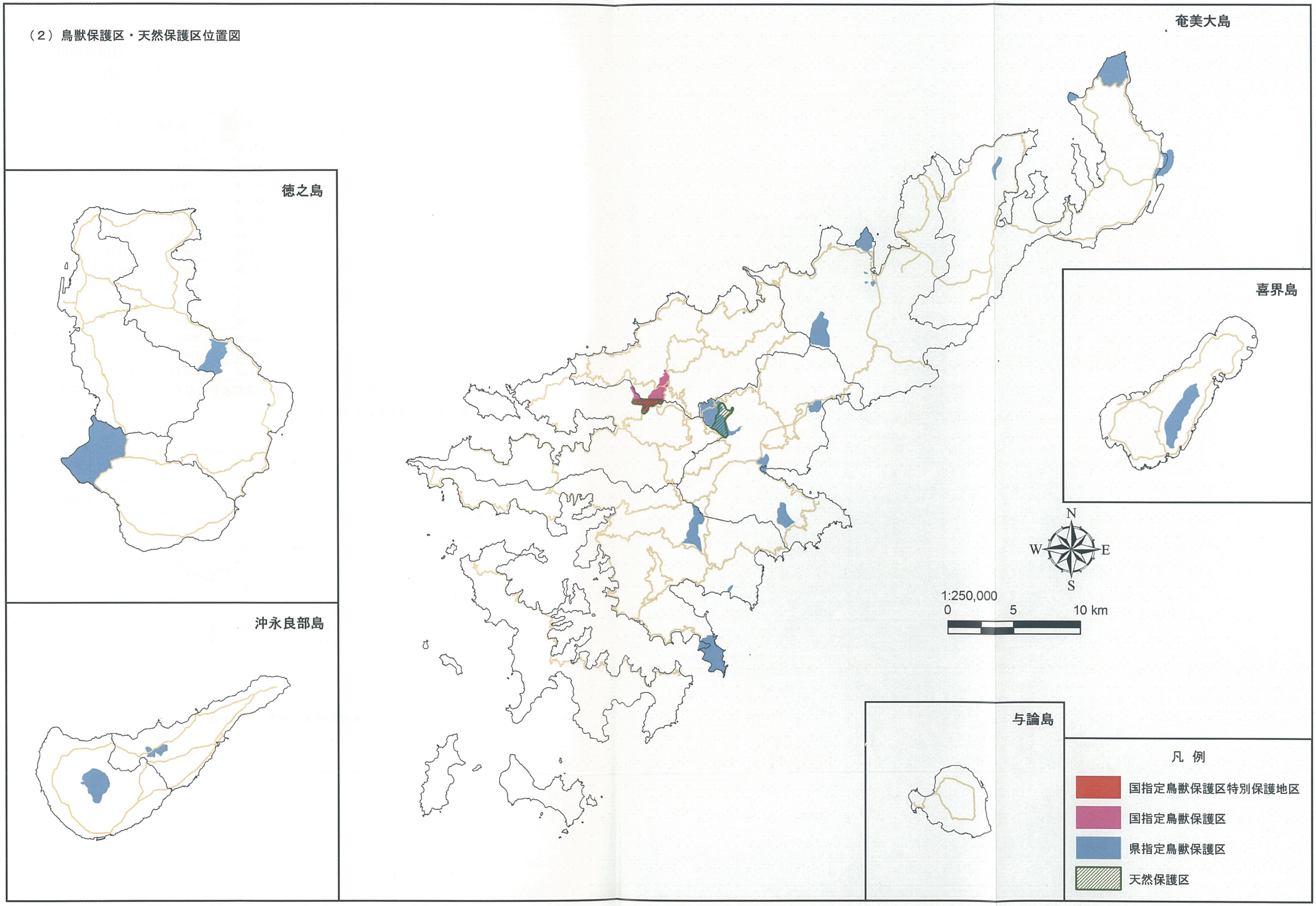
※青で塗りつぶされたワクは、現在は行われていないと思われるもの。
※青グラデーションで塗られたワクは、現在も存在しているが衰退傾向と思われるもの。
★注意：集落によって自然との関わりは異なるため、本図の取扱には注意が必要。

7．保護地域の概要

（1）奄美群島国定公園概要図



（２）鳥獣保護区・天然保護区位置図



8．観光利用の現状

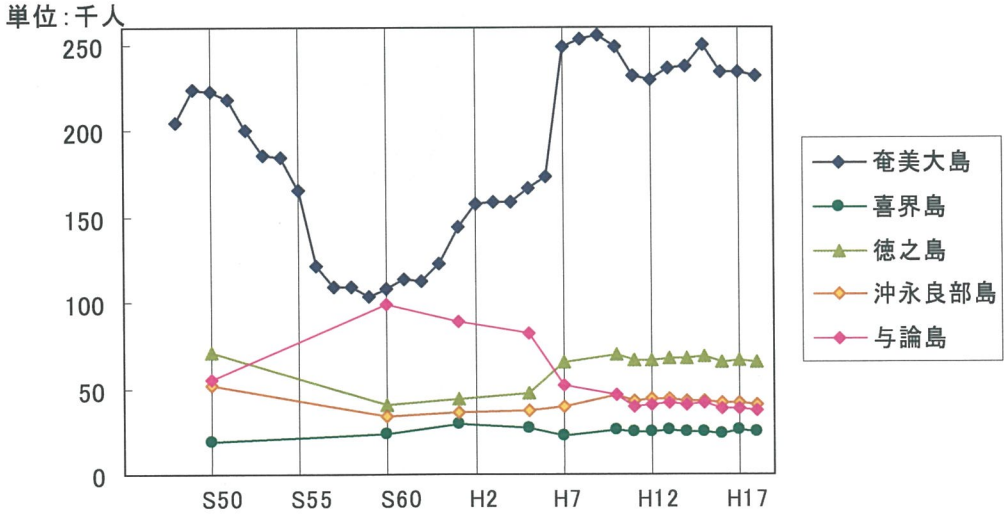
（1）観光客数の推移（島別）

単位：人

	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良部島	与論島	合計
昭和 50 年	222,436	19,275	70,733	52,315	55,177	419,936
昭和 60 年	108,014	24,017	40,505	33,426	99,447	305,409
平成元年	144,466	28,877	43,543	35,893	89,226	342,005
平成 5 年	166,152	27,362	47,442	37,115	82,114	360,185
平成 7 年	248,446	22,527	65,558	39,362	51,308	427,201
平成 10 年	249,116	26,040	69,438	46,034	45,658	406,286
平成 11 年	231,476	24,951	66,839	42,488	39,043	404,797
平成 12 年	229,108	25,067	66,364	43,974	40,859	405,372
平成 13 年	236,670	25,327	67,865	44,114	41,387	415,363
平成 14 年	237,847	25,124	67,975	43,015	40,169	414,130
平成 15 年	249,821	24,571	68,373	42,487	41,580	426,832
平成 16 年	233,832	23,829	65,386	41,890	38,674	403,611
平成 17 年	233,866	26,447	66,420	41,251	38,261	406,245
平成 18 年	232,315	24,556	65,792	40,794	37,703	401,160

（注）入込観光客（推計）：入込のうち群島民の移動を除いたもの（ビジネス客を含む）。

出典：奄美群島の概要（鹿児島県）



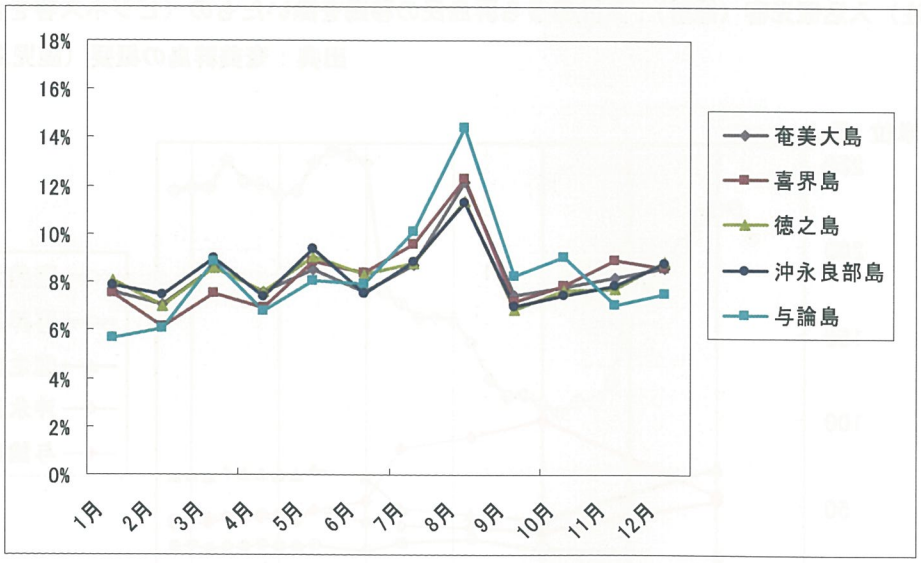
図－島別入込観光客数の推移

（２）月別入込者数（平成 19 年度）

月別 / 島別	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
奄美大島	29,970	28,015	33,929	30,026	33,618	30,139	34,450	48,029	29,601	30,894	32,447	33,959	395,077
	7.6%	7.1%	8.6%	7.6%	8.5%	7.6%	8.7%	12.2%	7.5%	7.8%	8.2%	8.6%	100.0%
喜界島	4,652	3,799	4,659	4,307	5,480	5,219	5,942	7,623	4,461	4,867	5,542	5,334	61,885
	7.5%	6.1%	7.5%	7.0%	8.9%	8.4%	9.6%	12.3%	7.2%	7.9%	9.0%	8.6%	100.0%
徳之島	11,247	9,755	12,005	10,651	12,642	11,672	12,260	15,859	9,558	10,699	10,812	12,334	139,494
	8.1%	7.0%	8.6%	7.6%	9.1%	8.4%	8.8%	11.4%	6.9%	7.7%	7.8%	8.8%	100.0%
沖永良部島	6,656	6,313	7,595	6,263	7,938	6,366	7,520	9,599	5,930	6,325	6,673	7,453	84,631
	7.9%	7.5%	9.0%	7.4%	9.4%	7.5%	8.9%	11.3%	7.0%	7.5%	7.9%	8.8%	100.0%
与論島	3,446	3,682	5,321	4,106	4,846	4,795	6,084	8,677	4,970	5,473	4,248	4,560	60,208
	5.7%	6.1%	8.8%	6.8%	8.0%	8.0%	10.1%	14.4%	8.3%	9.1%	7.1%	7.6%	100.0%
合　計	55,971	51,564	63,509	55,353	64,524	58,191	66,256	89,787	54,520	58,258	59,722	63,640	741,295
	7.6%	7.0%	8.6%	7.5%	8.7%	7.8%	8.9%	12.1%	7.4%	7.9%	8.1%	8.6%	100.0%

（注）入込：奄美群島外から群島内に入ってきた人数及び奄美群島内において各島間を移動した人数の合算。

出典：奄美群島の概況（鹿児島県）



図－島別・月別入込客数の推移

（３）主要観光施設の利用者数

■奄美パーク

年度	平成 13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
人数	169, 390	221, 151	203, 258	159, 540	141, 892	138, 930	143, 077

（注）平成 13 年 9 月に供用開始
奄美の郷と田中一村記念美術館の入園者数の合計

■「黒潮の森」マングローブパーク

年度	平成 13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
資料館	24, 943	29, 167	30, 521	29, 043	23, 936	23, 250	24, 884
カヌー	5, 883	17, 465	21, 501	20, 298	21, 079	21, 068	19, 712

（注）平成 13 年 7 月に供用開始

■大浜海浜公園

年度	平成 10 年度	11 年度	12 年度	13 年度	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
人数	193,197	175,973	162,941	111,654	139,130	167,275	145,246	128,314	95,495

（注）キャンプ場を含む

（４）宿泊施設

区分 / 市町村		軒数	収容人員	
			一般	団体
総数		221	7499	8750
奄美大島		126	3446	3978
	奄美市	54	2017	2298
	大和市	8	186	186
	宇検村	6	120	240
	瀬戸内町	44	696	800
	龍郷町	14	427	454
喜界島		17	325	441
	喜界町	17	325	441
徳之島		31	1108	1320
	徳之島町	18	644	746
	天城町	9	411	444
	伊仙町	4	53	130
沖永良部島		17	634	765
	和泊町	13	453.	573
	知名町	4	181	192
与論島		30	1986	2246
	与論町	30	1986	2246

※平成 19 年 8 月に営業中のものだけで、休業、無許可、申請中のものは含んでいない。

出典：奄美群島の概況（鹿児島県）

（5）エコツアー等の実施状況

○島別・活動分野別のエコツアー事業者数

分類 島名	①エコツアー複合事業者	②ダイビング専門事業者	③文化・生活体験専門事業者	④その他事業者	計
奄美大島	17	26	14	6	63
喜界島	0	2	0	0	0
徳之島	0	4	3	0	5
沖永良部島	0	2	1	0	3
与論島	2	6	7	1	16
計	19	40	25	7	87

※：エコツアーを「少人数・ガイド付きで自然や文化を対象とした観光利用」と定義し、エコツアー事業者を、その活動分野によって以下①～④のタイプに分けた

①エコツアー複合事業者：陸域で、あるいは海域を含めて、複合的にエコツアーを提供している事業者（トレッキング、バードウォッチング、カヌー、シュノーケリング、車両を用いた自然観察等）

②ダイビング専門事業者：ダイビングだけを提供している事業者

③文化・生活体験事業者：文化・生活体験だけを提供している事業者

④その他事業者：グラスボート事業者など

出典：平成19年度奄美群島自然資源等利用方策検討調査（鹿児島県）

○奄美大島陸域におけるツアー等の利用状況

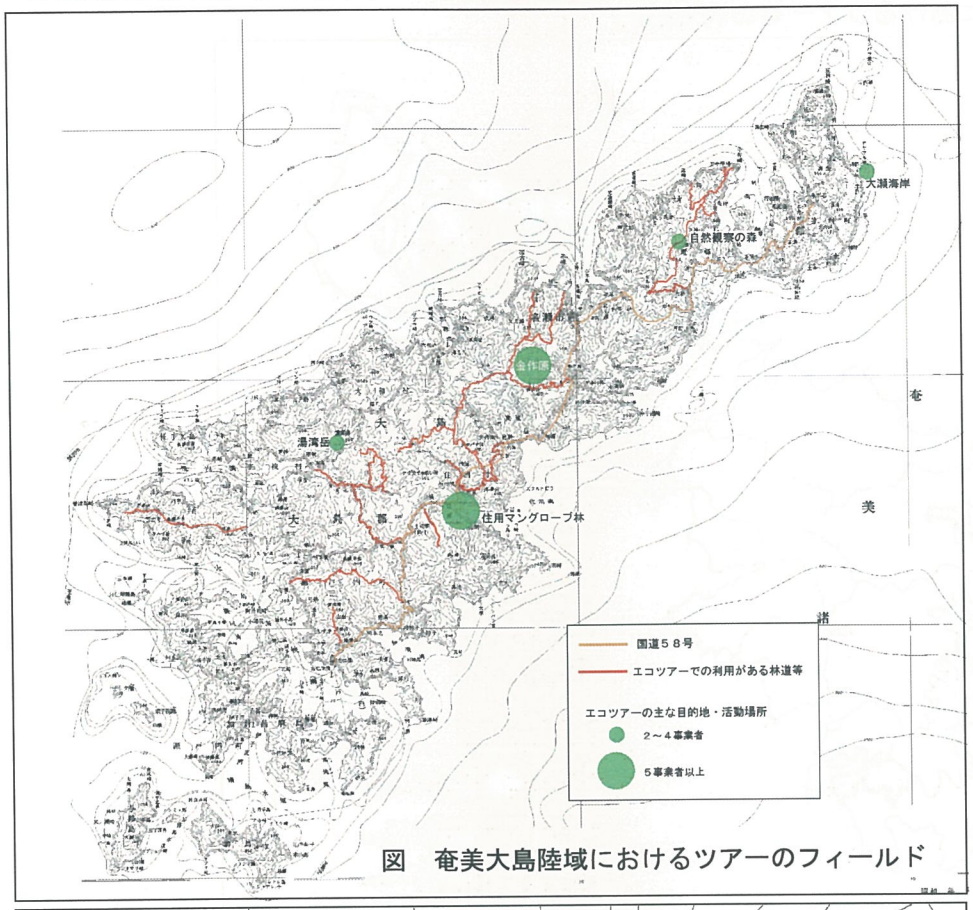


図　奄美大島陸域におけるツアーのフィールド

※左図以外にも各集落等、多くの箇所で自然体験型活動が実施されている

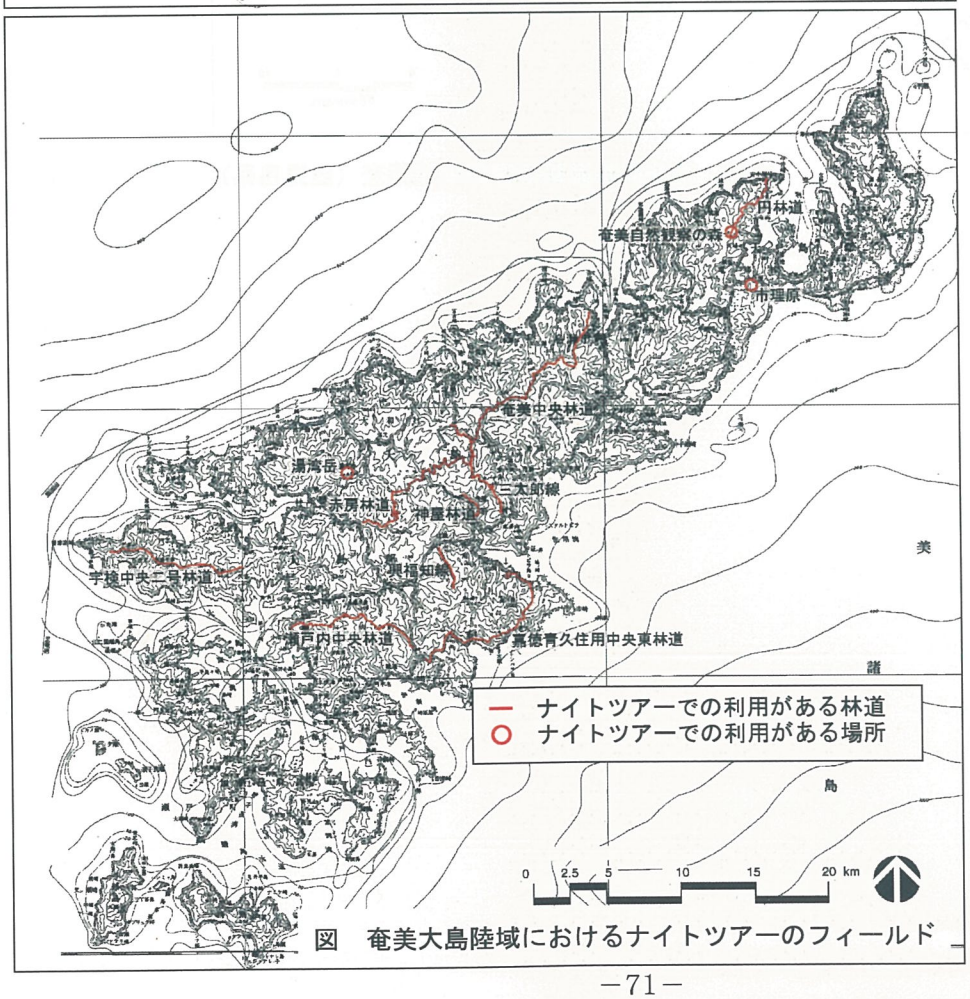
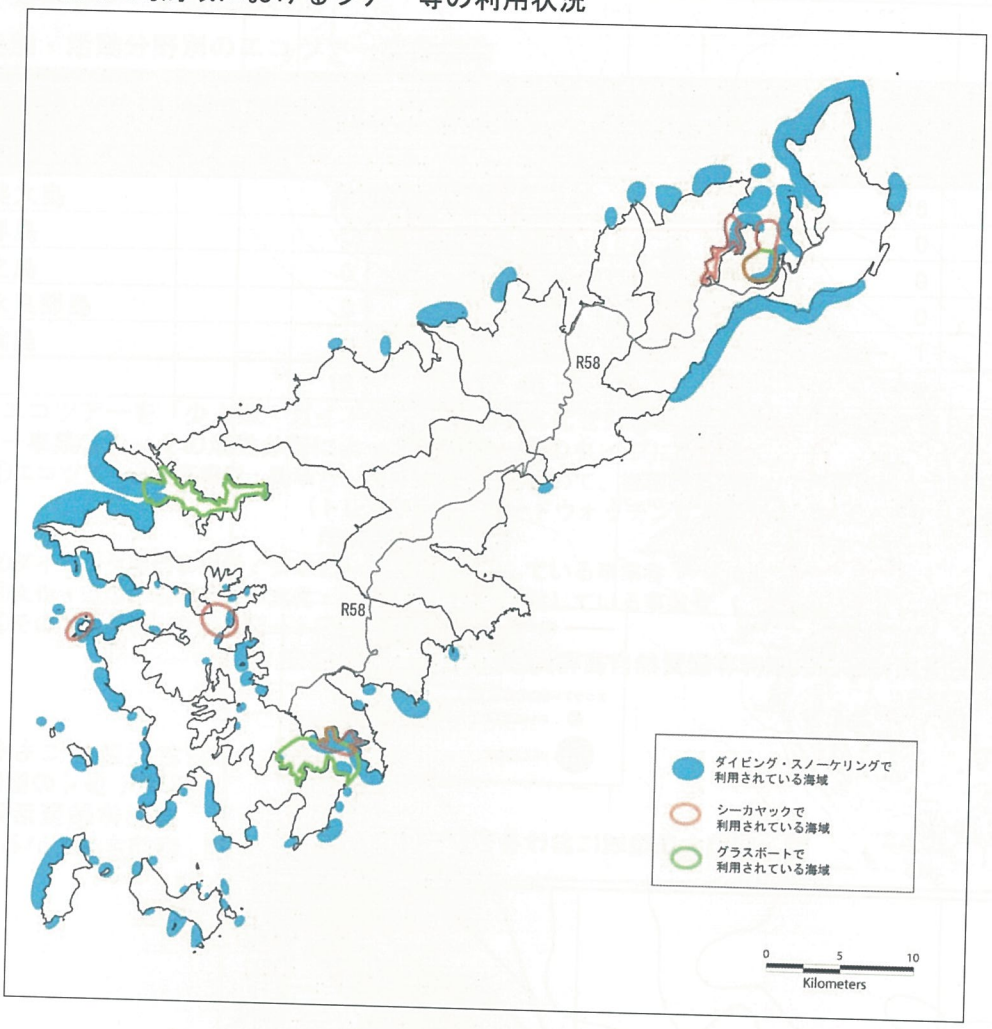


図　奄美大島陸域におけるナイトツアーのフィールド

出典：平成19年度奄美群島自然資源等利用方策検討調査（鹿児島県）

○奄美大島海域におけるツアー等の利用状況



出典：奄美群島重要生態系地域調査（鹿児島県）